
白井市

第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画策定に
向けての基礎調査報告書

令和5年7月

白井市

目次

1 アンケート調査の実施概要	1
2 アンケート調査結果の概要	2
2-1 身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者(18歳以上)	2
2-2 障がい児(18歳未満)	5
3 アンケート調査の結果詳細(身体・知的・精神障がい者)	10
3-1 回答者の属性	10
(1) アンケートの記入者	10
(2) 性別と年齢(令和5年1月1日現在)	10
3-2 障がい者の状況	11
(1) 障がいの等級や種類など	11
(2) 障がい支援区分	14
(3) 介護保険の要支援・要介護認定	14
(4) 難病(特定疾患)認定の状況 ※回答者:身体・知的障がい者	15
(5) 発達障害の診断状況 ※回答者:身体・知的障がい者	15
(6) 高次脳機能障害の診断状況 ※回答者:身体・知的障がい者	16
(7) 現在受けている医療ケア	16
3-3 暮らし・介助の状況	17
(1) 現在の暮らし	17
(2) 今後の暮らしの希望	18
(3) 身の回りの介助や支援の状況	20
3-4 外出について	22
(1) 外出する時の交通手段	22
(2) 外出の際に困っていること	22
3-5 新型コロナウイルスの影響について	24
(1) 新型コロナウイルスの感染症の流行に関して、起きたことや困ったこと	24
3-6 医療受診	25
(1) 精神科や心療内科などの医療機関に初めて受診するのに苦労したこと	25
3-7 保健福祉サービスについて	27
(1) 障害福祉サービスの利用状況と今後3年間の利用予定	27
(2) 地域移行支援・地域定着支援の利用希望	28

(3) 市の障害福祉サービスの利用状況と今後 3 年間の利用予定	29
(4) 利用を希望しているが利用していないサービス	30
4 自由意見（身体・知的・精神障がい者）	32
5 アンケート調査の結果詳細（障がい児）	39
5-1 回答者の属性	39
(1) アンケートの記入者	39
(2) お子さんの性別と年齢（令和5年1月1日現在）	39
5-2 お子さんの状況.....	40
(1) 障がいの等級や種類など	40
(2) 医療的ケアが必要なお子さんに対する支援	43
5-3 外出について	45
(1) お子さんが外出する時の交通手段	45
(2) お子さんの外出に関して困っていること	46
5-4 住まいや暮らしについて	47
(1) どなたと一緒に暮らしているか	47
(2) 保護者の就労と困っていること	47
(3) 身の回りの介助や支援の状況.....	49
5-5 家族に対する支援について	51
(1) 家族が学ぶ機会	51
(2) 子育てや発達の相談先	53
5-6 新型コロナウイルスの影響について	54
(1) 新型コロナウイルスの感染症の流行に関して、起きたことや困ったこと.....	54
(2) 代替支援の利用状況と、今後の必要性.....	55
5-7 保健福祉サービス・施設サービスについて	55
(1) 療育施設の利用状況	55
(2) 療育施設や行政に充実を求めること	58
(3) お子さんのサービス利用状況や、今後 3 年間の利用の予定	59
(4) 利用を希望しているが利用していないサービス	60
(5) 今後 3 年以内に利用したいサービス	62
(6) 現在受けている教育・保育・医療等.....	63
(7) 今後 3 年間で利用したい 18 歳以上から利用できるサービス	64
6 自由意見（障がい児）	65

7	ヒアリング調査 調査概要	72
8	ヒアリング調査結果の概要	74
	しょうがいふくしだんたい ひありんぐけっか おも いけん がいよう	
8-1	障害福祉団体からのヒアリング結果(主な意見の概要)	74
	しょうがいふくしきさーびすじぎょうしゃ ひありんぐけっか おも いけん がいよう	
8-2	障害福祉サービス事業者からのヒアリング結果(主な意見の概要)	76
9	ヒアリング調査結果詳細	79
9-1	障がい福祉団体.....	79
	(1) 白井市視覚障害者白井あゆみの会	79
	(2) 白井市身体障害者友の会「にこにこ」	81
	(3) 白井市聴覚障害者協会(友の会)	82
	(4) いちごの会.....	83
	(5) 白井市手をつなぐ育成会.....	85
	(6) 白井市精神障害者家族会しらゆりの会	87
9-2	障害福祉サービス事業所	89

第1編 アンケート調査 結果報告書

Ⅰ アンケート調査の実施概要

■調査の目的

本調査は「第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画」策定に向けて、障害福祉サービス等（障害福祉サービス、相談支援、地域生活支援事業及び障害児支援サービス）のそれぞれについて、種類ごとの潜在ニーズを把握することと、より効果的・効率的な障害福祉サービス等の実施に向け、利用者等の意見や生活の様子を把握することを目的に実施しました。

■調査の実施概要

調査は、各障害者手帳所持者（無作為抽出）および障害児通所支援支給決定児（全数）を対象に実施しました。各調査の対象者、方法、回収結果等は次のとおりです。

区分	身体障がい者	知的障がい者	精神障がい者	障害児通所支援支給決定児	通算
対象者数(人)	580	114	201	294	1,189
回答数	338	54	100	157	649
回収率(%)	58.3	47.3	49.8	53.4	54.6

■調査方法

郵送による配布、回収

■調査期間

令和5年1月5日(木)～令和5年1月25日(水)※集計には、2月7日までの返送を含めた。

■報告書を見る際の留意点

●回答率について

- ・比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。このため、比率の合計は100%とならない場合があります。
- ・基数となる実数は、グラフ中に「回答者」として掲載し、各グラフの比率は「回答者」数を母数とした割合を示しています。
- ・1人の回答者が複数回答することができる設問（複数回答）では、比率の合計が100%を超えることがあります。

●表記について

- ・選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。
- ・文章中で選択肢を引用する場合は「 」を用いています。
- ・「障害」という言葉の表記について、可能な限り「がい」とひらがなで表記するようにしています。

ただし、国の法令・地方公共団体等の条例・規則等に基づく用語や他文献からの引用、診断名、固有名詞などについては、従来どおり漢字の「害」を使っています。

このため、本報告書も「がい」と「害」の字が混在する表記になっています。

2 アンケート調査結果の概要

2-1 身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者（18歳以上）

詳しくは10～17ページ

【回答者について】

- ▶身体障がい者の約3割が介護保険の認定をもっています。
- ▶知的障がい者の約3.5割が、発達障害の診断を受けたことがあります。
- ▶受けている医療的ケアで多いのは、「継続的な透析」「薬剤の持続投与」「モニター測定」となっています。

- 介護保険の認定は、身体障がい者の約3割が受けています。身体障がい者については、65歳以上の高齢者が多いことから、介護保険の認定者が多いものと考えられます。利用している介護保険のサービスは、デイサービス・デイケアでした。
- 発達障害については、知的障がい者の34.5%が「診断されたことがある」と回答されました。高次脳機能障害については、身体障がい者の2.6%が「診断されたことがある」と回答されました。医療的ケアについては、身体障がい者の約3割、知的障がい者の約1割が受けている状況にあります。受けている医療的ケアとしては、「継続的な透析」「薬剤の持続投与」「モニター測定」が多くなっています。

詳しくは17ページ

【現在の暮らし】

- ▶身体・知的・精神障がい者の大半が、ご家族と暮らしています。
- ▶ひとり暮らしをしているのは、身体障がい者の約12%、知的障がい者の約2%、精神障がい者の約7%です。
- ▶知的障がい者の約9%がグループホームで暮らしています。

- 身体・知的・精神障がい者のいずれも、8割～9割の方がご家族と暮らしています。ひとり暮らしについては、身体障がい者の11.6%、知的障がい者の1.6%、精神障がい者の7.1%となっています。知的障がい者の9.1%が、グループホームで生活されています。

詳しくは18～19ページ

【今後3年間の暮らしの希望・必要なお手伝い】

- ▶今後3年以内の暮らしの希望としては、身体・知的・精神障がい者の多くが、「今のままで良い」と考えています。知的障がい者の約15%が「同じ障がいのある人と、グループホームなどで暮らしたい」と回答されています。

- ▶希望する暮らしをかなえるために必要なお手伝いとしては、身体障がい者は、「特にない」との回答が最も多く、知的・精神障がい者については、「日々の相談に乗ってくれる人の存在」が最も多くなっています。

- 今後3年以内の暮らしの希望としては、身体・知的・精神障がい者のいずれも、6割～7割の方が「今のままで良い」と回答されています。他には、身体障がい者の11%が「親族の介助や、在宅福祉サービスを利用して、家庭で生活したい」、知的障がい者の15%が「同じ障がいのある人と、グループホームなどで暮らしたい」、精神障がい者の17%が「親族だけに世話をしてもらって、家庭で生活したい」と考えておられ、比較的割合が高くなっています。
- 今後の希望する暮らしを実現するために、必要な支援としては、身体障がい者については、「必要な支援は特にない」との回答が最も多く、知的・精神障がい者については、「日々の相談に乗ってくれる人の存在」が最も多くなっています。その他、「家事の手助け」や「日中の通いの場」を希望する声も多くなっています。

詳しくは20～21 ページ

【身の回りの介助者】

- ▶身の回りの介助者は、身体障がい者では配偶者が、知的・精神障がい者は親が最も多くなっています。
- ▶介助者の年齢は、身体障がい者については75歳以上が他の障がいより多くなっています。23歳未満、15歳未満という、若い世代の介助者もいます。
- ▶介助者について心配な点は、介助者に身体の衰えがあるという回答が最も多くなりました。

- 身の回りの介助者は、身体障がい者では配偶者が、知的・精神障がい者は親が最も多くなっています。
- 介助者の年齢は、身体障がい者では75歳以上が約3割となっています。23歳未満の介助者は、身体障がい者の2.1%、知的障がい者の12.1%、精神障がい者の7.5%にあり、精神障がい者については、2.5%が15歳未満となっています。
- 介助者について心配な点を伺ったところ、身体・知的・精神障がい者のいずれも、「介助者に身体の衰えがある」が最も多くなりました。「介助者が、仕事や学校を休むほか、遅刻・早退する必要がある」という状況も、約1割～2割の方にみられました。

詳しくは22～23 ページ

【外出について】

- ▶外出の際に困っていることについては、「困っていることは特にない」が最も多かったです。
- ▶次に困っていることは、「移動にかかる費用が高い」「心身の障がいや病状のため、電車・バスなどへの乗車が困難」ということでした。

- 外出の時の交通手段は身体・知的・精神障がい者のいずれも、「徒歩」「自家用車(乗せてもらう)」「電車」が比較的多くなっています。身体障がい者については、自家用車(自分で運転)やオートバイの回答が他の障がいより比較的多い一方で、コミュニティバスナッシー号や路線バスの利用が比較的少なくなっています。
- 外出の際に困っていることについては、いずれの障がい者も、「困っていることは特にない」が最も多く、次いで多かったのは、「移動にかかる費用が高い」でした。「その他」を除いて、次に多かったのは、「心身の障がいや病状のため、電車・バスなどへの乗車が困難」という回答でした。

【新型コロナウイルスの流行で起きたこと・困ったこと】

▶新型コロナウイルスの流行で起きたこと・困ったこととしては、「家族・親戚・友人などに会う機会が減った」・「外出の頻度が少なくなった」が最も多かったです。

▶精神障がい者については、「不安を強く感じたり、いらいらした」「検査やワクチンを受けるのに苦労した」との困りごとと比較的多くみられました。

- 新型コロナウイルスの感染症の流行に関して起きたこと、困ったこととしては、身体・知的・精神障がい者のいずれも、「家族・親戚・友人などに会う機会が減った」・「外出の頻度が少なくなった」との回答が多数となりました。精神障がい者については、「不安を強く感じたり、いらいらした」「検査やワクチンを受けるのに苦労した」との困りごとと比較的多くみられました。

【精神科や心療内科に初めて受診するのに苦労したこと】

▶精神科や心療内科などの医療機関に初めて受診するのに苦労したことについては、「気持ち面の抵抗が強かった」が最も多く、次に「医療機関が遠くて受診が難しかった」ということでした。

- 精神障がい者に、精神科や心療内科などの医療機関に初めて受診するのに苦労したことについて伺ったところ、「気持ち面の抵抗が強かった」との回答が46.0%で最も多く、次いで「医療機関が遠くて受診が難しかった」が多くなりました。

【今後3年以内の障害福祉サービスの利用について】

▶新たに利用予定のサービスとしては、短期入所（ショートステイ）、自立訓練（機能・生活訓練）、日中一時支援事業、地域活動支援センター、福祉タクシー事業があげられました。

▶利用を希望しているが利用していないサービスとしては、福祉タクシー事業、短期入所（ショートステイ）、地域活動支援センターがあります。

▶利用を希望しているが利用していない理由は「利用の基準にあてはまらず利用できないため」ということのほか、「利用の手続きが分からず利用できないため」という理由もありました。新型コロナウイルスで利用を控えていた、という回答もありました。

- 障害福祉サービス・地域生活支援事業の利用状況と、今後3年間の利用予定としては、「新たに利用予定」とのサービスで多かったものが、短期入所（ショートステイ）、自立訓練（機能・生活訓練）、日中一時支援事業、計画相談支援でした。
- 地域移行支援の利用希望は、身体障がい者で5.0%、知的障がい者で14.5%、精神障がい者で11.0%

の方が「新たに利用したい」と回答されました。地域定着支援の利用希望は、身体障がい者で7.4%、知的障がい者で14.5%、精神障がい者で15.0%の方が「新たに利用したい」と回答されました。

- 市の障害福祉サービスの利用状況と今後3年間の利用予定について、「新たに利用予定」との回答が多かったサービスは、地域活動支援センター、福祉タクシー事業でした。
- 利用を希望しているが、利用していないサービスについては、身体障がい者の12.7%、知的障がい者の21.8%、精神障がい者の約24.0%で「ある」との回答でした。利用を希望しているが利用していないサービスは、「福祉タクシー事業」が23.5%で最も多く、次いで「短期入所」「地域活動支援センター」となりました。
- 利用希望があるが利用していないサービスがあると回答した方について、利用していない理由を伺いました。身体障がい者については、「利用の基準にあてはまらず利用できないため」が最も多く、30.6%でした。知的障がい者については「その他」が最も多く、精神障がい者は、「利用の基準にあてはまらず利用できないため」「利用の手続きが分からず利用できないため」「サービスがあることを知らなかったため」との回答が多いという結果になりました。「その他」の理由としては、新型コロナウイルスの影響で利用を控えていた、ニーズにあう事業者がなかったなどがありました。

2-2 障がい児（18歳未満）

今回、障害児通所給付決定を受けているお子さんを対象に調査を行いました。手帳を所持しているお子さんや、発達に課題があり、支援の必要なお子さんが対象となっており、以下、「障がい児等」「お子さん」等と記載いたします。

詳しくは39~44ページ

【対象となっている障がい児等について】

▶約1割が身体障害者手帳を持っています。

▶3.5割が療育手帳を持っています。

▶約半数が発達障害の診断をされたことがあります。

▶約1割が医療的ケアを受けています。

- 身体障害者手帳は、約1割のお子さんが持っています。障がいの内容としては、「肢体不自由（下肢）」が最も多く71.4%、次いで「肢体不自由（体幹）」が57.1%でした。
- 身体障害者手帳を持っている14人のうち、医療的ケアを受けているのは6人でした。
- 3.5割のお子さんが、療育手帳を所持していると回答されました。最も多い等級は「Bの2」で45.5%でした。
- 48.4%が発達障害と「診断されたことがある」と回答されました。
- 医療的ケアについては、8.9%が受けている状況にあります。受けている医療的ケアとしては「排泄のケア」が最も多く、次いで「呼吸のケア」「摂食・嚥下のケア」「薬剤の持続的な投与などの特別なケア」でした。

がいしゅつ
【外出について】

がいしゅつじ しゅだん と ほ じかようしゃ かいどう おおく 8わりいじょう
▶外出時の手段は、徒歩・自家用車との回答が多く、それぞれ8割以上でした。

がいしゅつ かんして こまっぺ とく もっともおおかった
▶外出に関しては、「困っていることは特にない」が最も多かったです。

- 外出時の手段は、「徒歩」「自家用車」「電車」「自転車」の回答が多くみられました。
- 困っていることは、「困っていることは特にない」が51.6%ですが、療育・病院への送迎を家族が行っていることや、常に通学への付添が必要であることもあがっています。

げんざい くらし
【現在の暮らし】

ぜんいん ごかぞく くらして
▶全員がご家族と暮らしています。

ほごしゃ ともばたらき ごかてい やく6わり
▶保護者が共働きしているご家庭は約6割です。

ほごしゃ はたらいて あいだ がっこう ほうかごとうでいさーびす すごして こ やくはんすう
▶保護者が働いている間は学校や放課後等デイサービスで過ごしているお子さんが約半数です。

ほごしゃ しゅうろう かんして こまり いちばんおおかった りょういく つうがく つういん すけじゅーる
▶保護者の就労に関する困りごとで一番多かったものは、療育・通学・通院とのスケジュール調整でした。

- 一緒に暮らしている人は「父」93.6%、「母」98.7%と回答されました。次いで、兄弟姉妹が71.3%でした。
- 保護者の就労状況は、「父(又は母)がフルタイム勤務、母(又は父)がパート・時短勤務」が43.9%と最も多くなっています。「両親ともにフルタイム勤務」との回答は15.3%でした。
- 保護者の就労に関する困りごととしては、療育・通学・通院とのスケジュール調整と回答された方が32.5%でした。その他、子どもが病気の時や土日祝日の預け先がないとの声も多くあがっています。

み まわり かいじょしゃ
【身の回りの介助者】

み まわり かいじょ ひつよう こ やく6わり
▶身の回りの介助が必要なお子さんは約6割です。

かいじょしゃ おや もっとも
▶介助者は、親が最も多くなっています。

かいじょしゃ ねんれい 23さいいじょう64さいみまん もっともおおく
▶介助者の年齢は23歳以上64歳未満が最も多くなっています。

かいじょ しんぱい てん うかがった しんぱい てん とく やく4わり もっともおおく
▶介助について心配な点を伺ったところ、「心配な点は特にない」が約4割で最も多くなっています。

- 介助者は、親が最も多くなっています。兄弟姉妹という回答も2割以上ありました。
- 介助者の年齢は23歳以上64歳未満が9割以上を占めていますが、15歳未満という回答も1割以上ありました。
- 介助者について心配な点を伺ったところ、「心配な点は特にない」という回答が最も多く、次いで多かったのは「介助者が仕事や学校を休むほか、遅刻や早退する必要がある」という回答でした。

【家族に対する支援】

- ▶子どもとの関わりを学ぶ場が必要と考えている方は約7割です。
- ▶学ぶ場が必要と考えている人のうち、実際に学ぶ場に参加したことがある方は約4割です。
- ▶学ぶ場に参加するために必要な条件として、最も多い回答は「土日祝日の開催」です。
- ▶子育てや発達の相談先は、通所している療育施設という回答が最も多くなりました。

- 「学ぶ必要を感じていない」「わからない」という回答は約3割でした。
- 関わりを学ぶ場に参加する要件は、「土日祝日の開催」のほか「ウェブ会議システム(ZOOMなど)での開催」や「開催時間が短い(1時間以内)こと」という回答も多くみられました。
- その他の回答で多かったものは、開催する時間帯への要望でした。
- 子育てや発達の相談先は、療育施設のほか、ご家族、医療機関という回答があがりました。

【新型コロナウイルスの流行により起こったこと】

- ▶新型コロナウイルスの流行により起こったことで最も多い回答は、「子どもが家族・親戚・友人などに会う機会が減った」でした。
- ▶代替支援の利用希望については、約7割が「現在代替支援を受けておらず、今後も必要性は低い」と回答しました。

- 新型コロナウイルスの流行により起こったこととして次に多かったものは「子どもの外出の頻度が少なくなった」でした。
- その他の回答では、子どもがマスクをつけられないという困りごとが多くみられました。
- 代替支援については、「支援を受けたことがあるがやめた」という回答や、預かりではないため保護者の負担があるという回答がみられました。

【療育について】

- ▶療育に通い始めてからの年数は、「7年以上」が最も多くなっています。
- ▶通っている療育施設の数、「市内1か所のみ」が最も多くなっています。
- ▶療育にかかるお金は、ひと月に「1円以上5千円未満」が最も多くなっています。
- ▶療育を始めるきっかけで最も多いものは、「子育てをしていて発達が心配になった」という回答でした。
- ▶療育施設や市に求めることは、「支援の専門性や質の向上」でした。

- 療育を通い始めてからの年数では「7年以上」が24.2%で、次に「1年目」が17.2%となっています。
- 通っている療育施設の数では「市内1か所のみ」は38.2%、次いで「市内外合わせて2か所以上」が29.3%です。
- 療育を受けようと思ったきっかけについては、「子育てをされていて、発達が心配になった」が60.5%で最も多く、次いで、「集団生活に不安があった」が40.1%、「園や学校の先生から指摘があった」36.9%となっています。
- 療育施設や行政に充実を求めることについては、「支援の専門性や質の向上」が58%と最も多く、次いで、「学習支援」47.8%、「送り迎えや通園、通学の支援サービス」42%となっています。

詳しくは59～62ページ

【お子さんのサービス利用状況と今後3年以内の利用予定】

- ▶新たに利用予定のサービスで多かったものは、障害児入所施設です。
- ▶増やす予定で多かったものは、障害児相談支援（計画相談）です。
- ▶利用を希望しているが利用していないサービスは、「放課後等デイサービス」、「保育所等訪問支援」という回答が多くありました。
- ▶利用を希望しているが利用していない理由は、「利用の基準に当てはまらず利用できないため」という回答が多くありました。
- ▶今後3年以内に利用したい障害福祉サービスは「重症心身障害児を支援する児童発達支援・放課後等デイサービス」が最も多い回答でした。

- 利用を希望しているが利用していないサービスは、「放課後等デイサービス」が27%で最も多く、次いで、「保育所等訪問支援」が24.3%となっています。
- 利用希望があるが利用していないサービスがあると回答した方について、利用していない理由を伺いました。最も多かったものは、「利用の基準に当てはまらず利用できないため」で35.1%となっています。次いで、「サービスがあることを知らなかったため」が24.3%でした。

詳しくは63ページ

【現在受けている教育・保育・医療等】

- ▶「個別支援学級（小中学校において障害の種別ごとに編成された、いわゆる特別支援学級）に通学」との回答が最も多く、約3割でした。
- ▶「その他」の回答で多かったものは、こども発達センターの利用、病院（薬の処方・カウンセリング）でした。

- 現在受けている教育・保育・医療等では、「個別支援学級（小中学校において障がいの種別ごとに編成された、いわゆる特別支援学級）に通学」が最も多く、32.5%となっています。次いで、「保育園・幼稚園・認定こども園（いずれも加配保育士等あり）への在籍」が23.6%でした。

- その他の内容は、こども発達センターの利用が5件、病院で薬のみ処方が3件、病院でカウンセリングが1件のほか、コミュニケーションに特化した私立の通信制高校や、発達障がいに関心を持ってもらえる習い事という回答がありました。

詳しくは64ページ

【今後3年間で利用したい18歳以上から利用できるサービス】

▶新たに利用したい18歳以上から利用できるサービスでは、「就労継続支援A型・B型」が最も多くなっています。

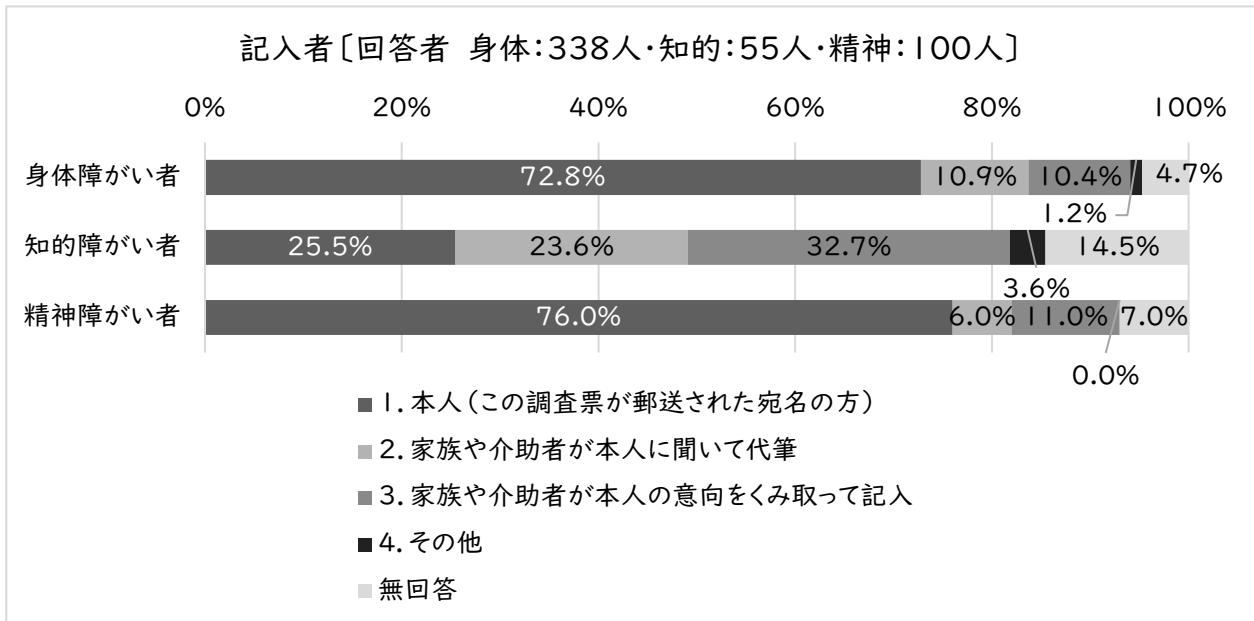
- 新たに利用したい18歳以上から利用できるサービスには、「就労継続支援A型・B型」が52.6%と最も多く、次いで「共同生活援助(グループホーム)」が38.9%となっています。

3 アンケート調査の結果詳細（身体・知的・精神障がい者）

3-1 回答者の属性

(1) アンケートの記入者

アンケート記入者は、身体障がい者及び精神障がい者では本人が7割以上となっており、知的障がい者では、家族や介助者が、「本人に聞いて代筆」及び「本人の意向を考えて記入」が半数以上となっています。

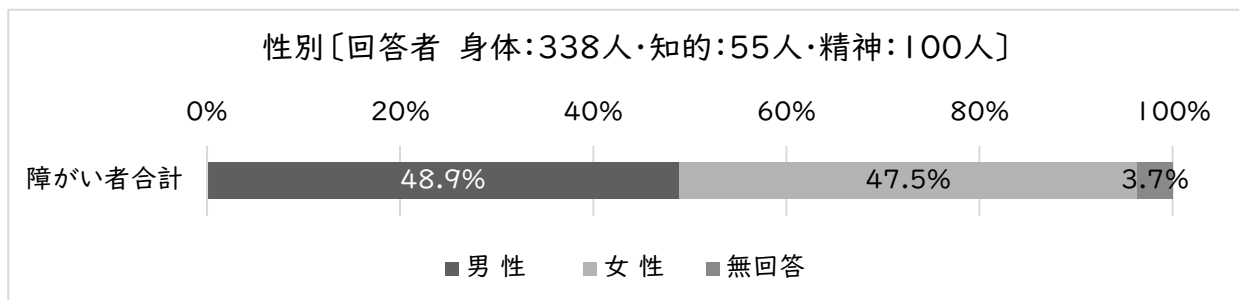


◎その他の内容 ケアマネジャー/長女/同居人/家族が代筆/成年後見人/家族がすけっと

(2) 性別と年齢（令和5年1月1日現在）

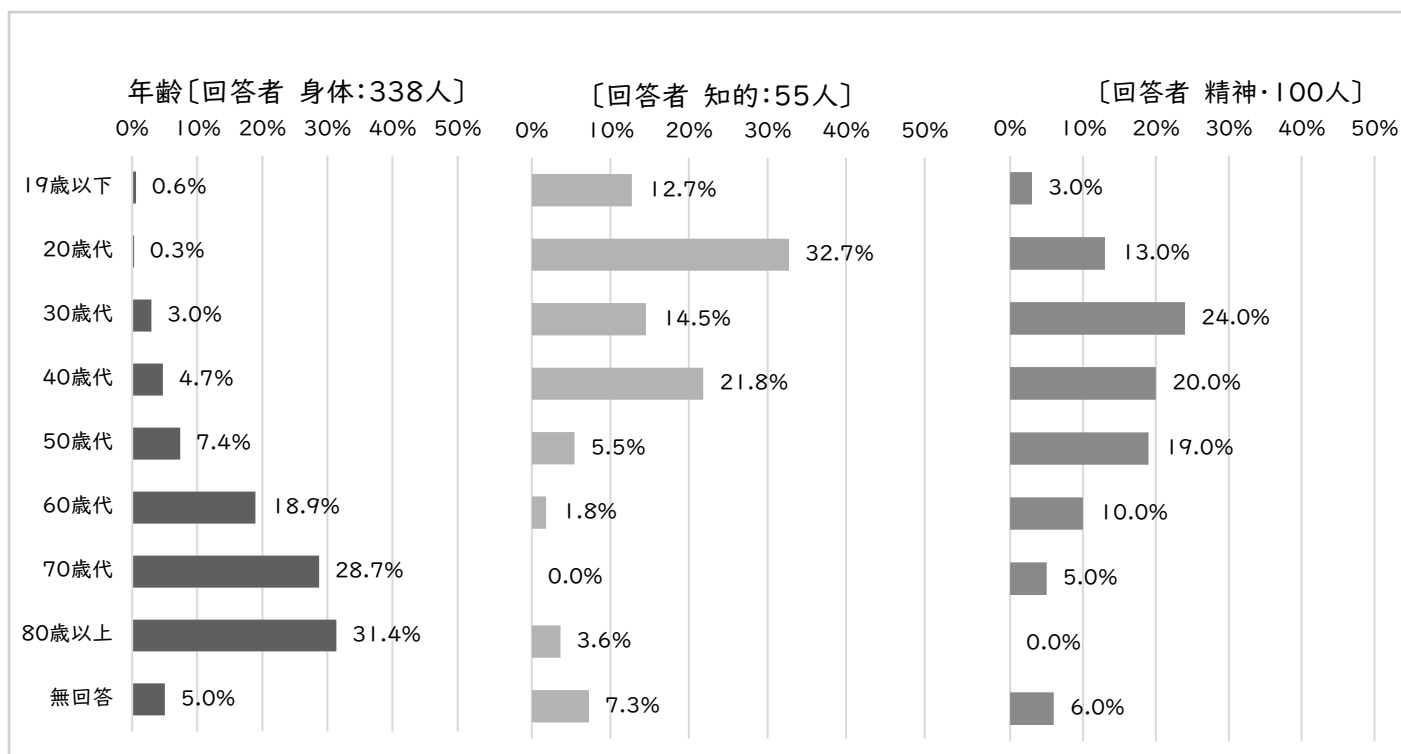
① 性別

回答者の性別は、男性・女性が概ね半数でした。なお、無回答を選択された方も3.7%となっています。



② 年齢

回答者の年齢は、身体障がい者では60%以上が70歳以上となっています。知的障がい者では、20歳代が最も多く(32.7%)、次いで40歳代(21.8%)となっています。精神障がい者では、30歳代が最も多く(24%)、次いで、40歳代(20%)となっています。

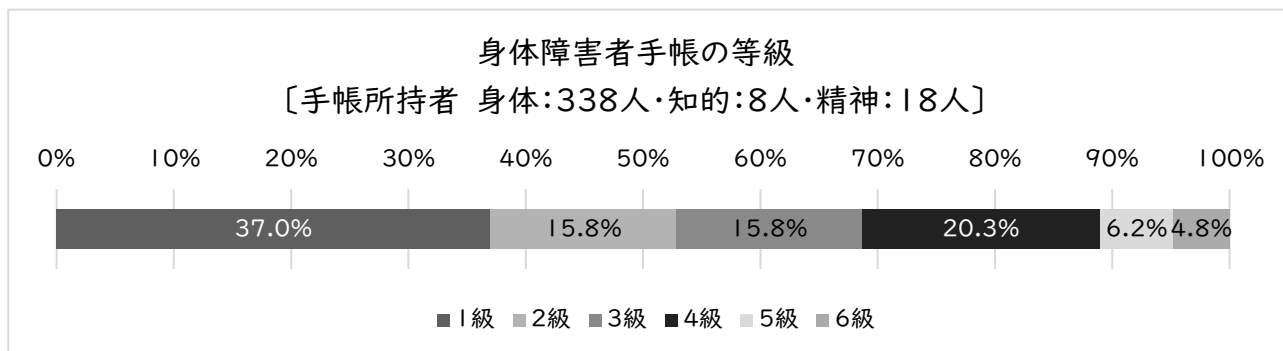


3-2 障がい者の状況

(1) 障がいの等級や種類など

① 身体障害者手帳の等級

所有する身体障害者手帳の等級は、「1級」が最も多く、次いで、「4級」が20.3%となっています。



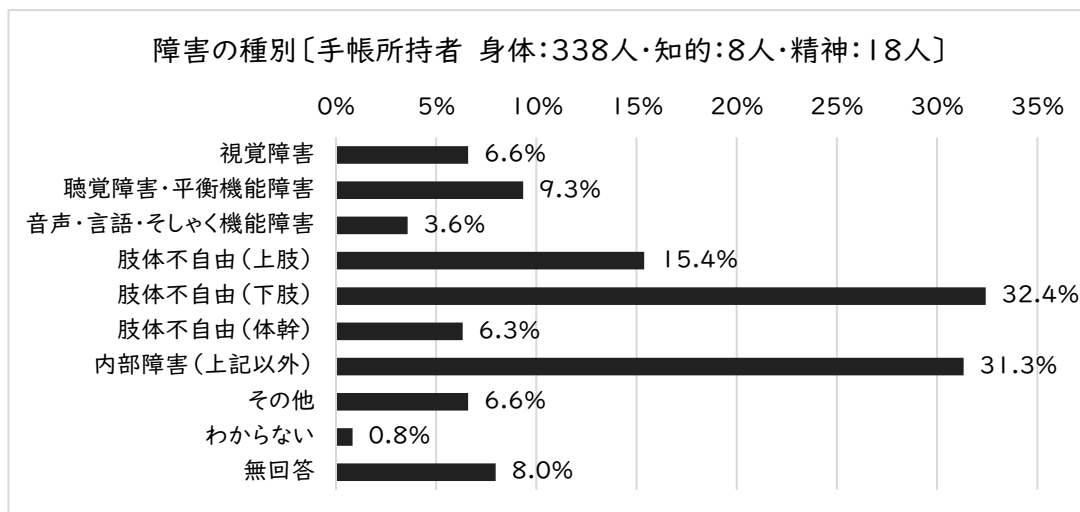
※無回答者を除く割合 身体障害者手帳所持者10人無回答

・療育手帳所持者 50 人のうち、8 人が身体障害者手帳を所持

・精神保健福祉手帳所持者 100 人のうち、18 人が身体障害者手帳を所持

② 障がいの種類、部位

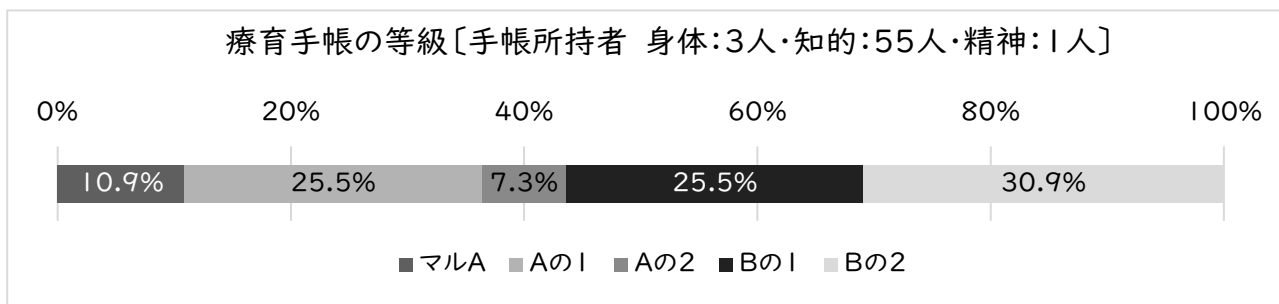
障がいの種類、部位については、「下肢障害」が32.4%と最も多く、次いで、内部障害が31.3%となっています。



※割合の母数は、身体障害者手帳所持者全員(338人)と、精神障害者保健福祉手帳・療育手帳所持者のうち、身体障害者手帳を所持していると回答した26人

③ 療育手帳の所持

療育手帳の等級は、「Bの2」が30.9%で最も多く、次いで、「Aの1」「Bの1」となっています。

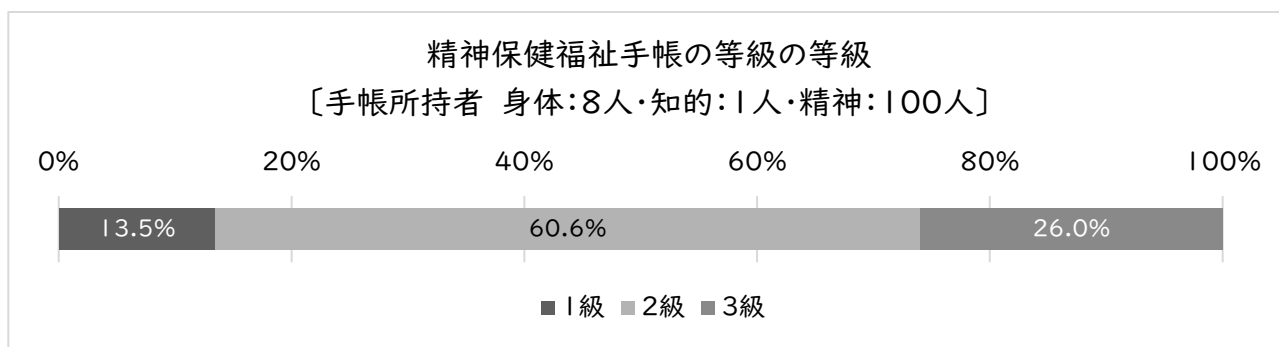


※無回答者を除く割合 療育手帳所持者の4人無回答

・身体障害者手帳所持者(338人)のうち3人が、精神保健福祉手帳所持者(338人)のうち1人が療育手帳所持

④ 精神障害者保健福祉手帳の所持

精神障害者保健福祉手帳の等級は、「2級」が60.6%で最も多くなっています。

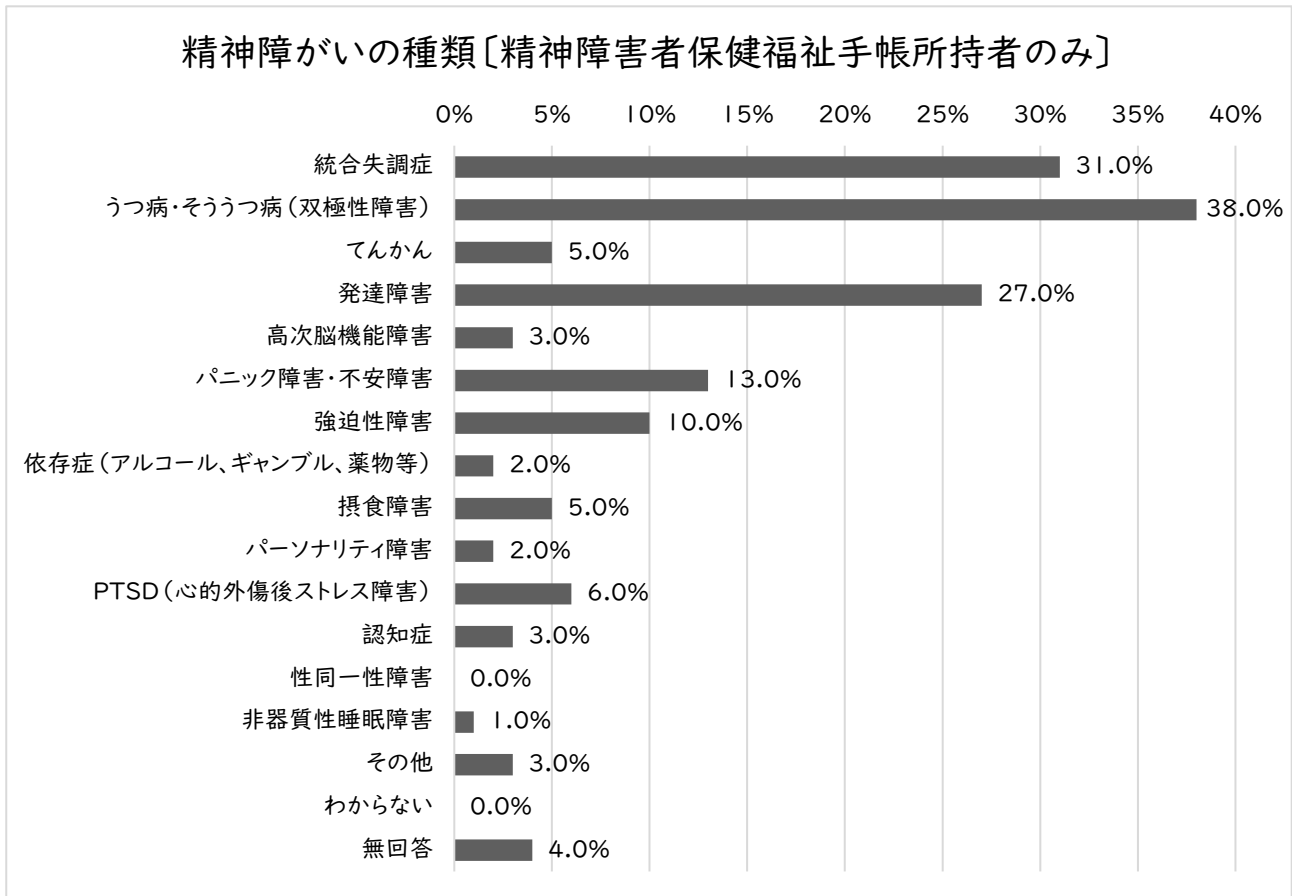


※無回答者を除く割合 精神保健福祉手帳所持者のうち5人無回答

・身体障害者手帳所持者のうち、8人が、療育手帳所持者のうち、1人が精神保健福祉手帳所持

⑤ 精神障がいの種類

精神障がいの種類については、「うつ病・そううつ病」が38.0%と最も多く、次いで、「統合失調症」、「発達障害」となっています。



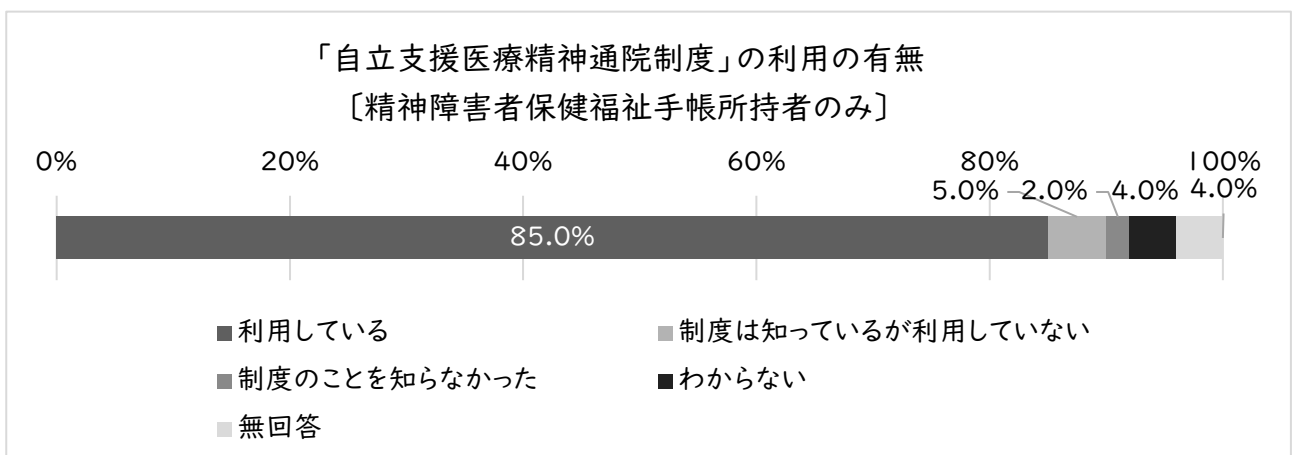
※割合の母数は、精神障害者保健福祉手帳所持者(100人)

◎その他の内容

一酸化炭素中毒 / 身体障害 / 身体表現障害と知覚過敏障害 / 双極性障害 / 被害妄想

⑥ 「自立支援医療精神通院制度」の利用状況

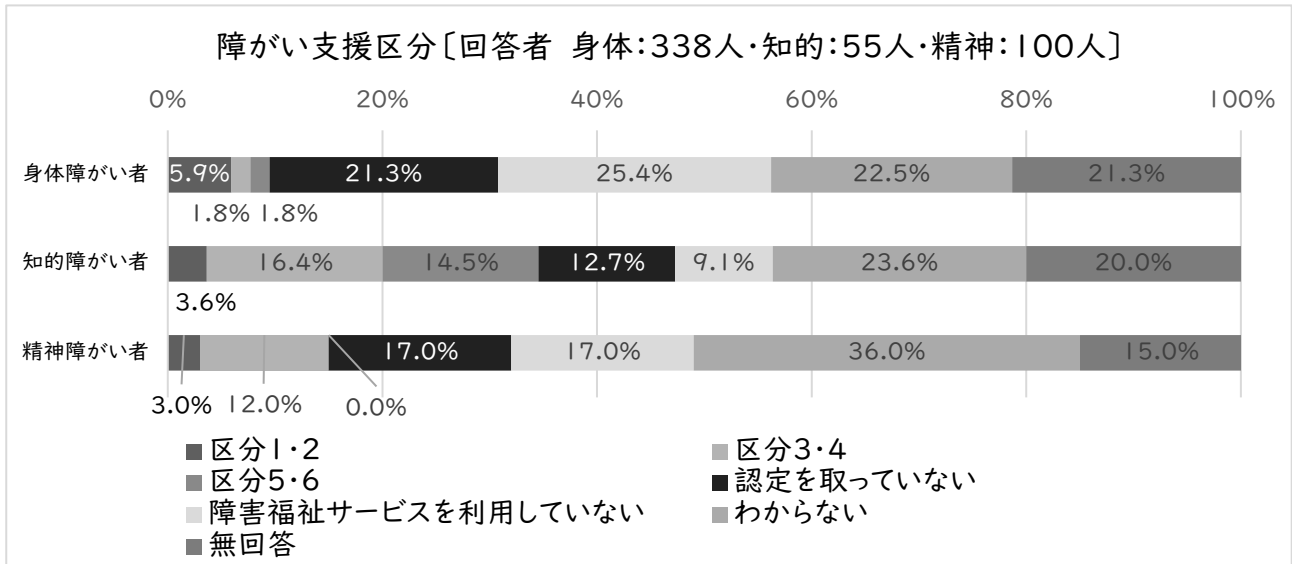
「自立支援医療精神通院制度」について「利用している」と回答した人の割合は85%となっており、「制度は知っているが利用していない」と回答した人の割合は5%となっています。「制度のことを知らなかった」と回答した人の割合は2%となっています。



(2) 障がい支援区分

障がい支援区分の認定を取っている人は、身体障がい者では9.5%となっており、「障害福祉サービスを利用していない」が25.4%、「認定を取っていない」が21.3%となっています。知的障がい者では、認定を取っている人は34.5%となっており、「障害福祉サービスを利用していない」が9.1%、「認定を取っていない」が17.0%となっています。

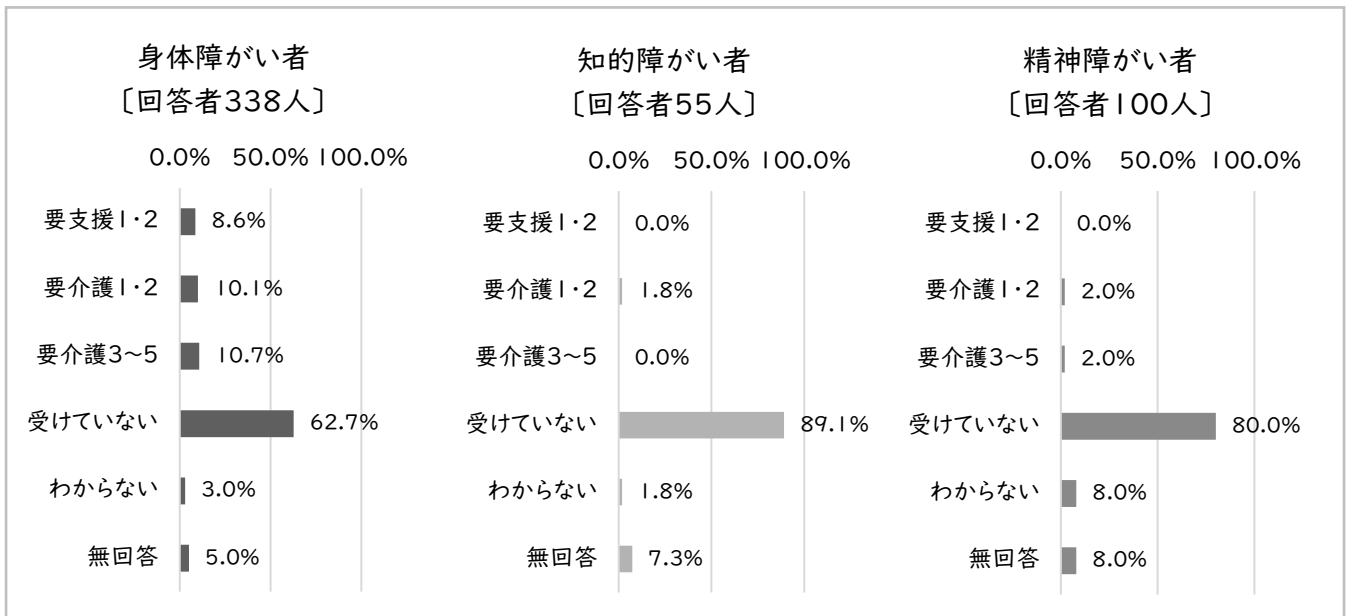
精神障がい者では、認定を取っている人は15.0%となっており、「障害福祉サービスを利用していない」が17.0%、「認定を取っていない」が17.0%となっています。



(3) 介護保険の要支援・要介護認定

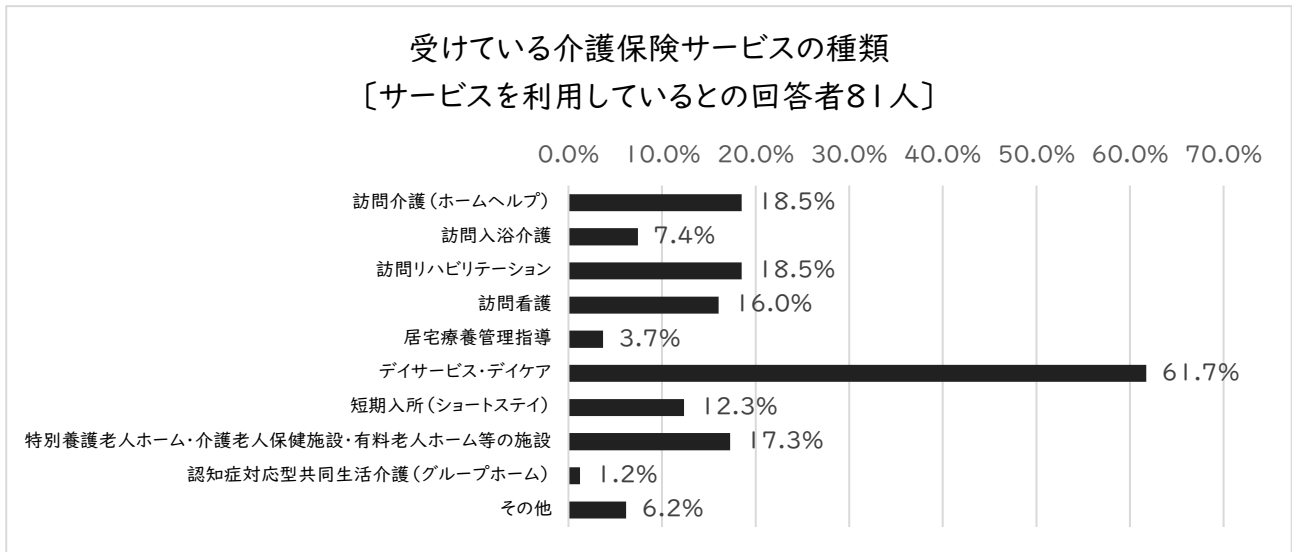
① 認定の有無と介護度

介護保険の要支援・要介護認定については、「受けていない」と回答した人が身体障がい者で62.7%、知的障がい者で89.1%、精神障がい者で80.0%となっています。



② サービス利用の有無・受けている介護サービスの種類

介護認定を受けている人のうち、介護保険のサービスを利用しているのは61.8%、利用していない人が35.9%、わからないとの回答が2.3%でした。利用しているサービスは、デイサービス・デイケアが61.7%と最も多く、次いで、訪問介護・訪問リハビリテーションが、いずれも18.5%でした。

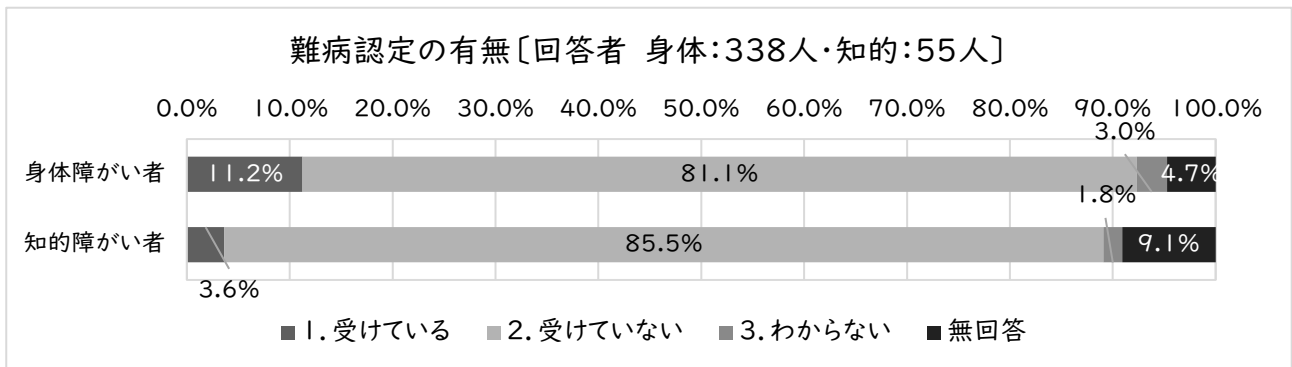


◎その他の内容

- ◆福祉用具レンタル・・・介護器具レンタル(車イス) / 福祉用具(2) / ベッドレンタル / 歩行機をリース
- ◆他・・・訪問歯科 / 老人保健施設

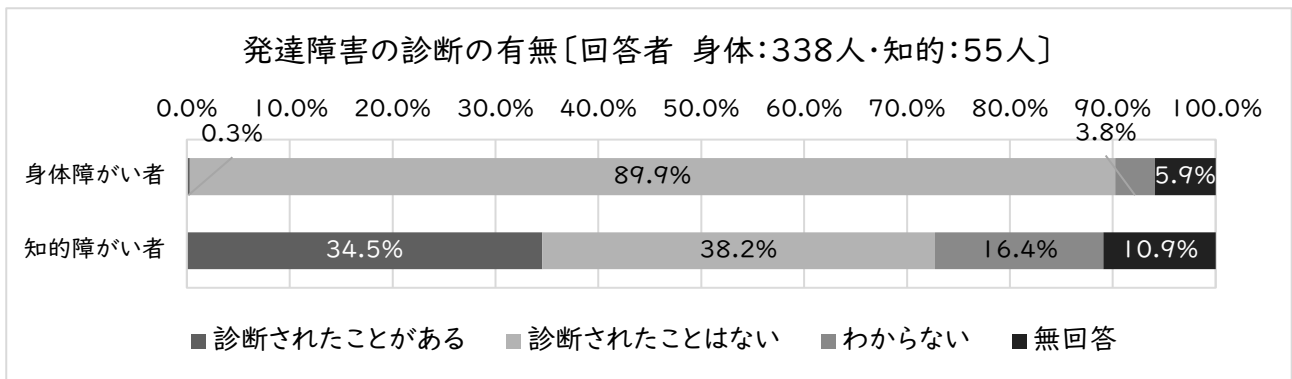
(4) 難病(特定疾患)認定の状況 ※回答者:身体・知的障がい者

難病(特定疾患)の認定については、「受けている」が身体障がい者で11.2%、知的障がい者で3.6%となっています。



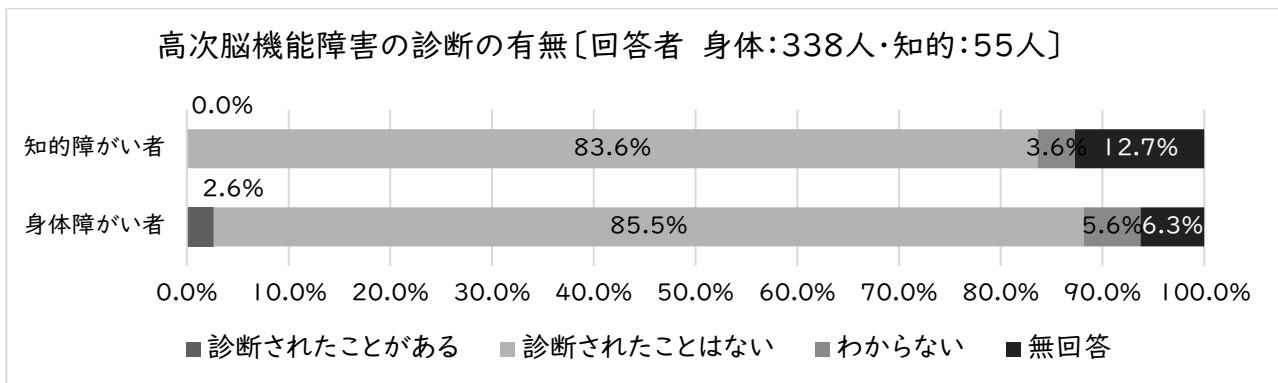
(5) 発達障害の診断状況 ※回答者:身体・知的障がい者

発達障害については、身体障がい者では、「診断されたことがある」が0.3%、「診断されたことはない」が89.9%となっており、知的障がい者では、「診断されたことがある」と回答した人は34.5%、「診断されたことはない」と回答した人は38.2%となっています。



(6) 高次脳機能障害の診断状況 ※回答者:身体・知的障がい者

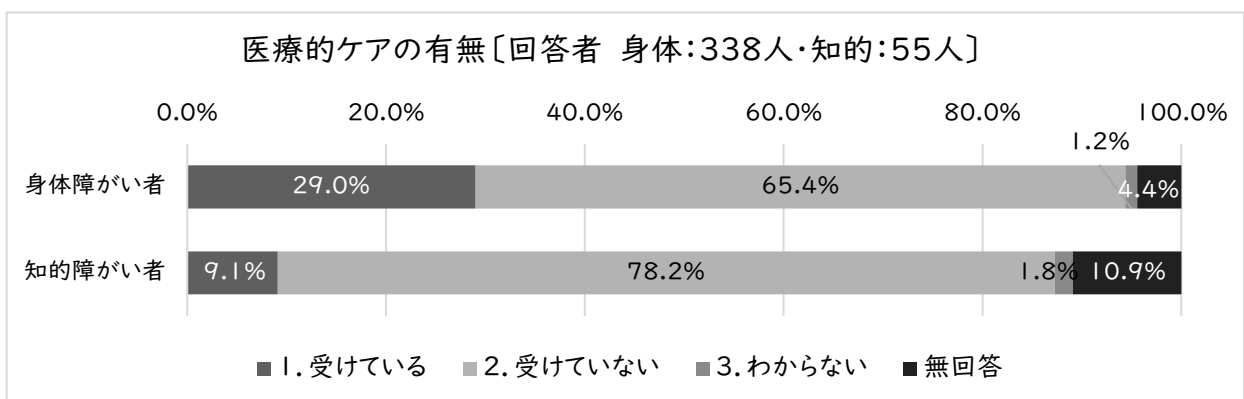
高次脳機能障害については、身体障がい者では、「診断されたことがある」が 2.6%、「診断されたことはない」が 85.5%となっており、知的障がい者では、「診断されたことがある」と回答した人は 0%、「診断されたことはない」と回答した人は 83.6%となっています。



(7) 現在受けている医療ケア

① 医療的ケアの有無

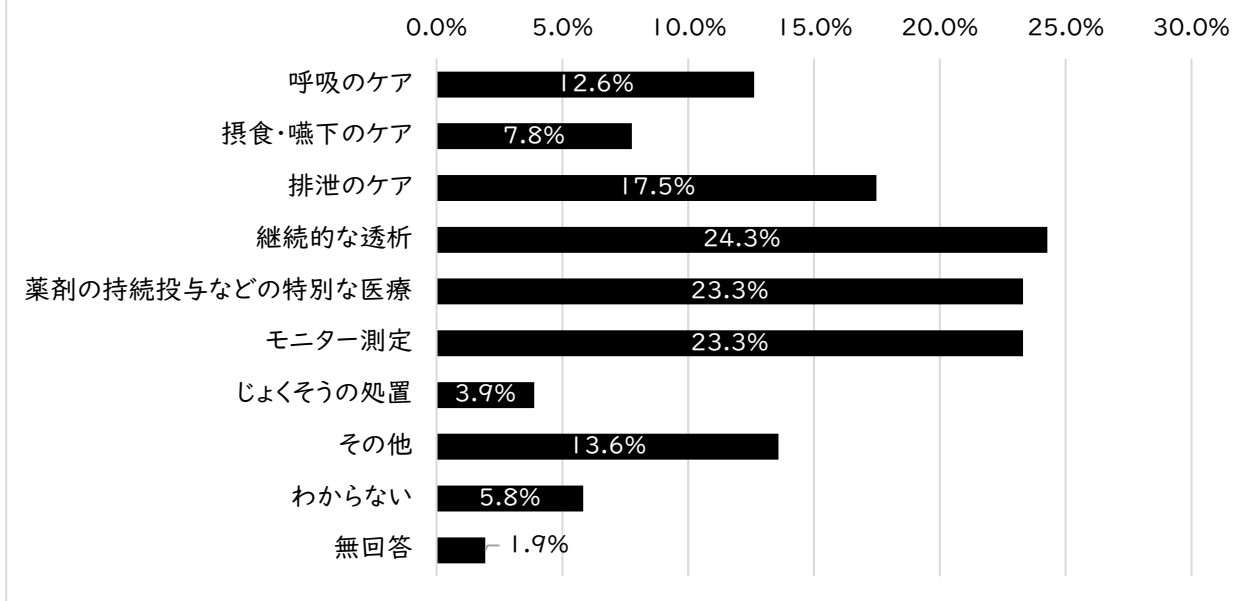
身体障がい者の29.0%、知的障がい者の9.1%が医療的ケアを「受けている」との回答でした。



② 医療的ケアの種類

現在受けている医療ケアについては「継続的な透析」が 24.3%と最も多く、次いで、「薬剤の持続投与」などの特別な治療「モニター測定」が多くなっています。

医療的ケアの種類〔医療的ケアを受けているとの回答者103人〕



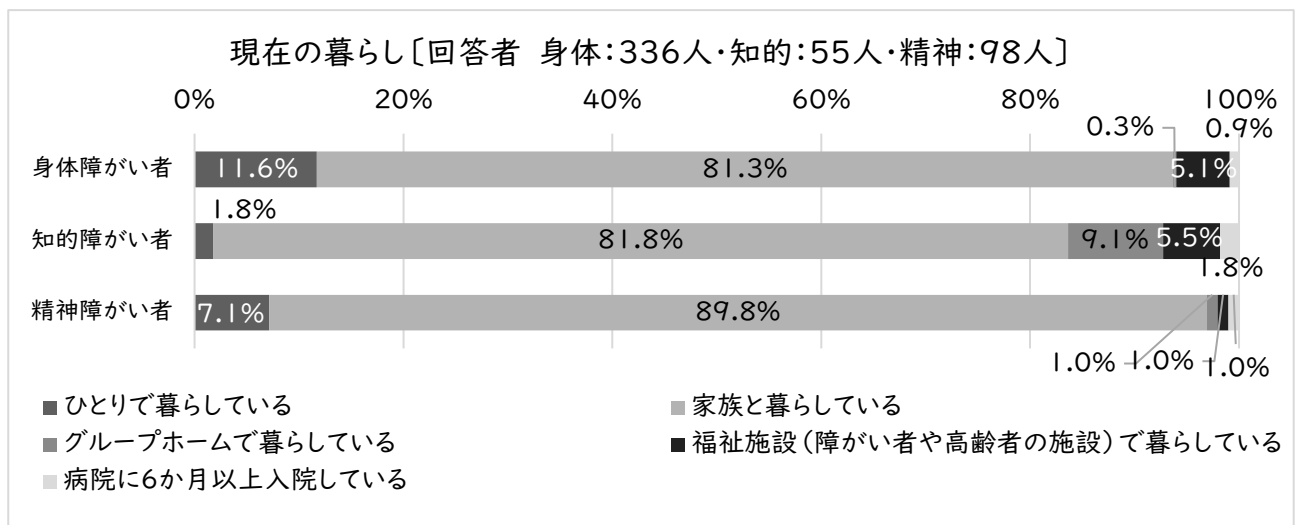
◎その他の内容

- ◆疾患・障がい・・・上・下肢障害 / パーキンソン病 / ペースメーカー植え込み(2) / 糖尿病 / かぜ
- ◆通院・検診・投薬・・・処方薬名記載(2) / 循環器科通院治療中 / 年2回の定期検診 / 膀胱瘻の管理 / 慢性疾患で月1回の投薬 / リハビリ(2)
- ◆酸素発生機・・・ストーマーの交換 / 補聴器貸与

3-3 暮らし・介助の状況

(1) 現在の暮らし

現在の暮らしは、「ひとりで暮らしている」方が、身体障がい者で11.6%、知的障がい者で1.8%、精神障がい者で7.1%でした。また、知的障がい者の9.1%がグループホームで暮らしています。いずれの障がい者も、80%以上の方が家族と暮らしているとの回答でした。

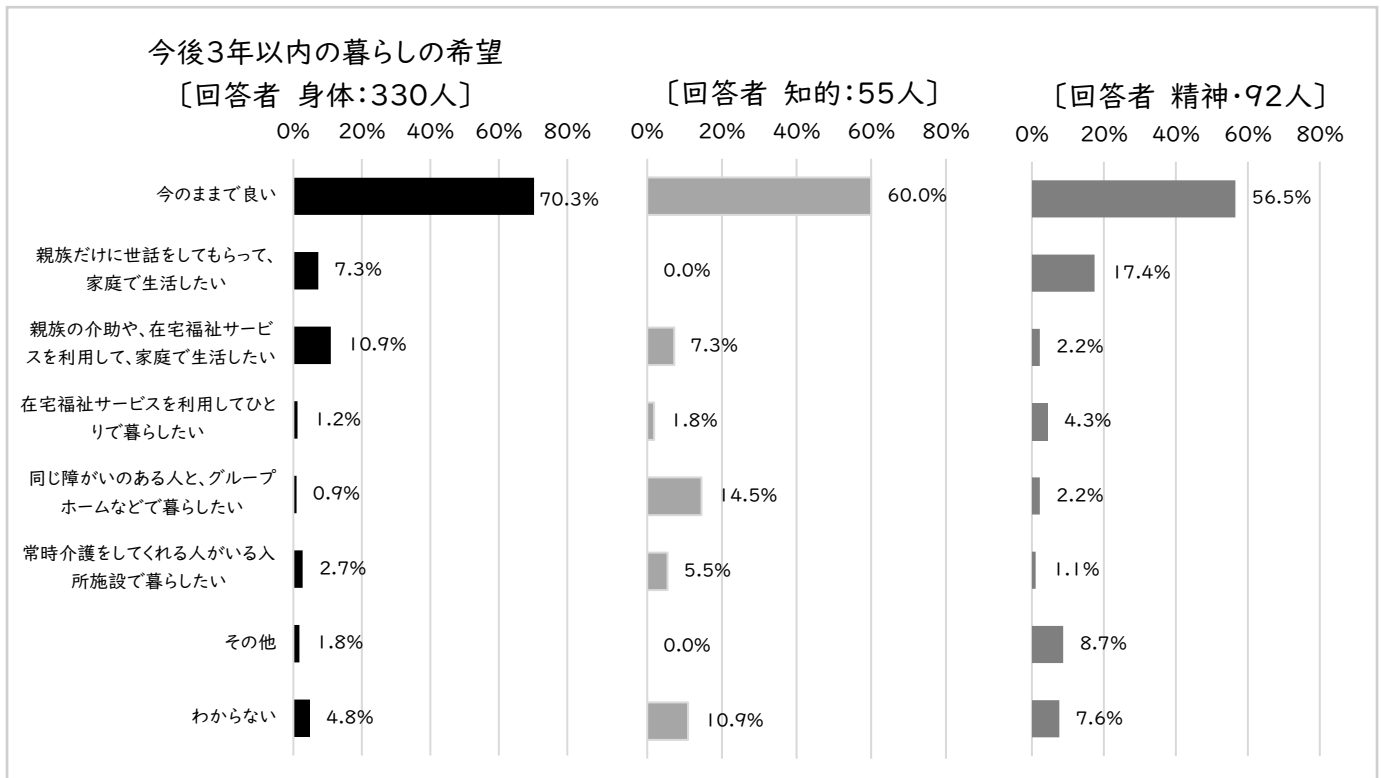


※無回答者を除いた割合

(2) 今後の暮らしの希望

① 今後、3年以内の暮らしの希望

今後3年以内の暮らしについては、いずれの障がい者においても、「今のままで良い」が最も多く、半数以上となっています。知的障がい者は、14.5%が「同じ障がいのある人と、グループホームなどで暮らしたい」、精神障がい者は、17.4%が「親族だけに世話をしてもらって、家庭で生活したい」と回答しており、比較的割合が多くなっています。



※無回答を除いた割合

◎その他の内容

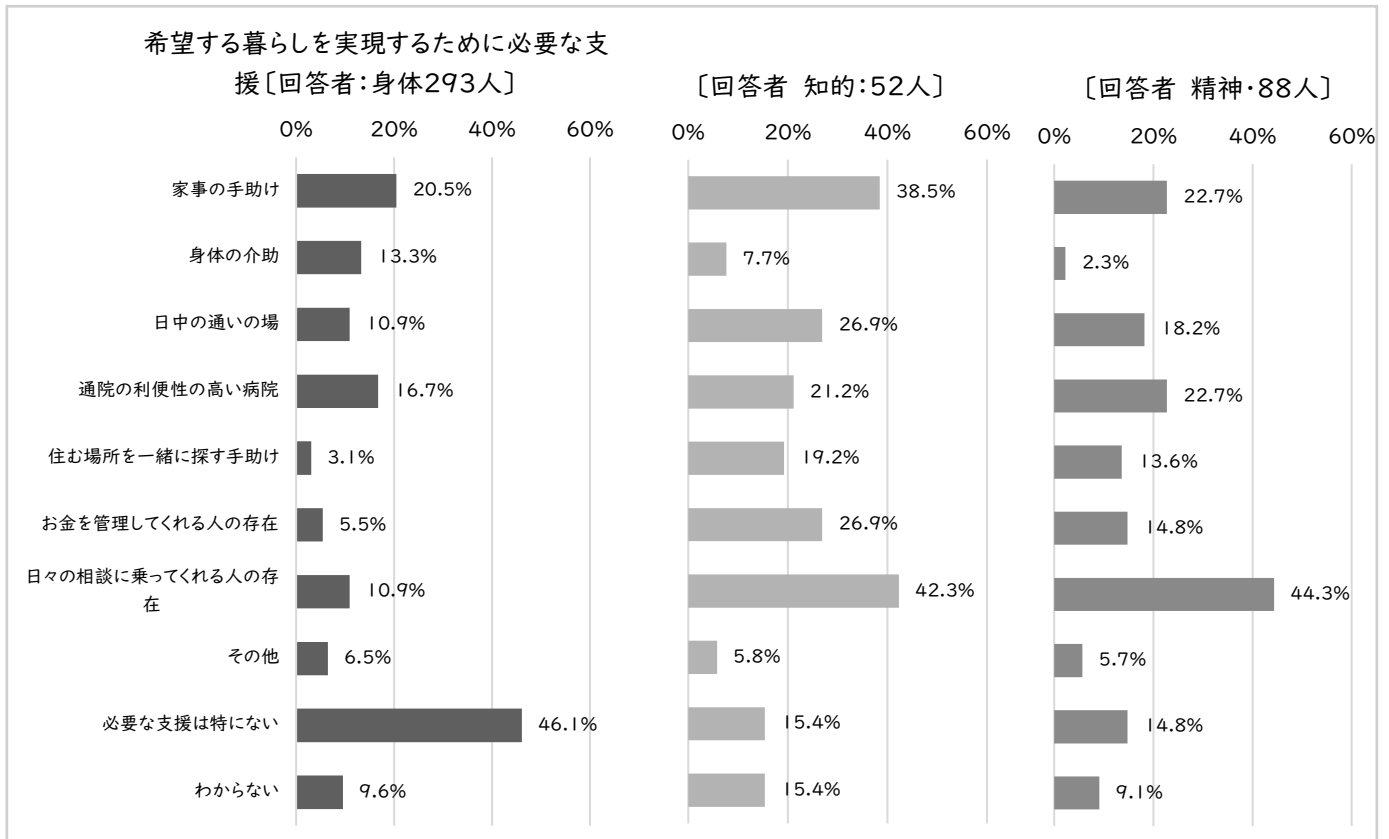
- ◆一人暮らし・友人等との同居や結婚の希望・・・一人で生活、自宅療養で良い / 一人暮らしがしたい / 一人暮らしと友人と暮らしたい / 家族に病気の理解をされてないので一人暮らしをしたい(必要なサポートをうけて)
- ◆就労の希望・・・仕事をして収入を増やして余裕のある暮らしをしたい / 働きたい / 自立して支えてくれる方と共に暮らしたい / 家族としては、通所施設に短時間でも週に何回か通ってお仕事に参加できるような暮らしを目指していきたいと思っている。
- ◆他・・・歩けなくなったら自宅介護が難しいと思われるので3年先は92才の高齢者からしたら長く一言で言えません / 家族の生存中 / 緩和ケア病棟に入院すること / 給付を希望 / 先のことはどうなるかわかりません / 自立での日常生活行動ができる / 左麻痺なので、入浴補助だけしてほしい / 本人は今の状況に安心しパニックを起こすこともなくなり今のままでよいと思っている / 家事、掃除等手伝ってもらうサービスを利用したい / 健康維持・向上 / 事件解決後に考えたい / 現在の団地に越してきて20年以上経つが意地悪な人が近所と地域に多いので安心して暮らせる場所に越したい。

② 希望する暮らしを実現するために必要な支援

今後3年以内において、希望する暮らしを実現するために必要な支援として、身体障がい者については、「必要な支援は特にない」が46.1%で最も多い回答でした。次いで、「家事の手助け」(20.5%)、「通院の利便性が高い病院」(16.7%)が多くなっています。

知的障がい者は、「日々の相談に乗ってくれる人の存在」が42.3%で最も多く、次いで、「家事の手助け」(38.5%)、「お金を管理してくれる人の存在」・「日中の通いの場」(26.9%)が多くなっています。

精神障がい者もまた、「日々の相談に乗ってくれる人の存在」が44.3%で最も多く、次いで、「家事の手助け」・「通院の利便性が高い病院」(22.7%)が多くなっています。



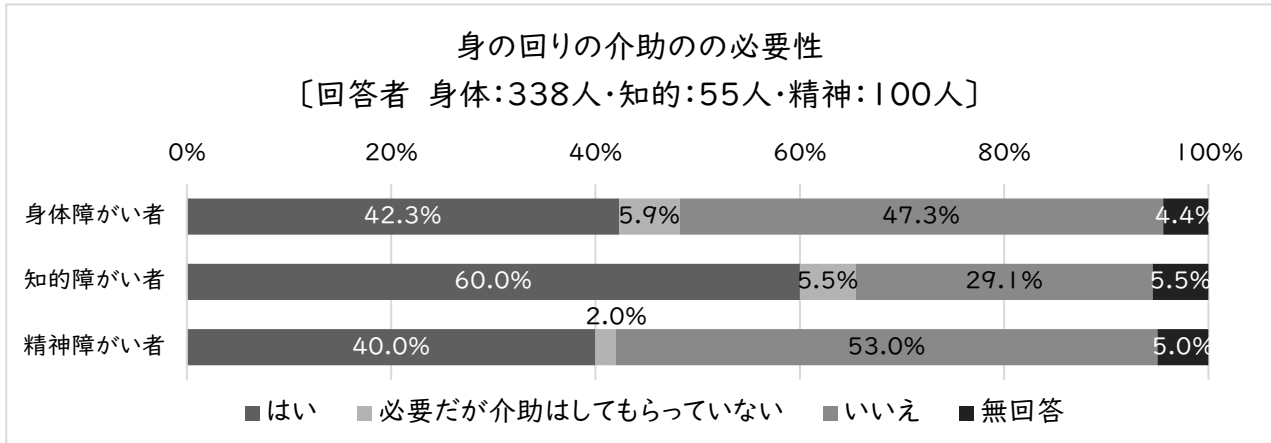
◎その他の内容

- ◆経済的支援・・・お金の援助・経済的支援(5) / 年金給付金を高くしてほしい / 給付 / 補聴器が高額なので補助がほしい。一応あるようですが、形状によってダメだったり私が購入始めた時は受けられなかった / 杖や車椅子の支援金
- ◆外出時の支援・・・足が悪いから移動のサポート・外出の手助け(2) / 買物特に重たいもの
- ◆相談支援の充実・・・専門相談所 / 相談場所はあるがなかなか集団生活にトラブルなく参加できる状態ではないのでいつも迷ってしまい相談できずにいる。
- ◆サービスの充実・・・グループホームの建設 / 就労支援 / 手話通訳 / 訪問診療、訪問看護 / ホーム / 庭の管理等安い費用でお願いする業者(草刈り剪定など)
- ◆他・・・現在、親(認知症)の介護と妹(精神I級)の世話の日々(約3年前より) / 身辺整理 / リハビリのサポート / 家族の理解 / 軽作業ができる場所 / 無料カウンセリング、もしくは1500円ぐらい。東京だとカウンセリングは安い千葉は高く40分7000円くらいする。市で負担してほしい。

(3) 身の回りの介助や支援の状況

① 身の回りの介助者(支援者)の有無

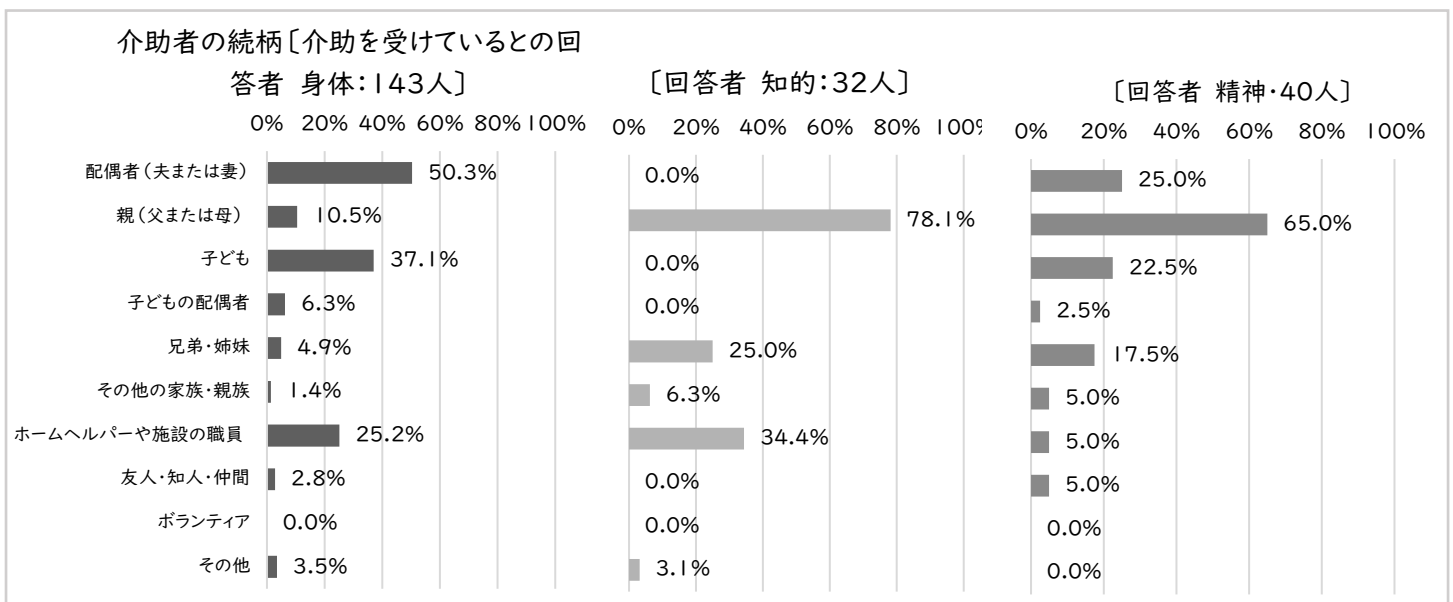
身体障がい者では、身の回りの介助を誰かにしてもらっている人は 42.3%となっており、また、身の回りの介助は「必要だが支援はしてもらっていない」人は 5.9%となっています。知的障がい者では、身の回りの介助を誰かにしてもらっている人は 60.0%となっており、身の回りの介助は「必要だが支援はしてもらっていない」人は 5.5%となっています。精神障がい者では、身の回りの介助を誰かにしてもらっている人は、40.0%となっており、身の回りの介助は「必要だが支援はしてもらっていない」人は 2.0%となっています。



② 主な身の回りの介助者(支援者)(介助が必要と回答した人)【重複回答項目】

身の回りの介助を主にしている人については、身体障がい者では、「配偶者(夫または妻)」が 50.3%と最も多く、次いで、「子ども」が 37.1%となっています。

知的障がい者では、親(父または母)が 78.1%と最も多く、次いで、「ホームヘルパーや施設の職員」が 34.4%となっています。精神障がい者では、親(父または母)が 65.0%と最も多く、次いで、「配偶者(妻・夫)」が 25.0%となっています。

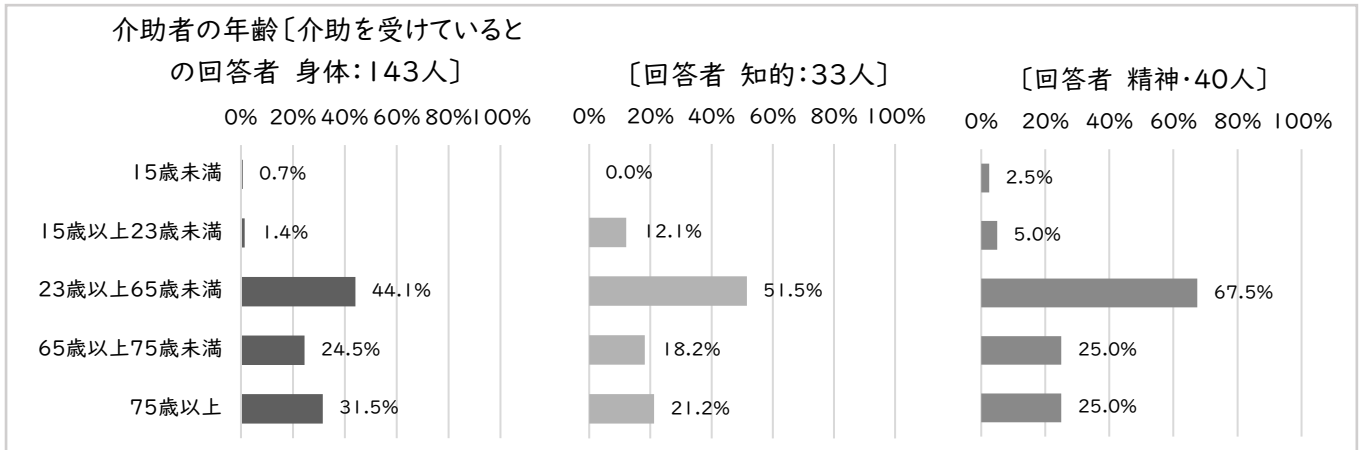


◎その他の回答 ※◆は同様の内容をまとめた項目

◆親族・・・たまに子供が来て掃除をしてくれています。 / 孫 ◆他・・・職場の同僚 / 病院・看護師(2) / 隣人

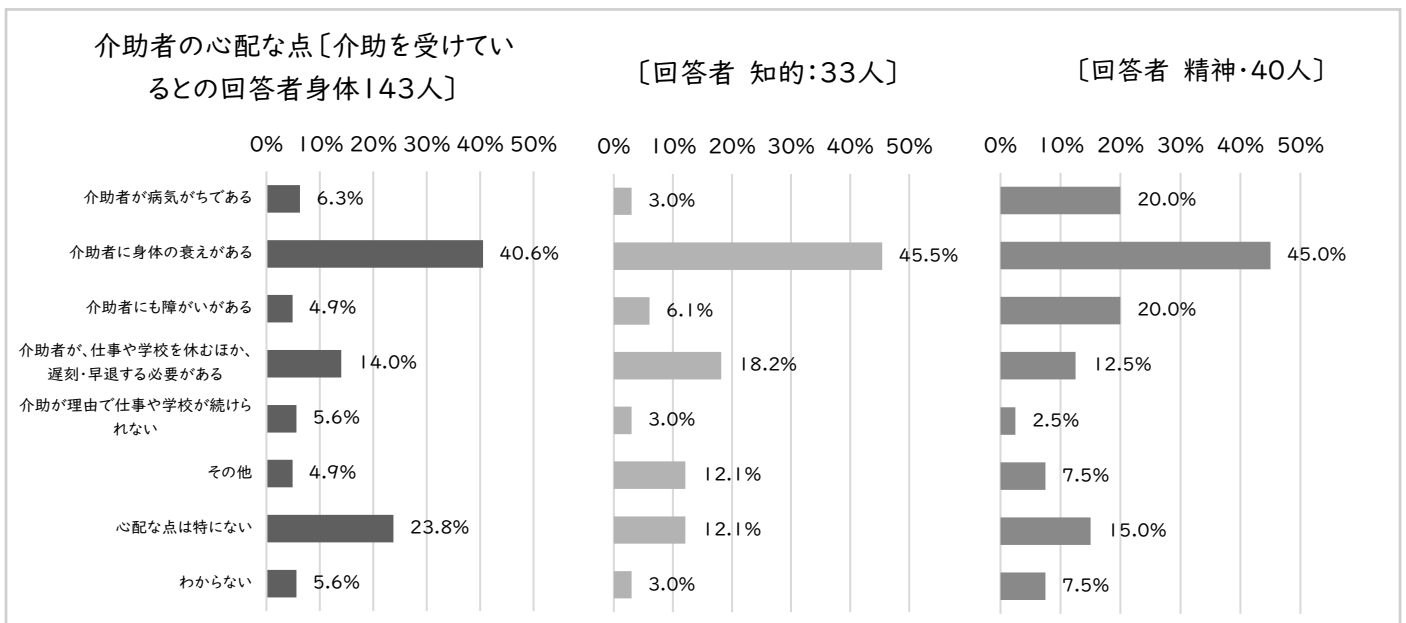
③ 主な身の回りの介助者(支援者)の年齢【重複回答項目】

身の回りの介助をしている人の年齢は、身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者のいずれも、「23歳以上 65歳未満」が最も多くなっています。身体障がい者・知的障がい者については、次に多いのが「75歳以上」であり、介助者が高齢化していることがうかがえます。15歳未満の介助者については、身体障がい者の0.7%、精神障がい者の2.5%で該当があり、知的障がい者では、「15歳以上 23歳未満」の介助者が12.1%いる状況でした。



④ 介助者について心配な点【重複回答項目】

介助者についての心配な点は、身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者のいずれも、「介助者に身体の衰えがある」が最も多くなりました。「介助者が、仕事や学校を休むほか、遅刻・早退する必要がある」という状況も、12.5%~18.2%の方にみられました。



◎その他の回答 ※◆は同様の内容をまとめた項目

- ◆介助者の高齢化・亡きあと…高齢化(3) / 介助者の亡きあと / 介助者が高齢な事、今は元気です
- ◆介助者の認知症・病気・疲労…認知 / 私の具合の悪い時、負担が大きくなる / 今後の健康状態 / 現心身疲労している
- ◆経済面…金 / 経済面 /
- ◆他…今のところ病気はないです / 現時点ではない / 注意することが多い / 母親が健康診断していない / 子どものため申し訳ない事がある / 子供の面倒 / 仕事に行けない

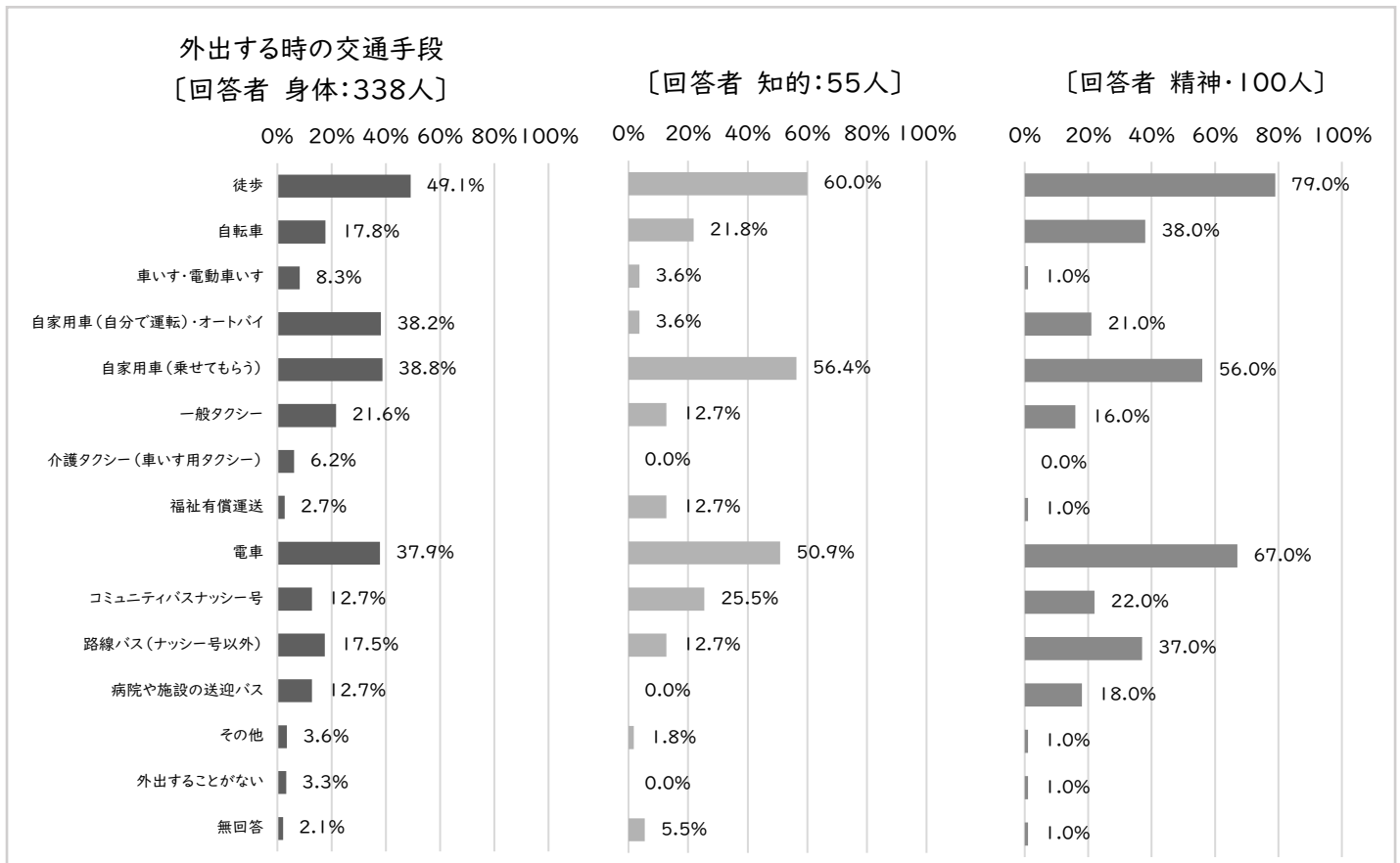
3-4 外出について

(1) 外出する時の交通手段 【重複回答項目】

外出する時の交通手段については、身体障がい者では、「徒歩」が49.1%と最も多く、次いで、「自家用車（乗せてもらう）」が38.8%、「自家用車（自分で運転）・オートバイ」が38.2%、となっています。

知的障がい者では、「徒歩」が60.0%と最も多く、次いで、「自家用車（乗せてもらう）」が56.4%、「電車」が50.9%となっています。

精神障がい者では、「徒歩」が79.0%と最も多く、次いで、「電車」が67.0%、「自家用車（乗せてもらう）」が56.0%となっています。



◎その他の回答 ※◆は同様の内容をまとめた項目

◆施設や病院の送迎バス等… 施設の車（送迎） / クリニック送迎車 / 精神の医療サービス

◆ゆうあい号・外出支援サービス…市の福祉カー / ゆうあい号 / 外出支援サービス(2)

◆他…白井市内役所病院 / スクーター / 専業主婦 / バス / 病院へ市福祉支援車 / 歩行器 / レンタカー / 近くは歩き、他 バスなど

(2) 外出の際に困っていること 【重複回答項目】

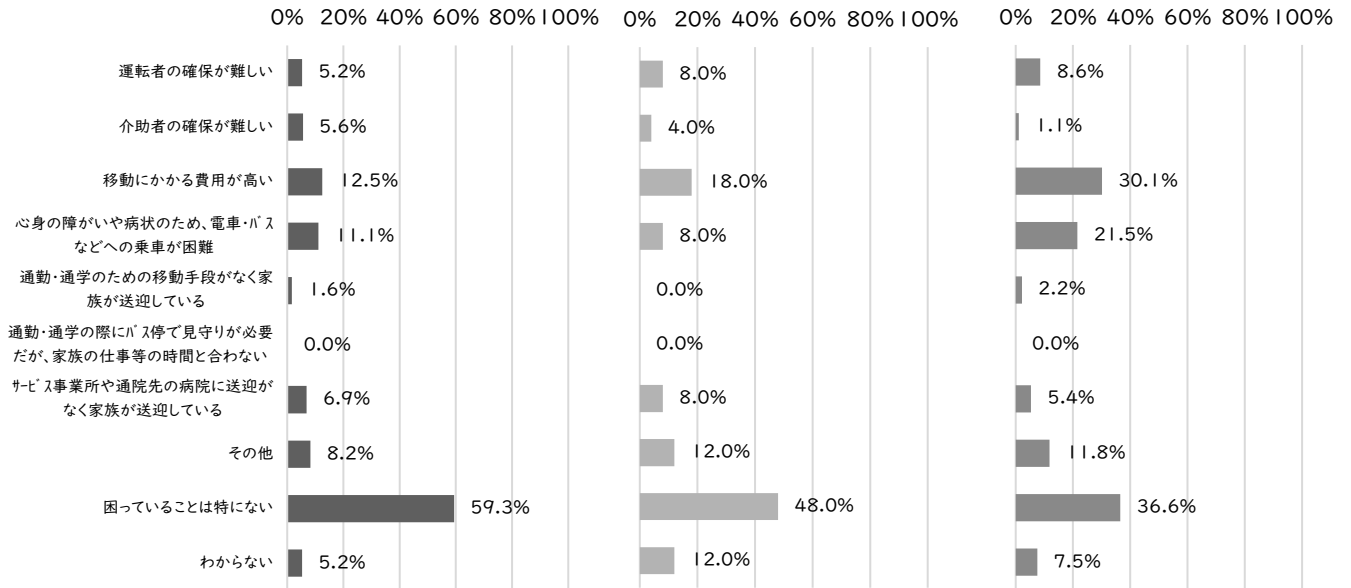
外出の際に困っていることについては、いずれの障がい者も、「困っていることは特にない」が最も多く、次いで多かったのは、「移動にかかる費用が高い」でした。「その他」を除いて、次に多かったのは、「心身の障がいや病状のため、電車・バスなどへの乗車が困難」という回答でした。電車やバスの不便さなど、質問項目以外の「その他」の困りごとも多くありました。

外出の際に困っていること

〔回答者 身体:305人〕

〔回答者 知的:50人〕

〔回答者 精神:93人〕



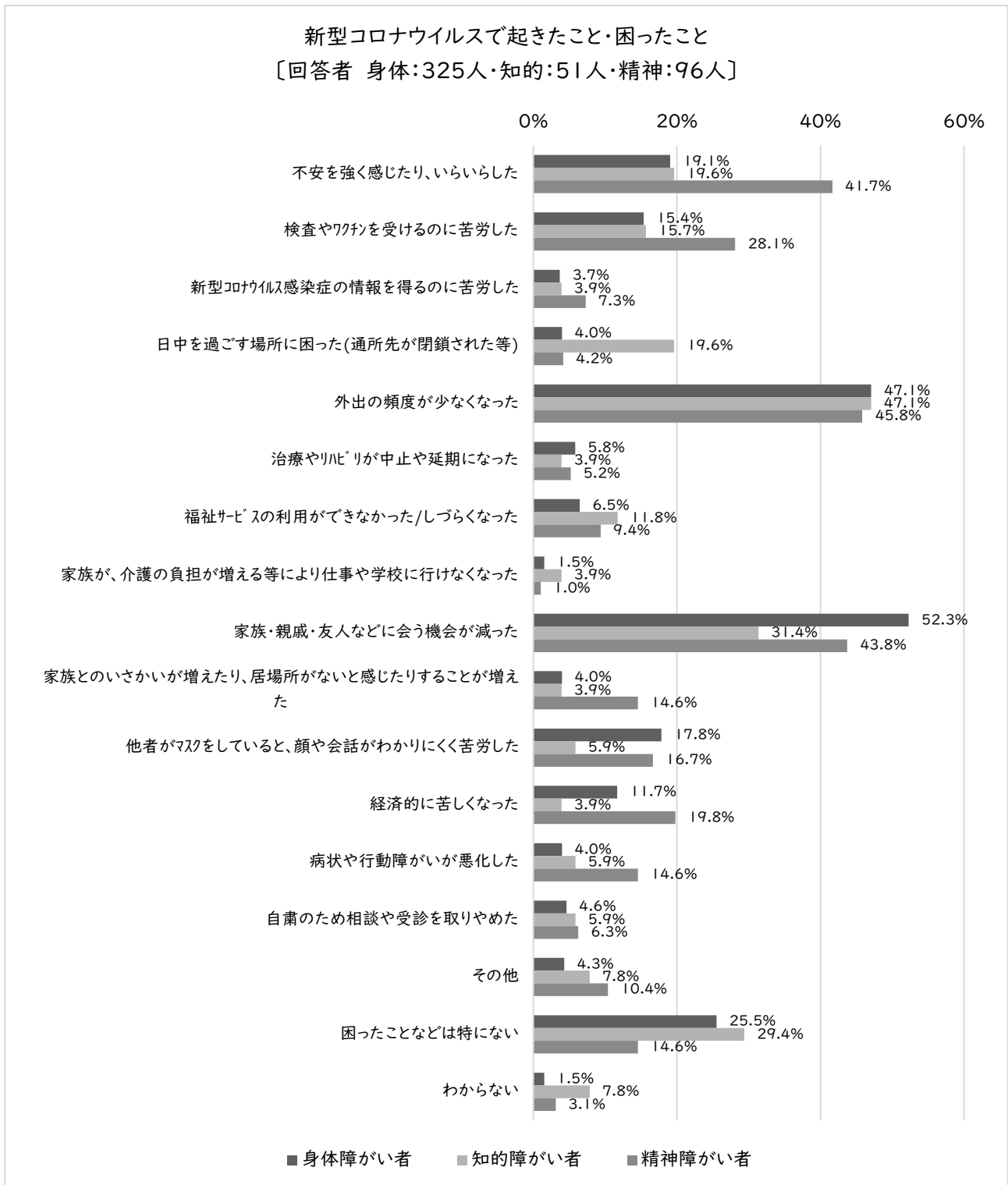
◎その他の回答 ※◆は同様の内容をまとめた項目

- ◆バス・電車の不便さ・・・バスの便が悪く本数を増やしてほしい / 自宅から最寄り駅までのバスが少ない / 鎌ヶ谷総合病院への通うためにナッシー号の新鎌ヶ谷の復活を切にお願いします。 / 休日、循環バスがない / ナッシー号のルートが少なくいきたい所へのルートがない / 何もなし / バスの本数がない / バス便、電車の本数が少ない。目的地に行くのに時間がかかる / 路線バスの本数が極端に少ない / 乗り継ぎの時間が合わない。
- ◆バリアフリーではないこと・・・下りのエスカレーターが少ない / 車椅子や杖で移動できない坂が多い / 車の駐車スペース、トイレの確保 / 駐車場所、車椅子用トイレの有無
- ◆交通費等が高額であること・・・電車に乗りたいが、運賃が高い。割引なし / 運賃の割引きが無く交通費がかかること。(横浜はあった) / あまり歩けないので白井駅の駐車場をかりているが、月極の金額が高い。外出支援として割引制度がほしい。
- ◆介助者が必要・・・介助を手伝ってほしい。車の乗り降り / 一人で外出できない。 / 一人で出かけられない / 一緒に外出してくれる方が必要 / 知らない場所に一人で行けないし行った事がない /
- ◆運転が困難・家族送迎の負担・・・運転が辛い / 運転ができないため時間の制約がある / 家族送迎時の負担 / 自家用車がなく緊急時不便 / 電車やバスが苦手だが身内に運転できる人がいない。
- ◆歩行が大変・・・長距離歩行困難 / 歩行が大変で電車が疲れる / 足に傷があり歩き難い / 継続して30分以上歩けない。
- ◆他・・・雨天の時外出に困る / 困った時は、家族が助けてくれる / コロナ禍で外出許可がおりにくい / 通院の送迎 / 通院日の気忙しいと留守中の様子が気がかり / 特になし / 徒歩時、酸素濃度濃縮装置使用のため / 友だちに送迎してもらっている / 寝たきり状態 / 小便や大便が近くて移動中や買物が困難 / 外出中、たまに周りに迷惑をかけてしまうことがある。トラブル等 / 知的障がいのため、会話が不可 / 通順が不明 / 必要があれば家族が送迎する / 学生時代からネットで悪口を今でも書かれてて外出していると周りは敵しかいないと思って気を張っています / タクシーを使う / 通院のため有償運送を使用する。

3-5 新型コロナウイルスの影響について

(1) 新型コロナウイルスの感染症の流行に関して、起きたことや困ったこと【重複回答項目】

新型コロナウイルスの感染症の流行に関して起きたこと、困ったこととしては、身体・知的・精神障がい者のいずれも、「家族・親戚・友人などに会う機会が減った」「外出の頻度が少なくなった」との回答が多数となりました。精神障がい者については、「不安を強く感じたり、いらいらした」「検査やワクチンを受けるのに苦労した」との困りごとも比較的多くみられました。



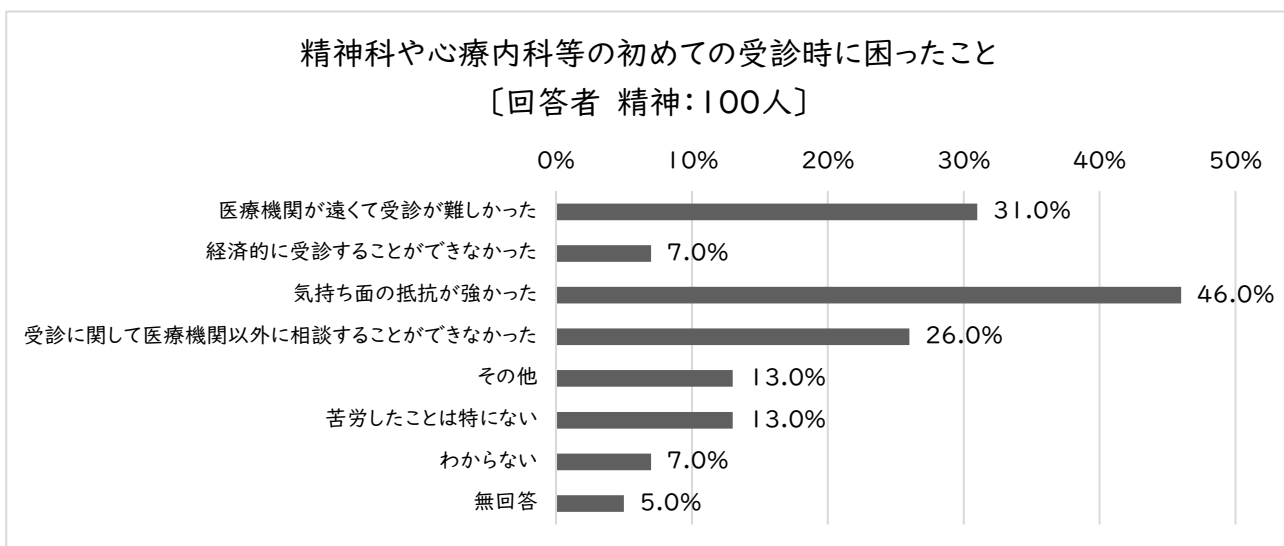
◎その他の回答 ※◆は同様の内容をまとめた項目

- ◆仕事への影響…仕事が出来なかった / 仕事を辞めざるを得ない状態
- ◆感染・後遺症…後遺症で頭痛がしている / 感染し、夫婦で10日間自宅待機 / 感染した(症状が長引いた) また家族全員が感染し回復まで苦勞した
- ◆ワクチン接種の課題・副反応…予約するのに日数が長かった / 副反応 / 日中は仕事のため予約を家族がしている / ワクチンを打っていない
- ◆マスクのつらさ・必要性…マスクをしていると息苦しい / マスクの必要性不明 / ずっとマスクをして声が小さくなった
- ◆医療受診他、各種の制限…病院での作業療法が中止になってしまった / 病院対応の遅れ / 面会が窓越しになった
- ◆外出自粛による影響…家でずっと過ごすのでつまらなかった / 出掛ける場所が少なくなった。楽しみが少なくなった。サークルに制限
- ◆感染への不安…化学物質過敏症があるので、感染することに恐怖を感じている。心配だ / 予防注射を頼りにしている、家を出ないようにしている
- ◆他…病院入院 / 言葉が分からなくなってきた / 親の介護 / 交流の場に行っても、他の人が職員さんを一人占めして、自分が気持ちを吐き出せず、消化不良になった。高齢者優先で仕方ないと思うがモヤモヤした。放っておいた気持ち / 白井市や周りの地域で意地悪な人が増えたのと治安が悪くなっている気がします / 物価が高い / 元々外出はあまりしていない

3-6 医療受診

(1) 精神科や心療内科などの医療機関に初めて受診するのに苦勞したこと【重複回答項目】

精神科や心療内科などの医療機関に初めて受診するのに苦勞したことについて伺ったところ、「気持ち面の抵抗が強かった」との回答が46.0%で最も多く、次いで「医療機関が遠くて受診が難しかった」が多くなりました。



◎その他の回答 ※◆は同様の内容をまとめた項目

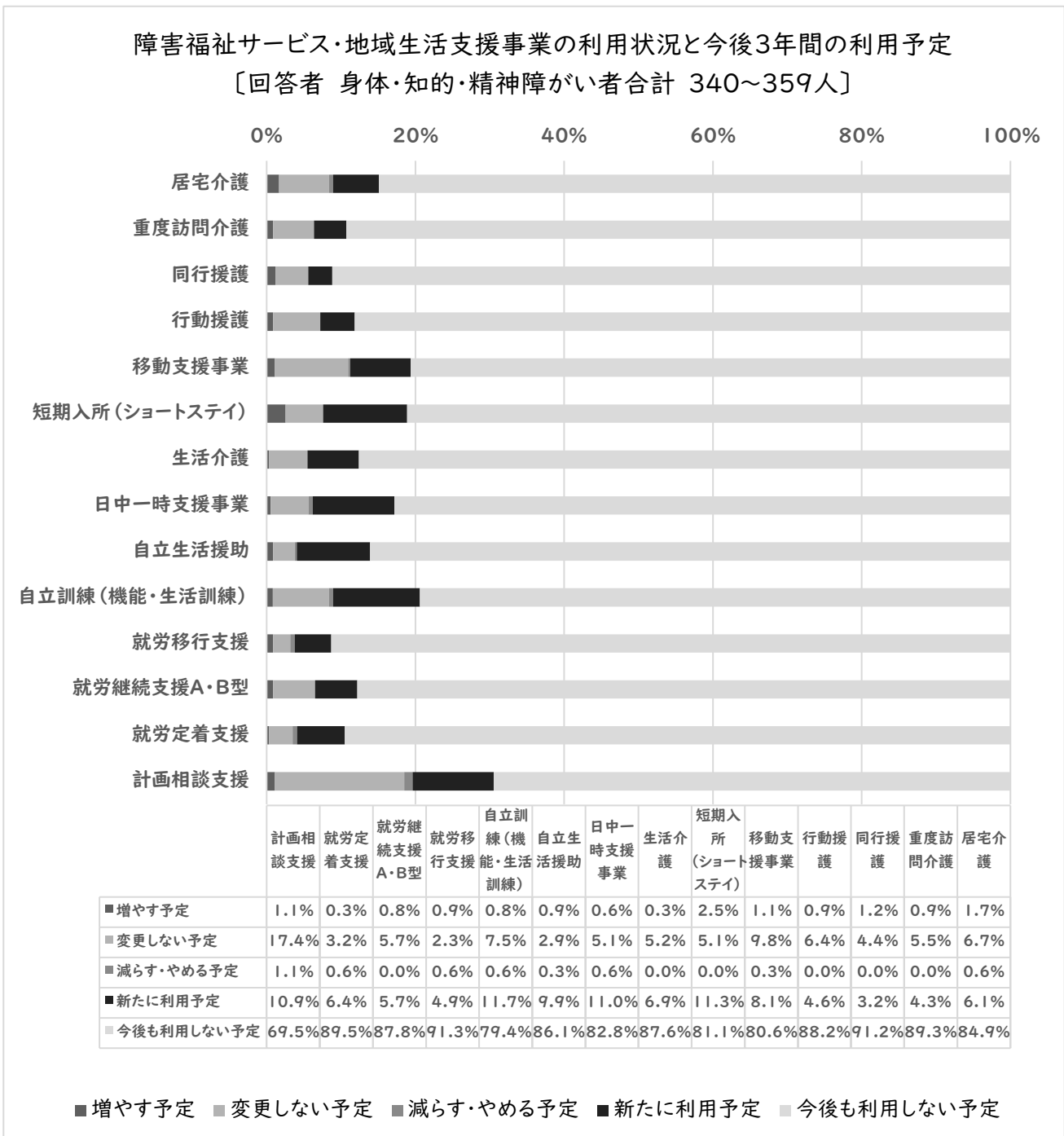
- ◆通院の交通手段・費用…今かようのに足の便が悪いタクシー / 交通費負担。北総線依然運賃が高い / 受診先の転院や電車の急行の乗り入れなどで注意が必要との事で移動しづらい時期だった。
- ◆待ち時間・予約困難…待ち時間が辛かった / 予約がなかなか取れなかった。

- ◆説明・書類の記入・・・自分自身の意見がまとまらず説明できなかった / 体調が悪いのに記入する内容が多く、体力的、精神的にきつかった。
- ◆病院探しの苦勞・・・医者が患者に不適切なことを言ったり、あとこの辺りは精神科がとても少ない。病院さがし本当に苦勞しました / 適した病院がどこにあるのか探し方がわからなかった / どの病院が良いのかが、わからなかった。
- ◆家族の理解の不十分さ・・・家族の同意が難しい。今も。 / 家族の理解を得られなかった
- ◆他・・・医療機関にかかることを思いつかず、すすめられる機会がなく、ようやくかかったのは状況がかなり悪くなった時だった / 救急車で運ばれて拘束された / 月 1 回外来通院 / ネットや周りから精神病の人間はクズやゴミ、気持ち悪いと言われるのが辛かった / パニック障がいで外出できないので苦勞した。

3-7 保健福祉サービスについて

(1) 障害福祉サービスの利用状況と今後3年間の利用予定

障害福祉サービス・地域生活支援事業の利用状況と、今後3年間の利用予定としては、「新たに利用予定」とのサービスで多かったものが、短期入所(ショートステイ)、自立訓練(機能・生活訓練)、日中一時支援事業、計画相談支援でした。

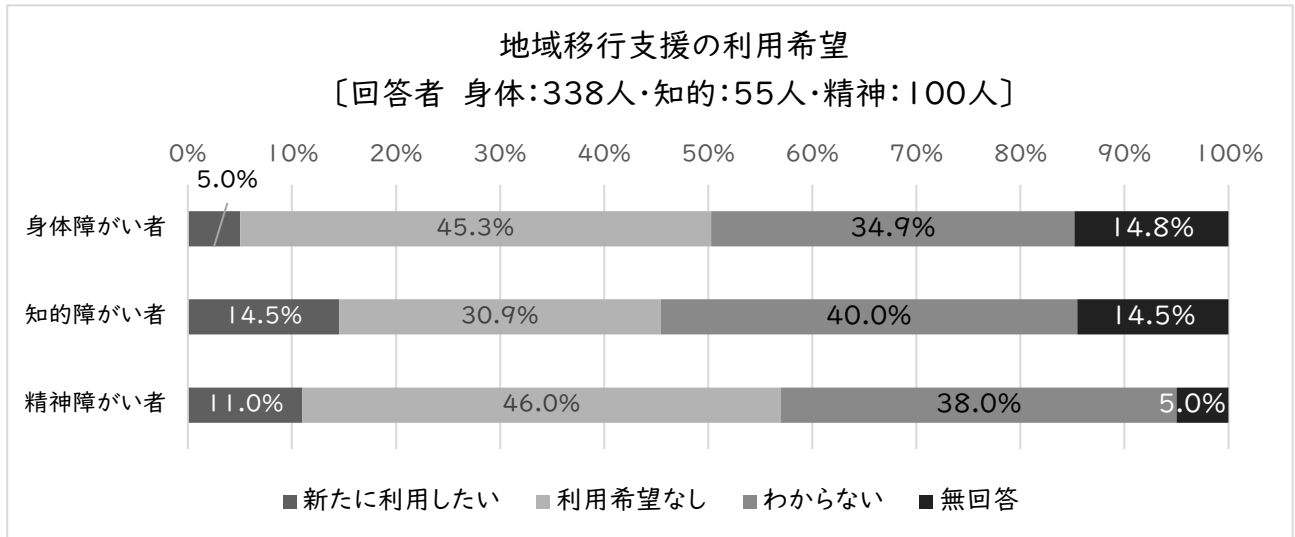


※無回答者を除いた割合

(2) 地域移行支援・地域定着支援の利用希望

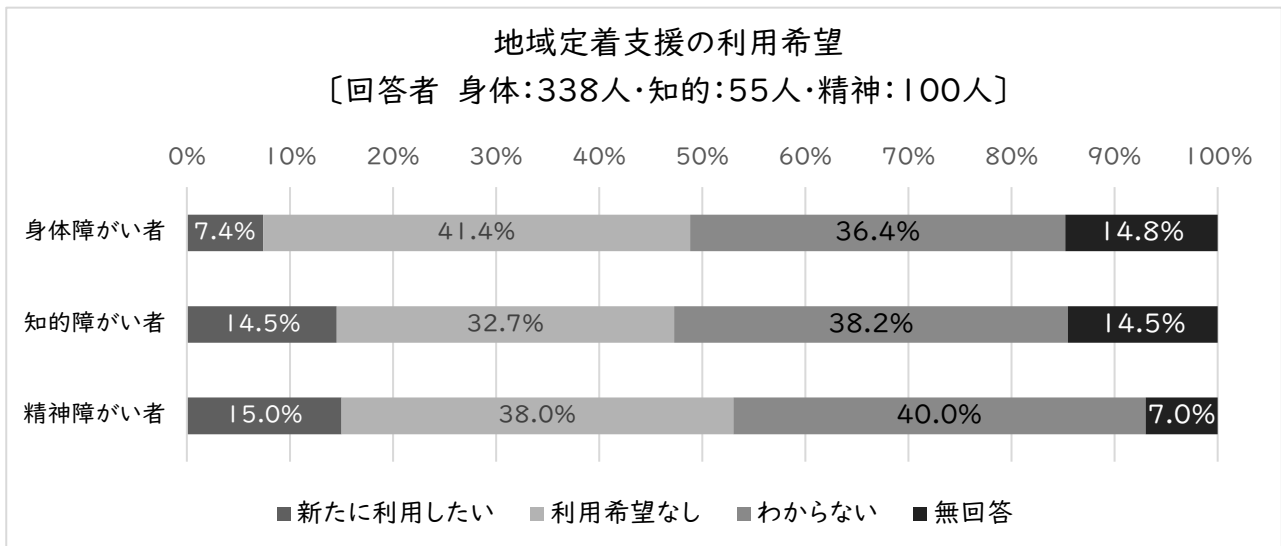
① 地域移行支援

地域移行支援の利用希望は、身体障がい者で 5.0%、知的障がい者で 14.5%、精神障がい者で 11.0%の方が「新たに利用したい」と回答されました。



② 地域定着支援

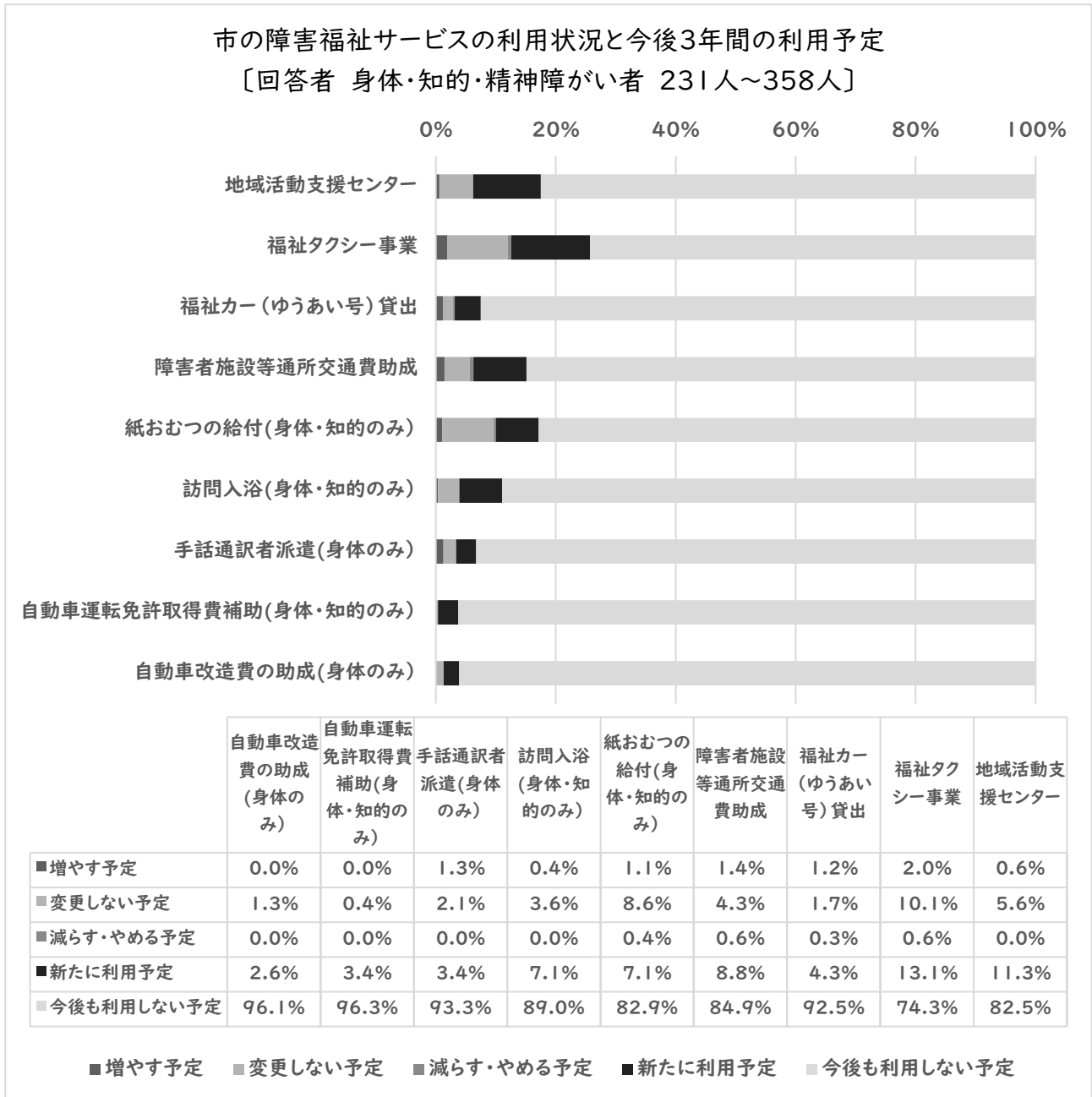
地域定着支援の利用希望は、身体障がい者で7.4%、知的障がい者で 14.5%、精神障がい者で 15.0%の方が「新たに利用したい」と回答されました。



(3) 市の障害福祉サービスの利用状況と今後3年間の利用予定

① 市の障害福祉サービスの利用状況と今後3年間の利用予定

「新たに利用予定」との回答が多かったサービスは、地域活動支援センター、福祉タクシー事業でした。

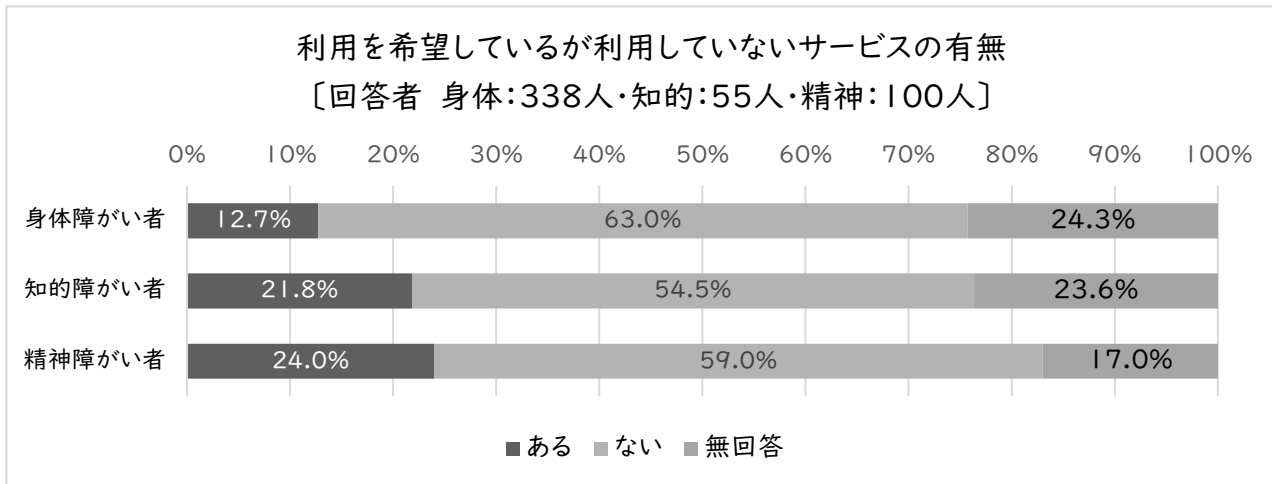


※無回答者を除いた割合

(4) 利用を希望しているが利用していないサービス

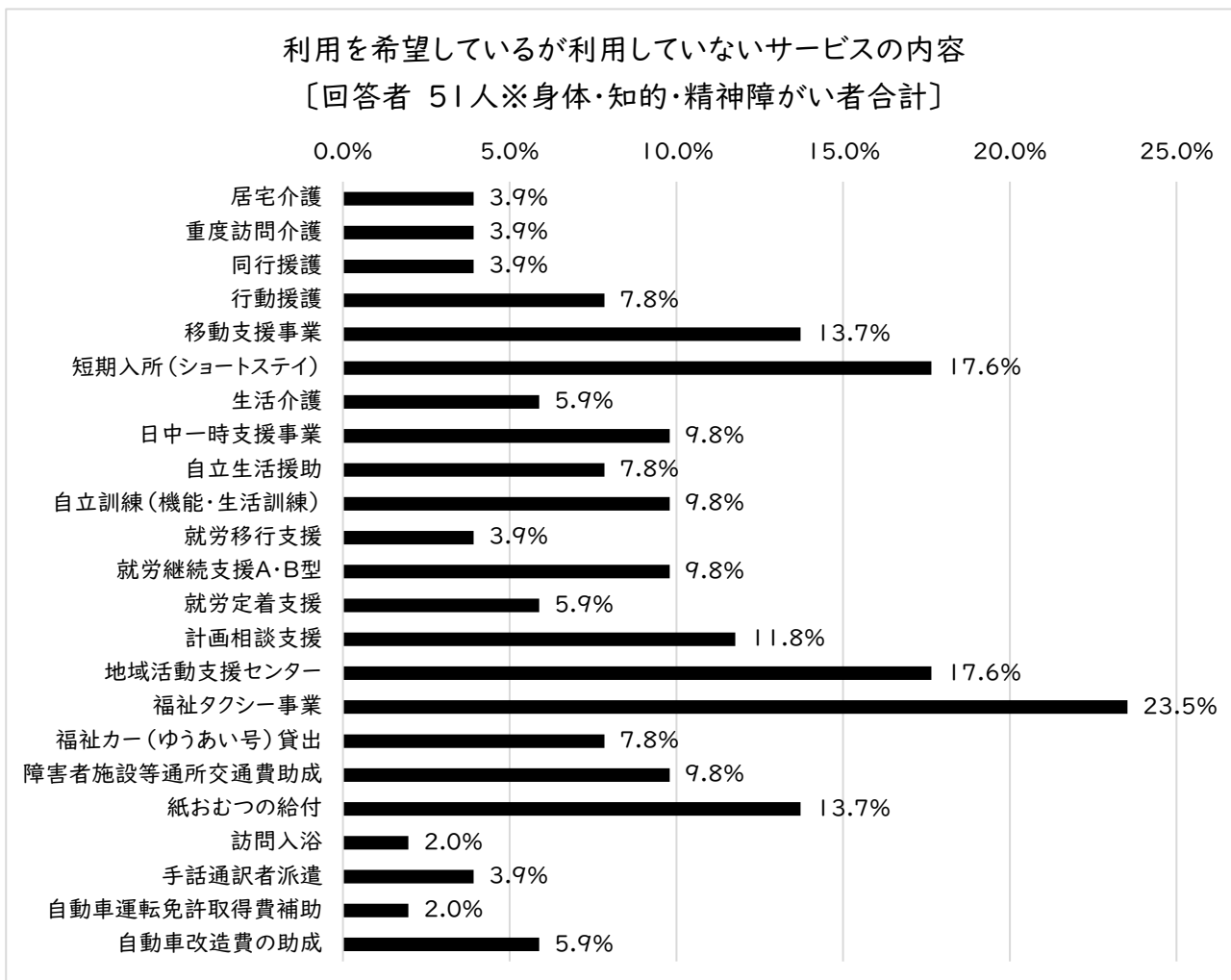
① 利用を希望しているが利用していないサービスの有無

利用を希望しているが、利用していないサービスについては、身体障がい者の12.7%、知的障がい者の21.8%、精神障がい者の約24.0%で「ある」との回答でした。



② 利用を希望しているが利用していないサービスの内容【重複回答項目】

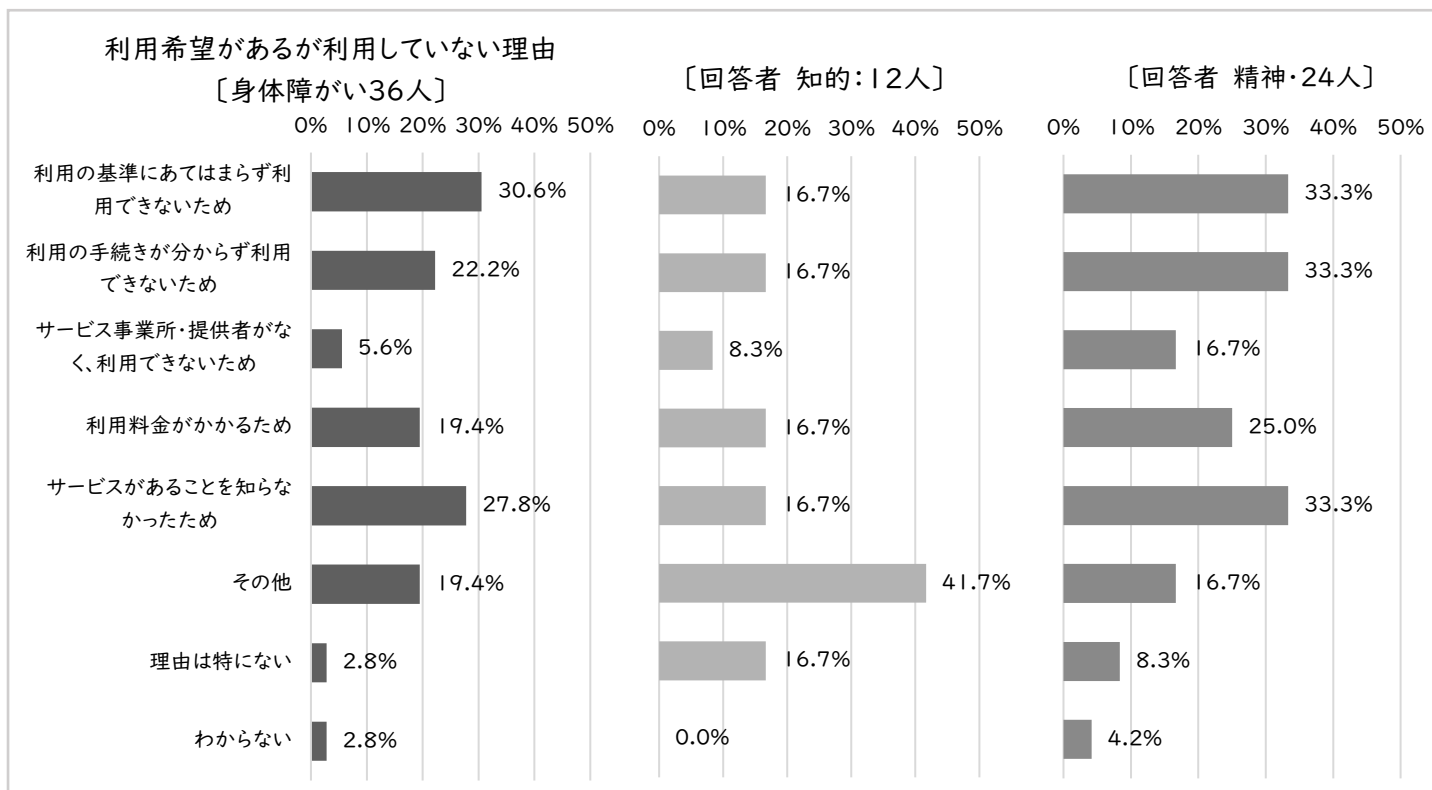
利用を希望しているが利用していないサービスは、「福祉タクシー事業」が23.5%で最も多く、次いで「短期入所(ショートステイ)」「地域活動支援センター」となりました。



③ 利用希望があるが、利用していない理由 【重複回答項目】

利用希望があるが利用していないサービスがあると回答した方について、利用していない理由を伺いました。身体障がい者については、「利用の基準にあてはまらず利用できないため」が最も多く、30.6%でした。知的障がい者については「その他」が最も多く、精神障がい者は、「利用の基準にあてはまらず利用できないため」「利用の手続きが分からず利用できないため」「サービスがあることを知らなかったため」との回答が多いという結果になりました。

「その他」の理由としては、新型コロナウイルスの影響で利用を控えていた、ニーズにあう事業者がなかったなどがありました。



◎その他の理由

- ◆新型コロナウイルスの影響・・・コロナ感染症流行の為受入不可 / コロナ禍なので / コロナ禍のため / コロナ沈静待ち / コロナで受け入れ人数が少ないため / コロナの影響。今は余裕がないため
- ◆事業所・・・安心して利用できる事業所がなかった / 自身のニーズと合致した訓練先が見つからない / 事業所に行っても自分の所まで職員さんが手が廻らないため
- ◆現在のところは希望していない・・・現在、自力でできている / まだ利用しなくても大丈夫 / 今すぐには希望していないため
- ◆他・・・社会参加を目的とあるが通院などには使えませんか？ / 将来は利用したいが今は必要ない / 母が入院した時どう過ごすか相談した時②を利用したらどうかの話が出来ました。また母入院になったら必要になるのかな？ / 利用機会がなかった / 援助者の健康状況により / 交通費が高い

4 自由意見（身体・知的・精神障がい者）

※掲載する意見は、できる限り原文のまま掲載しています。

分類	記載内容	障がい
福祉サービスの拡充・質の向上等	白井市内で、グループホームが増えるとうよいと思います。親亡きあとに、安心して暮らせて、金銭面についても悪用されず安心してまかせられる市役所の部門ができたらと思います。個人にまかせせる成人後見人はリスクがあると思います。	知的
	白井市内でのグループホーム入居を希望していますが入居先がありません。本人の体力と介助者の体力が釣り合わなくなり大変です。早期の対応をお願いしたいです。	知的
	白井市役所でグループホームを作ってほしい。私も今年で83歳、息子は50歳になります。早くグループホームへ入りたいのですが、ぜひお願いします。	知的
	中・重度知的障がい者が親の死後も生涯にわたって暮らしていけるしっかりしたバックボーンを持ったグループホームは、まだ市内に数も少なく、一部の事務所に限られているように思います。安心して預けられる施設を、行政主導で十分な数に増やしていただきたいです。	知的
	グループホームにカメラ、簡単なテレビ電話など必要ではないでしょうか。あった方が、本人、家族、ヘルパーさんのためになると思います。コロナのせい、変な事件、事故が多すぎる。	知的
	現在、農園型障がい者雇用で●●【駅名】付近にあるファームに働いている。6時間フルタイム、社会保険加入。白井駅から徒歩、電車で●●まで約45分位。近い将来、親が高齢になり、施設で暮らすことになれば、自分一人独居せざるを得ない。白井・西白井駅から徒歩10分位内、働く知的障がい者のための住居(個室型)シェアハウス・団地(管理人常住)を確保してほしい。	知的
	精神障がい者のグループホームをもっと増やしてほしい。将来、安心して暮らす事が出来る居場所がほしい。障害福祉課は、コロナの感染防止対策がなされていないので相談しに行く時など少し怖い。職員の方の体調も心配になります。	精神
日中活動の場の充実	障がい者の通所サービス、レクリエーション、交流などの情報が必要です!	身体
	コロナで、病院での作業療法が中止になり、創作活動やコミュニケーションに通う場がなくなりました。日中通いの場があれば、情報がほしいです。	精神
	(現住所に最も近いデイサービス所に歩いて往復したい。)桜台	精神
	印西温水センター、アンデルセン公園等の障がい者向け対応は、外出の動機づけとなり有難い(同伴者を含めての対応をお願いできれば。)	精神
	運動したくてもなかなか出来なくて、ジムみたいな所を利用したいが、他の人と一緒になったりすると人目が気になってしまうので、個室で運動とかが出来るスペースや場所があると嬉しいです。	精神
既存サービスの拡充(緊急通報装置・補聴器助成)	市の緊急通報(月200円)を利用しているが、食器棚や他の棚に置いてあって、いざという時には、腕時計の様にどこでも体につけてあればいいと思う。月1回のTELはとても喜ばしい。回数があるともっと安心と思う。	身体
	両耳の補聴器補助のおかげでサークル活動等充実した生活を過ごしています。市から片方だけの機器の援助していただき金銭的に助かり感謝しております。ありがとうございます。これからも加齢による難聴が進むと思いますが両耳の機器援助があれば喜ばしいです。	身体
短期入所等の拡充	緊急の時の預り体制についての施設	知的
障害福祉サービス・介護保険のサービスの要件緩和等	デイサービスで入浴トリハビリをうけたいのですが、送迎されたくない(自分で通いたい)ので断念しました。	身体
	同居者がいる場合、利用出来ないサービスが多すぎる	身体

分類		記載内容	障がい
福祉サービスの拡充・質の向上等(つづき)	適切なサービス提供	本当に困っている方へ直のサービスが提供できる事が大切だと思います。「自分でできる事は自分で」を障がいがあるからこそをモットーにして生きてきました。しかし、先のごことは色々と不安になります。	身体
		「和楽」について、放課後支援の重要性を鑑み、これからも存続されることを希望します。	知的
		障害者支援センターの指定管理について、今まで通り社会福祉法人フラットに運営していただくことを希望します。	知的
	サービスの質の向上	障がい者の就労を利用したが役に立たなかった。就職させる熱意も感じられなかった。障がい者の等級で対応が違いがっかりした。	身体
		福祉カーの給油場所が限定されているので、利用し難いし、給油時むりやり給油する方の行動に驚いた。また、利用後の確認(清掃)があいまいで、個人情報の明記された書類があった。	身体
		ショートステイの利用を考えたが、施設のスタッフの人的環境が悪く利用を諦めた。利用する人数とスタッフの数が少なく目が届いていない。介護者をもっと増やさないと安心出来る介護が受けられない。	精神
		働いてみたいのですが、自分の特性を理解又は援助してくださる事業所が増えると良いと思います。(音に敏感、マルチタスク、臨機応変作業不可)	精神
	移動支援の拡充	循環バス・路線バスの充実	現在スーパー(西白井駅前など)の買物には路線バスを利用していますが、ナッシー号が無い。あっても遠回りして30分も掛かる、以前のように西白井駅や新鎌までの運行をお願いしたい。現在どのバスも2時間に1本です。天気の悪い日はどうする。(墓参りにも35分もかかる)白井聖地公園誰も乗降していないのに遠回りでは、工業団地を過ぎると誰も乗降りする人はいない墓地まで私1人の時が多い。以前は20分くらいで墓地についていたのに畑の中や田んぼ道を通って無駄な費用をかけている誰が決めたのか。
障がい者であるからこそバス等を利用したいが、便数が少なく不便を感じる事が多い。難しい課題だが高齢になっていくから今後はさらに強く感じる。			身体
病院とか必要な所に行きたい時、無料のバスをお願いいたします。			身体
障がい者に限らず白井市全体の高齢化が進むため(免許返納の推進と共に)ナッシー号の拡充等移動手段の充実を望む			身体
ナッシー号のルート変更があったり廃止があったりと、他地域への通院とかで不便がある方が多いと思います。富士地区の新鎌ヶ谷ルートとかが不便です。いつもお世話になっております。今後ともよろしくお願い致します。			身体
ナッシー号の路線が変更になったので新鎌ヶ谷までの交通が不便となった。従前は大松~新鎌ヶ谷まで50円で乗車できたが、今はなくなったので出る機会が失われた。			身体
タクシー券の拡充		今運転できるが、できなくなったら福祉タクシーとか介護タクシー等気軽に利用できるように代金は500円、1000円単位(1回)かかってもいいと思います。できない人は市の利用券等で。バスだと目的地まで行かれないので。	身体
		いつもお世話様です。月に2回ほど通院していますが、介護タクシーの料金がチケットを利用しても往復1万2千円です。チケットの枚数を増やしていただくと助かりますよろしくお願い致します。	身体
		夫を介護している81歳の女性ですが、病院往復や買い物、銀行など外出する時タクシーを使っていますが、費用が高くて困っております。●●【福祉有償運送団体名】は助かっています。	身体
		交通手段の割引を設置してほしい(タクシーの割引等)	身体
		タクシー券の補助が少なすぎる。	身体
		暑い時期にタクシーを利用するのですがそれを無料にしてほしいです。	精神
車いすでの移動の不便さ		歩行支援補助者、シニアカー等への助成金を熱望。車いすでの歩道の歩行は、難しく体力が必要。水はけのためのわずかな傾斜が思いのほか大変で外出を考慮する。皆さんにも体験してほしい。	身体
	役所や福祉センターなど車いすで通れないところが多すぎる。少しの段差で引かかるため、平らにしてほしい。・歩く練習をしたいが公園やドラックストアなど動物と散歩ができない。・土日祝日でも利用できる施設を増やしてほしい。・コロナ対策用に透明カーテンを吊るして、マスクもしているため声が聞こえないので大きい声にしてほしい。・全てを理解している方に窓口に出てほしい。	身体	
	文化会館は車いすには不便	身体	

分類		記載内容	障がい
移動支援の拡充(つづき)	車いすでの移動の不便さ(つづき)	電車に乗る時の割引きのシステムをもっと簡素化してほしい。子供キップ買うとか窓口で精算とか手間をかけるのをやめてほしい。障がいがあるのに健常者よりも手間がかかるのがおかしい。	身体
		移動手段がもっと簡単に利用できるとよい	身体
		歩道を車椅子幅2台分すれ違える道を目指してほしいです。これから建築される家、近道、許可、現場をよく見て判断してください。5年後、10年後、良い市でありますように願います。	知的
	移動に関する費用支援策の拡充	交通費、駐車場等に対する補助金があるとよい。北総線等、高額な出費となる。(病院が遠いため)	身体
		タクシーを利用しないので、ガソリン代の給付をしてほしい。	身体
		歩行支援補助者、シニアカー等への助成金を熱望【再掲】。	身体
		施設利用時の運転者も費用負担していただきたい。現在姉が運転している。	知的
		障がい手帳があっても交通(電車)の割引きがなくて交通費がかかりお金のやりくりが苦しいです。(横浜ではバス、地下鉄が無料でした)	精神
		精神障がい者も受けられる交通費の割引などお願いしたい。(遠い所は運賃が高く出かけられない。車なし、徒歩のみ)	精神
		等級に関わらず、全ての交通機関の割引を見直してほしい。障がいの重さは、あくまで目安だと知ってほしい。抱えている悩みに適した重さには、ならない。	精神
	旅行時に割引できる制度がほしいところです。	精神	
	その他移動支援全般	●●運転サービスに依頼を試みましたが態度がとても冷たく白井、西白井地域から居住地が離れていて対象外、もしくは割増料金でタクシーを呼ぶ方が安くつくため利用を諦めました。我が家は、運転できる者はいますが、自家用車がないため通院にとても苦勞しています。桜台センター付近で障がい割引があるカーシェアリングがあったり車椅子がいざという時貸していただければ助かります。前回動けなくなった時、車椅子を市役所で貸していただきましたが返却は徒歩で電車でした。福祉の地域格差を痛感しています。	精神
		現在は自力で移動できるため特に困っていることはないが、一人で動くことが難しくなった時に病院までの移動手段に不安を感じています。	身体
		市の駐輪場を、障がい者用のスペースを考えてほしい	身体
タクシーに乗った時、手帳を見せたら明らかに嫌な顔された。なぜ? タクシー業者が障がい者を乗せるともうからないシステムをやめてほしい。		身体	
電車を降りて手帳とPASMOでの清算が面倒のため、手帳とPASMO一緒にしたいです。		知的	
介護と障がいの両方がある場合の利用の仕方について、分かり易く広くお知らせがあるとよい。障害福祉サービスの利用方法や内容がまったくわからない。まず、利用の案内から教えてほしい。		身体	
相談窓口・情報提供等の充実	情報提供の充実	障害者等級が進んでいると思う、手帳の更新も必要と思いますが、手続きはどうか教えてください。	身体
		リハビリを長期間してくださる場所がないか。	身体
		知的障がい者のグループホームや短期入所ができる施設などの情報を提供してほしい	知的
		移動やもしもの時の別行動気になる事があった場合に少しでも大丈夫な方法があれば、情報も含めて聞いておきたいことはあるかなと思いました。地域に居る場合でも何かわかる事があった場合は、出来る範囲の事に関しては少しでも手助けできる事はあるんだと気がつけそうです。福祉サービスと障害者手帳については、違いを十分に理解し、最初にたのんでいる利用に必要なのかをもう一度職員の方達にも聞いてみてから発行して頂くべきか検討してもらおうと思います。	精神
		精神障がい者が住める住宅の情報、精神障がい者も受けられる交通費の割引などお願いしたい。(遠い所は運賃が高く出かけられない。車なし、徒歩のみ)【一部再掲】	精神
		自身に関する生活に役立つサービスについて、メールや手紙などで発信があると助かると感じます。	精神
		個人的に文書など難しい文章は理解が難しい時があるので、分かりやすい言い回しの文書があると助かります。	精神

分類	記載内容	障がい		
相談窓口・情報提供等の充実(つづき)	相談窓口の充実(つづき)	障がいの種類や年齢等によって様々な課題があると痛感している。障がいになって30年、向き合ってきましたが、いざ相談をと考えても、相談窓口の体制や相談支援の資質向上など、当事者が安心して暮らせるよう実践を望みます。更に誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、私ごとですが札幌市のわーかーびいの取り組み、今回のアンケートが無にならないよう市の福祉計画の再考を。	身体	
		今のところは、自分で出来る事がほとんどですが、先のことは不明なので、相談先や連絡先などを細かくわかりやすいものがあると助かると思います。	身体	
		夜中の緊急事態が起きた時の対応してくれる場所がほしい、一人暮らしのため、病気や怪我をした場合に緊急に対応してもらいたい。	知的	
		今後、一人暮らしをしたいと考えています。何も分からなく不安なので親だけでなく相談に乗ってくれる人がいるといいなと思います。	知的	
		医療的支援の必要な難病とともに暮らす人のため、服薬・通院等支援のできる専門知識をもったメディカル等による体制を整えて頂けるようお願いしています。	知的	
		障害福祉計画の説明がないので相談する手段がない。	身体	
		最近もの忘れが多くなってきたので心配です。認知症の相談窓口が知りたい。	精神	
		どこの誰に何をどう聞いたらいいかわからない。収入の不安を質問したら職員に困られてしまった。窓口の人は、パソコンに向かっていて。どこの窓口も、番号を取ったりして順番がわかりやすく職員の人も対応しやすいやり方を考えてほしい。 私は精神の手帳を2年前に取得しましたが病的には10年前からそういう状態になっていて白井市の方に相談しても対応がひどかったのであきらめていました。しかし2年前に親の状態が悪化して経済的にも自分の精神的にも限界の状態までいきました。白井市ではなく、千葉県の精神障がいの担当の方に相談した所、現在いろんなサービスに関してはまったく期待していません。私の感覚では高齢者と子供には力を入れていくけど精神の障がい、ひきこもり対策には力を入れていない気がします。(タクシーも精神一級でないといサービス受けられなかったり)	身体 精神	
		障がい福祉に関して、まんべんなく職員が対応してくれるのは良いが、詳しい職員が少なく、手続きにあたって上席の人と替わり2重の説明、手続きになる事が多く、心身が疲へいする。	精神	
	経済的支援		給付希望(親の遺族年金のみ生活9万 母96歳)	身体
			外国人の障がい者に対する福祉手当もしくは、白井市の身体障害者手帳1.2級の交付を受けた方に対する福祉手当。障害年金を頂いてますが、生活上で少しでも楽にできる為には、白井市からこの制度があれば大変助かります。ご検討のほどよろしくお願いたします。	身体
			年金や給付金をもっと高くしてほしい	身体
		特に今はありませんが、やはり身体が不自由になった事で収入が得られず不安です。金銭面は国も市も大変な時なので難しいと思いますが、、すみません。	身体	
		白井市では、身体障害者手帳1-2級の交付を受けた方に障害福祉手当の制度がありませんが、今後より、生活上で少しでも負担を軽減できるようにこの制度があると大変助かります。ご検討のほどよろしくお願いたします。	身体	
		年金生活者です。もっと補助をしていただきたい。おむつ代、デイサービス、ショート、全てにお金がかかります。介護により仕事も辞めることになり、金銭的に苦しいです。	身体	
		障がい者でも自立したいです。しかし相手がいません。まだ、親が頭在なので、親と一緒に住みたいです。もっと、収入がほしい。最低1か月に15万円以上。	精神	
		働けないので経済的な支援をしてほしい。毎年、年金が減らされていく。去年は1%減った年金受給者の所得は減るばかり。これがこの国の政策なのか。言っていることとやっていることがまるで違う。	精神	
		成田市のように、障がい等級別の給付金があると助かります。現在精神の3級を持ち、働いていますが、年金も手当も少ないので、月々の給与も少なく、目標の1人暮らしまでが遠いと感じています。配慮はほしいので今の職場で働きたいのですが…。	精神	
		年金が少ない為苦しくても仕事をしている。せめて税金をゆうぐうしてほしい。年金(きそ年金等)で仕事しないでくらししていきたい。死にたいと思う事がたびたびある。	精神	
	難病見舞金	私は難病患者ですが、白井市は難病見舞金の支給を実施していません。やはりあった方がありがたいと思います。	身体	
	ストマへの支援	人工肛門でストマを使用しています。2か月に1回公費負担額17716円支給していただきましたとてもありがたいですが、もう少し、出来ましたら20000円に公費負担額を増やしていただきたいです。	身体	

分類		記載内容	障がい
(経済的支援)	医療費助成の拡充等	他の市に住んでいた時には、病院治療全部無料でした。3級以上の手帳を持っている人	身体
	診断書取得への支援	身体障害者認定継続の際に提出する診断書の費用が高く負担に感じています。簡易的な証明書若しくは公的援助を受けられないでしょうか。 判定に医師の診断書が必要となるのですが、病院によっては高く補助があると助かります。柏市や船橋市などでは補助があるようなので。	身体 精神
地域・社会全体の環境整備等	医療機関の充実	白井市の近くに良い精神科の病院が本当に少なく、病院も選べません。あと障がい手帳があっても交通(電車)の割引がなくて交通費がかかりお金のやりくりが苦しいです。(横浜ではバス、地下鉄が無料でした)	精神
		病院初診時に事情を話すと受診を断られてしまうケースがありました。(市内病院)そのため、初診で病院に問い合わせをする時、精神疾患がある事を伝えずに受診するようにしています。	精神
		メンタルクリニックやカウンセリングを受ける場が身近にもっとあるとよいと思います。	精神
		病院に支払う費用のことで矛盾を感じている。	身体
	手厚い福祉・経済安定等	色々良く行政がやってくれていて、安心です。さらにきめ細かい障がい者福祉を行ってください。	身体
		お陰様で今は暮らしていますが、体調が崩れるのは一瞬です。明日の事も不明で3年以内の予定はわかりかねます。手厚い福祉を期待いたします。	身体
		もっとふくしのよさんをふやしてほしい	精神
		経済的に困っている人が多く自分より立場の弱い人をいじめたり、ネットで悪口を書いたり、八つ当たりする大人や子供が増えたと思います。日本の経済が良くなって中流階級の人が増えないと日本人はもっと残酷になっていくと思ったので経済を何とかしてほしいです。	精神
	地域のつながり・助け合いの醸成	現在は主人も元気で、周りに娘家族もいますので手助けをしてもらっていますが、いつ、どのようなことが起きるかわかりません。そんな時は人と人との(知人・友人)助け合いが必要となります。これからの人生どうなるか、あまり不安を持たず穏やかな毎日を過ごしたいと思います。	身体
	環境の整備など	健全者も障がい者も楽しめるガーデンがあったらよいなあ。	身体
施策の中に街中にベンチを設置(増やす)していただきたい。コロナ禍が続く間は、どのサービスを利用するにも不安で控え気味になります。まずは、外へ出る機会を増やす為にも「休憩ベンチ」		身体	
・自転車に補助輪がふつうが見た目良いですね(年齢、障がい気にせず)。富士公園予定地 ドクターヘリは、富士中(南園)の方が安全です。近くに良く自衛隊機が通過します。もちろん知っていることだと思いますがね? 富士中予定地駐車場も広いので安全ではないでしょうか? ハクビシンが住んでいるのでは? 外来種? でも、保護してほしいです。		知的	
買い物支援	買物に行けない日のために、●●【市内スーパー】がオンラインで注文して配達してくれるようになってほしい。	精神	
各種支援の充実	出会い・結婚支援	出会いがないので、私のような発達障がいの人でも利用できる結婚をする人が集まる様な出会いの場を知りたい。	精神
	軽度者への支援	軽度な障がい者でも利用できる支援が増える事を希望します。	知的
		症状が軽い人でもきがるに相談をうけることが出来ると良いと思います。重度の精神障がいではないため頼りにくい。	精神
家族支援	精神的な安心・安全の確保に努めたい。家族の負担、軽減を図りたい。	身体	
感染症・災害等	感染への不安	コロナ禍環境において感染リスクのストレスを日々感じて過ごしています。車を所有しない私が感染したらどこにどのようにしていけばよいか。	身体
	災害・防災無線の改善	聴覚障がいのため、有線放送の音が聞き取りにくい。全市民に届くようにマイクを左右に動かしているのでしょうか、聞き取りにばらつきを感じ内容がわからないで終わることが多い。改善は難しいですがご理解ください。	身体
		障がい者の防災訓練、災害時の心得等	身体
差別の解消・その他		障がいがある本人に対する差別用語(●●、●●)等の言葉をつつしんでほしいと考えております。市の方に対する私への心配りはとても嬉しいと思います。思いやりのいつも有難うございます。	精神
		障がい者や生活困きゆう者に対し、敵視する風潮がある。	精神

分類	記載内容	障がい
今後への不安・サービス利用の可能性	今の所は支援を必要としませんが、半年後は分かりません。急に状態が変り利用せざるえなくなると思いながら生活しています。	身体
	今は元気ですので深く考えたことはありませんが、年齢が行くに従いどんな事がおこるか考えられません。	身体
	90歳一人暮らしですから頑張れるだけ頑張ってあとは養護施設で暮らしたいと思っています。	身体
	親がなくなった後に心配なく過ごすことが希望です。	身体
	現在は特別困っている事は特別にありませんが、近い将来困る事が出てくると思っています。	身体
	現時点ではおかげさまで自立生活ができています。特に不自由なことはありませんが今後なにがあるかわかりません。今後ともよろしくお願いします。	身体
	私は聴覚障がいですが、生活に必要な会話は経験でこなして来ましたが…高齢による機能低下で少し不自由になってきています。人との会話が減ることで認知症の心配があります。	身体
	私の場合、4級なので生活には何の支障もありません。今後、再度手術が必要になるかもしれませんが、今は仕事もできています。その時は収入も無くなり不安かも!	身体
	今の所は元気に活していますが、何しろ高齢ですので先の事はわかりません。お世話になる事があったらその時によろしくお願いします。	身体
	私は身体障害者4級 呼吸器右肺摘出 車イスは利用していないが、いずれ車イス生活だそうです。最近妻が認知症で要介護1になり、老々介護で全てが行動力を含め、生活に支障があり、毎日ボンヤリ過ごしてケアマネージャーと相談しながら生きてゆきます。	身体
	今は元気で3年以内にお世話になる可能性はありますが、いつ急に病気になるかわかりませんので、もしなったら諸サービスをお願いすることになります。	身体
	現在のところ、自力で生活できていますが、将来的には何らかのサービスをうけるようになるかもしれないため、その際にはよろしくお願いします。	身体
	現在は妻と暮らししており不自由は全くありません。今後困ったことや利用したいサービス要望が発生したときは、ご相談に伺いますので宜しくお願い致します。	身体
	今後3年以後利用できたらと考えています。	身体
	今後3年以内では利用は考えていないが5~10年では必要になるかもしれません。	身体
今の処落ち着いて見守り助言で間に合う状況になっていますが、高齢の親に何かあった時どのように症状全てに変化有りパニック色々状態、その時本気で級関係なく安心できる事希望(集団人との暮らし等無理有故→病気)	精神	
現在は就労し普通に生活できているが、今後どうなるか分からない。体調が悪くなった時、仕事が続けられなくなった時のセーフティネットが増えるとういと思います。	精神	
特になし・現状について	特になし。今のところ希望なし(同様9件)	身体
	いつもありがとうございます。引続きよろしく願い申し上げます。(同様2件)	身体
	現在入院中	身体
	直腸機能障がいにて大変お世話になり有難く感謝申します。好転する事のない状況なので、不安なこともありますがお支援に感謝して頑張って参ります。ありがとうございます。	身体
	パウチの給付ありがとうございます。たすかっております。	身体
	補聴器購入補助には感謝している	身体
	分からないときはケアマネージャーに相談に乗ってもらっていますが、今現在は満足しています。	身体
	タクシー券があるのでバスで行けないところは助かります。これからもよろしく願いいたします。	身体
親切優しくてありがとうございました	身体	

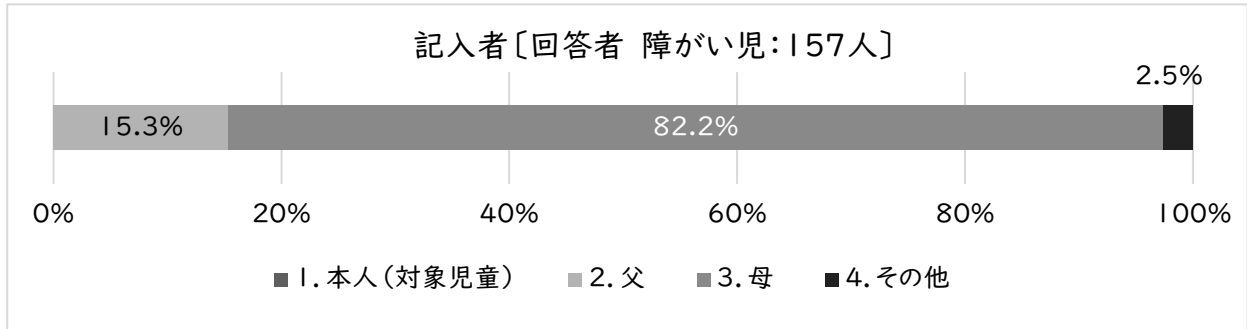
分類	記載内容	障がい
特になし・現状について (つづき)	ミニデサービスを週2回利用させていただいています。今後も続けていきたいと思 います。2022年12月7日に左肢関節の手術をしました、回復中です。	身体
	身体障害者手帳を交付されて1年にもならないので理解が不十分です。	身体
	グループホームでの生活も今年8年になります。白井市に来て本当に助かりました。 世話をしてくださる方々も一生懸命に頑張ってくださっている子供を見るとわかります。 親も70歳過ぎ体も色々悪くなりますが、なるべく逢える日を楽しみなので頑張ります。 いろんな支援をありがたく思います。本人の年金等で助かります。	知的
	いまのままでよい	知的
	いつも親切に対応してくださり、ありがとうございます。	精神
	ウェルプラットの方々には色々とお世話になっております。コロナで毎日大変かと存じま すがどうぞご自愛下さい。	精神
	お世話になることが心苦しく、ふががなく要望などできません返送が遅くなり申し訳あり ません	精神
	特になし(同様2件)	精神
	ほぼ1人で過ごしています。精神障がいだけでなく両足のしびれで不自由です。	精神
	外出するのにコミュニティバスがあり助かっています。 (なっしー号生活バス)費用もかからず安心です。外出が減り、社会との繋がりが少な くなりましたが、保健福祉センターで活動の場をくださり感謝しています。	精神
アンケートへの意見	こういうアンケートは訪問してやってほしい。自分で読んで答えるのが難しいから。	身体
	障がい者への理解、支援に心から感謝しています。現時点では出来る限り自力の努 力を志しているものの明日がわからない状況にあるので回答しにくかった。将来の予 定は利用 or 未利用について	身体
	問24 その他、今後の白井市の障がい福祉施策について、ご意見ご要望がありました ら、自由にお書きください。アンケートは障がい、暮らし、サービスについて聞かれてい ると思います。問24は福祉施策についてとなっています。違和感があります。困りごと の意見を求められればかく事は難しくありませんが福祉施策となるとハードルが上が ります。	身体
	上記①から②【地域移行支援・地域定着支援】の具体的な内容を知りたいです。今 後の生活をどうしたい人向けのサービスなのか文章だけでは分かりませんでした。	精神
	こういうアンケートは、Webでやってほしい。	精神
	わからない項目がありました。(問20)	精神

5 アンケート調査の結果詳細 (障がい児)

5-1 回答者の属性

(1) アンケートの記入者

アンケート記入者は、「母」が8割以上となっています。

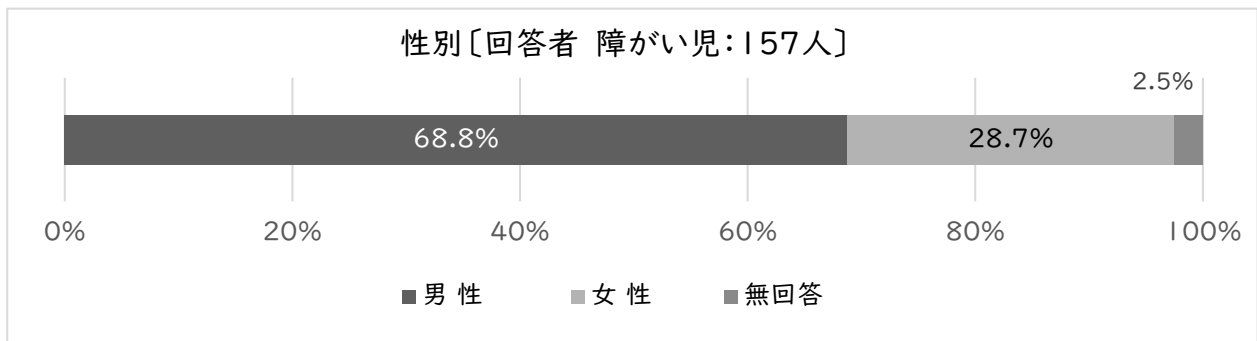


◎その他の内容 祖母

(2) お子さんの性別と年齢 (令和5年1月1日現在)

① 性別

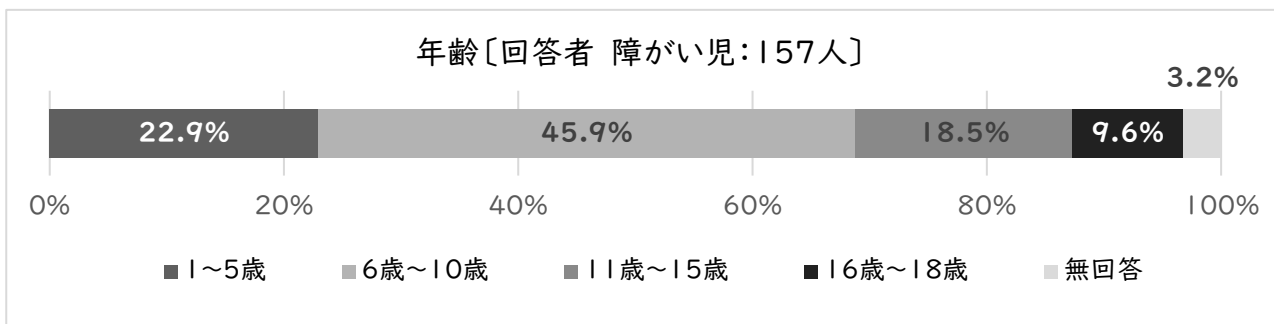
回答者の性別は、男性が約7割、女性が約3割となっています。



② 年齢

回答者の年齢は、6歳～10歳が最も多く、約半数を占めています(45.9%)。

次いで1～5歳(22.9%)が多く、11～15歳(18.5%)、16～18歳(9.6%)と続いています。

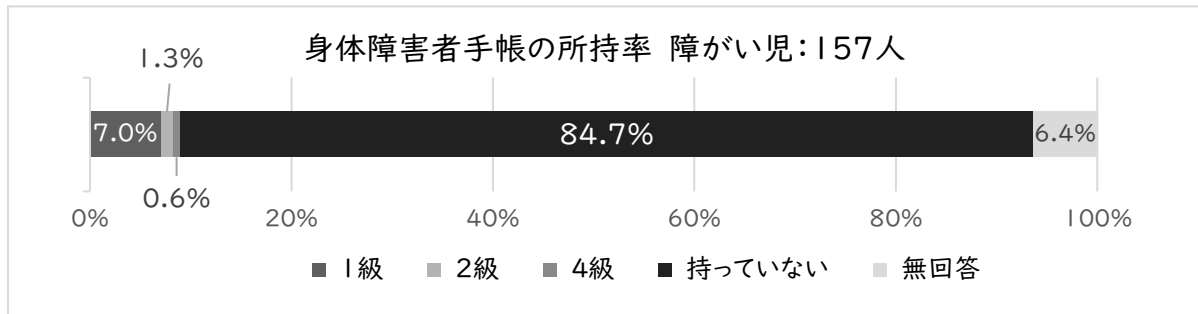


5-2 お子さんの状況

(1) 障がいの等級や種類など

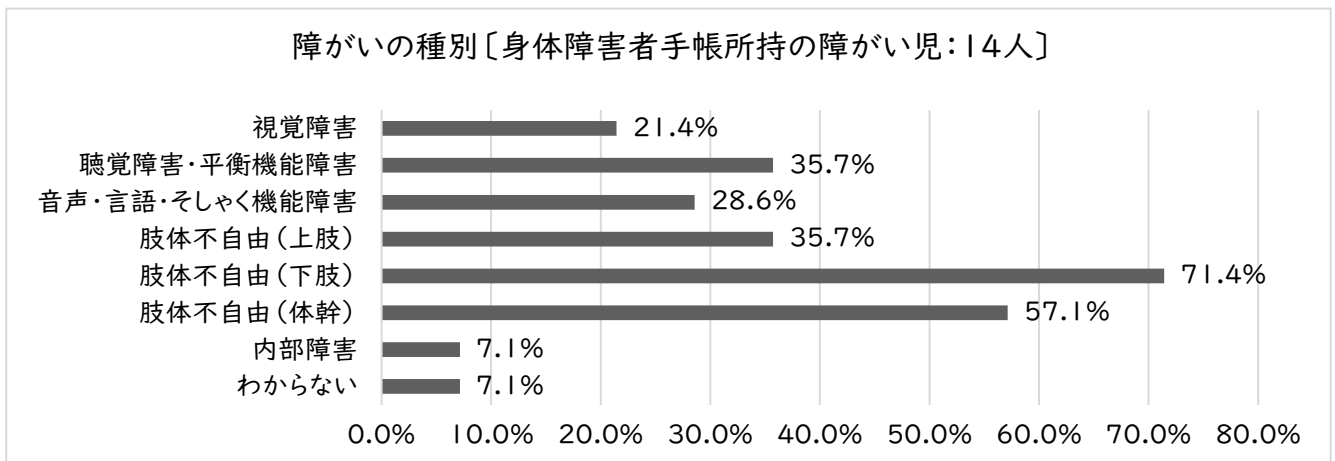
① 身体障害者手帳の有無と等級

「持っていない」が8割以上となっています。身体障害者手帳を持っている人のうちでは、等級は「1級」が最も多く(7.0%)、次いで、「2級」(1.3%)となっています。



② 障がいの部位【重複回答項目】

障がいの種類、部位については、「下肢障がい」が71.4%と最も多く、次いで、「体幹障がい」が57.1%となっております。

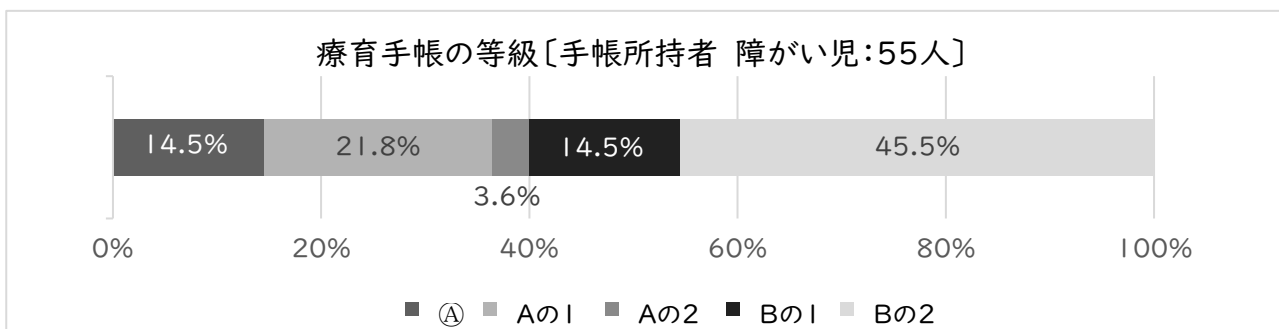


※割合の母数は、身体障害者手帳を所持していると回答した14人

◎その他の内容 発達障がい／発達障がいの疑い

③ 療育手帳の所持

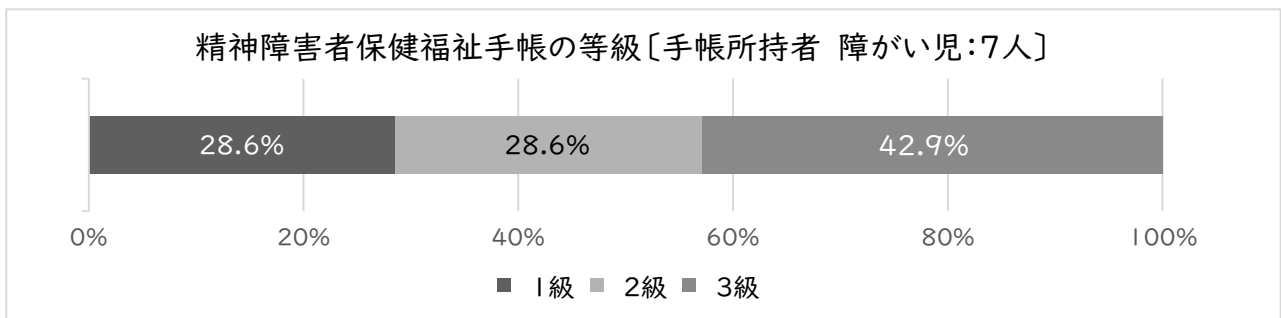
療育手帳の等級は、「Bの2」が45.5%で最も多く、次いで、「Aの1」が21.8%となっています。



※割合の母数は、療育手帳を所持していると回答した55人

④ 精神保健福祉手帳の有無と等級

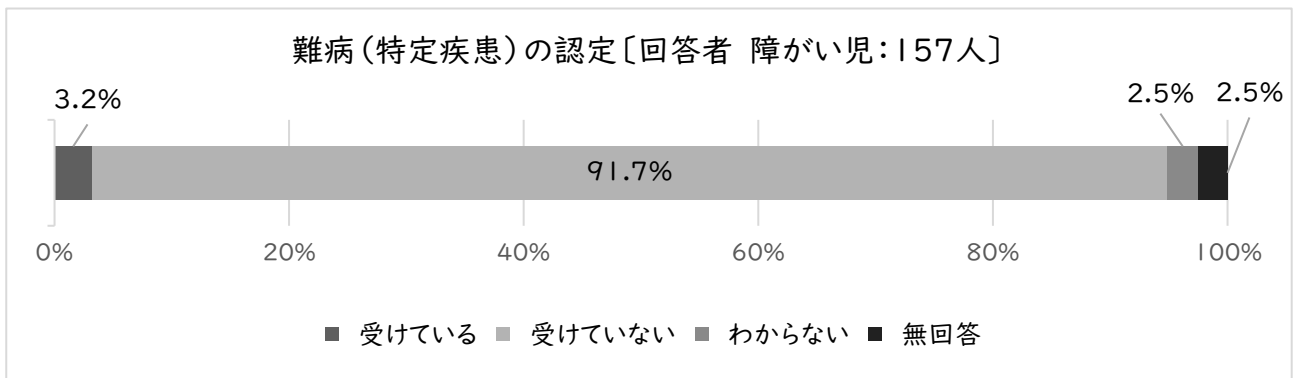
精神障害者福祉手帳の等級は、「3級」が42.9%と最も多くなっています。



※割合の母数は、精神障害者保健福祉手帳を所持していると回答した7人

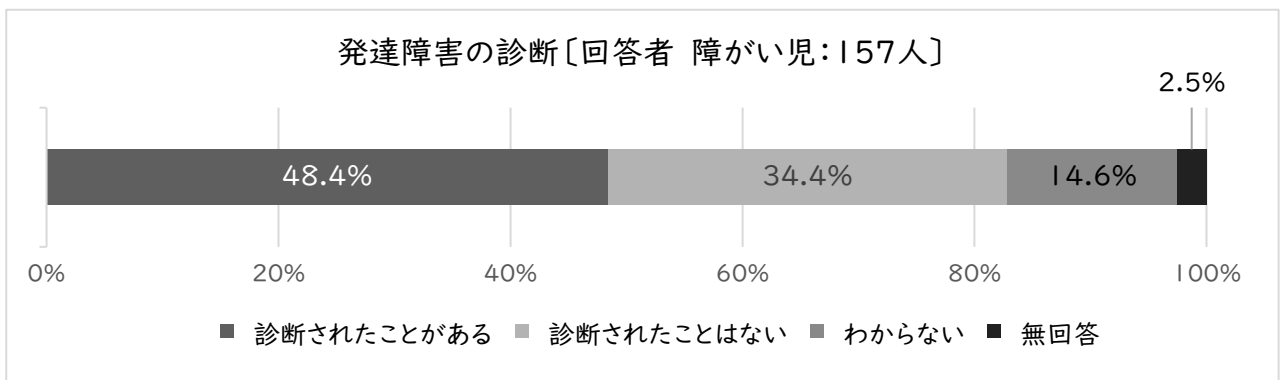
⑤ 難病の認定状況

難病(特定疾患)の認定は「受けていない」が最も多く、91.7%となっています。



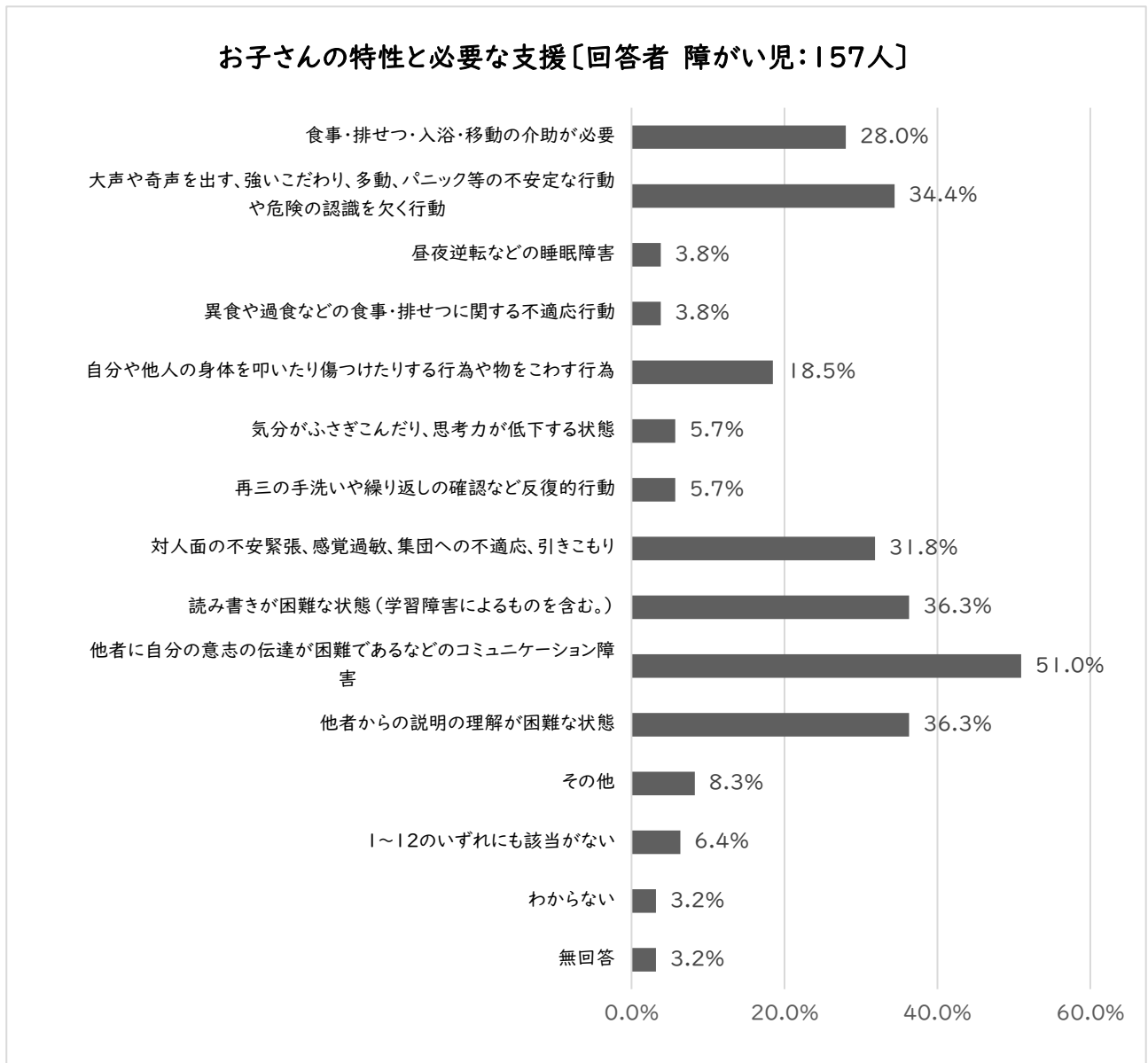
⑥ 発達障害の診断の有無

発達障害の診断については、「診断されたことがある」が約半数となっています。



⑦ お子さんの特性や必要な支援に該当するもの・近いもの【重複回答項目】

お子さんの特性で最も多い回答は、「他者に自分の意志の伝達が困難であるなどのコミュニケーション障害」で51%を占めています。次いで、「他者からの説明の理解が困難な状態」と「読み書きが困難な状態(学習障害によるものも含む。)」がどちらも36.3%となっています。



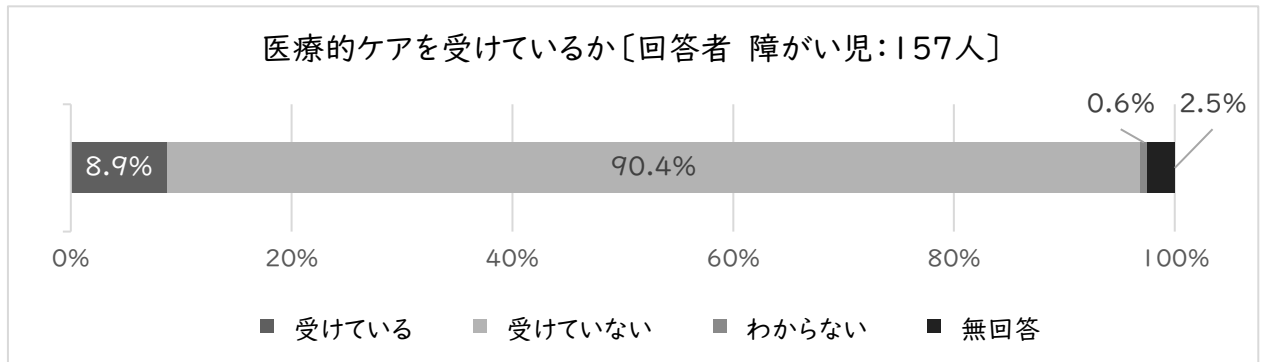
◎その他の回答 ※◆は同様の内容をまとめた項目

- ◆言葉の遅れ・・・言葉／言葉が遅い／言葉が少ない(あまり話さない)／言葉の発達の遅れ／構音、吃音
- ◆行動面・・・集団についていくのが少し遅い／多動／勝手に体が動く／癩癩、何でも自分が関わろうとする
- ◆感覚面・・・感覚鈍麻(一部)／食事は同じものをずっと食べる
- ◆運動・操作面・・・姿勢保持／運動全般／手先の不器用さ／ボディイメージがつきにくい
- ◆他・・・発達が遅れているので促す必要がある／成長過程での遅れや問題の発見

(2) 医療的ケアが必要なお子さんに対する支援

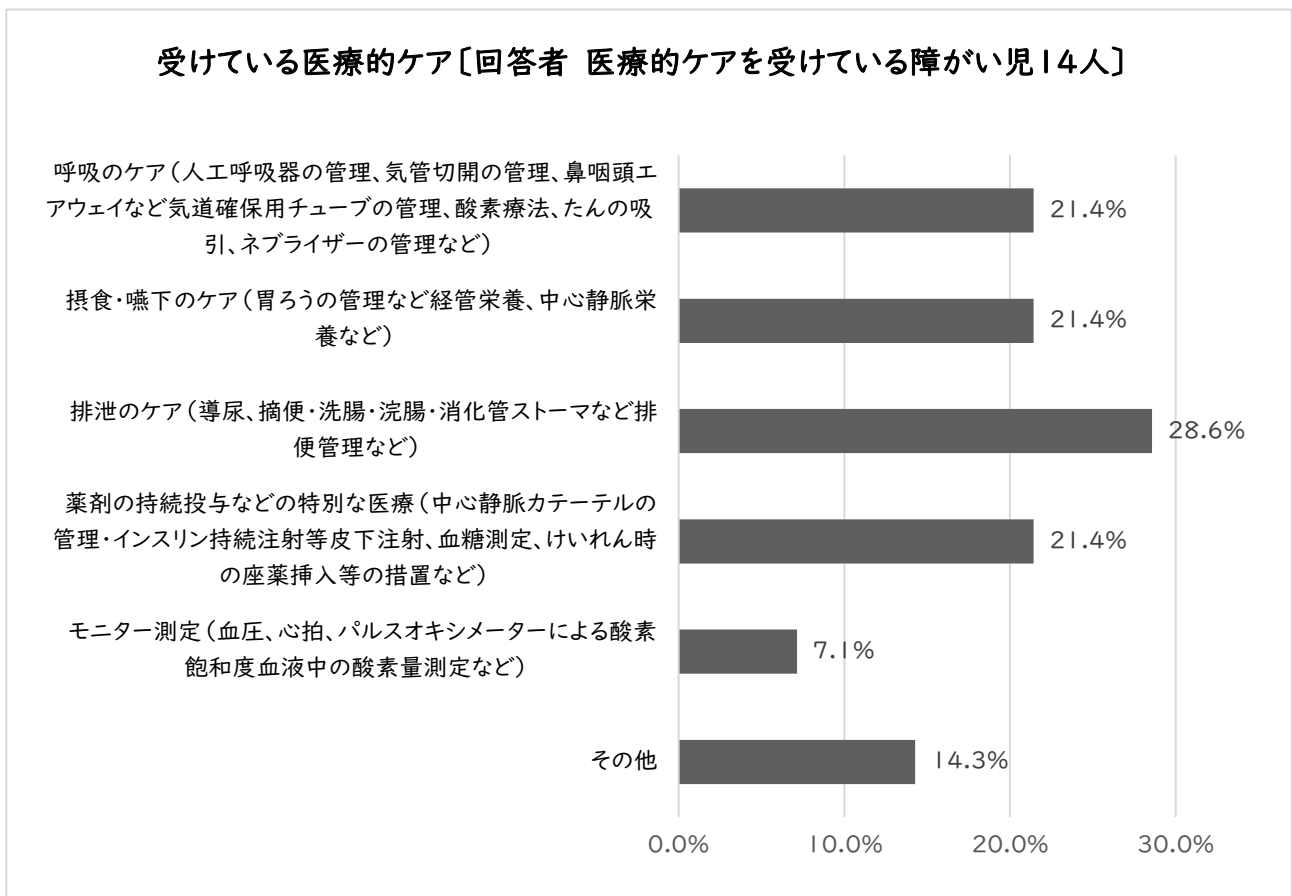
① 医療的ケアの有無

医療的ケアの有無については、「受けていない」が90.4%で最も多くなっています。



② 医療的ケアの内容【重複回答項目】

受けている医療的ケアでは、「排泄のケア」が28.6%で最も多く、次いで「呼吸のケア」「接触・嚥下のケア」「薬剤の持続投与などの特別なケア」が21.4%で並んでいます。

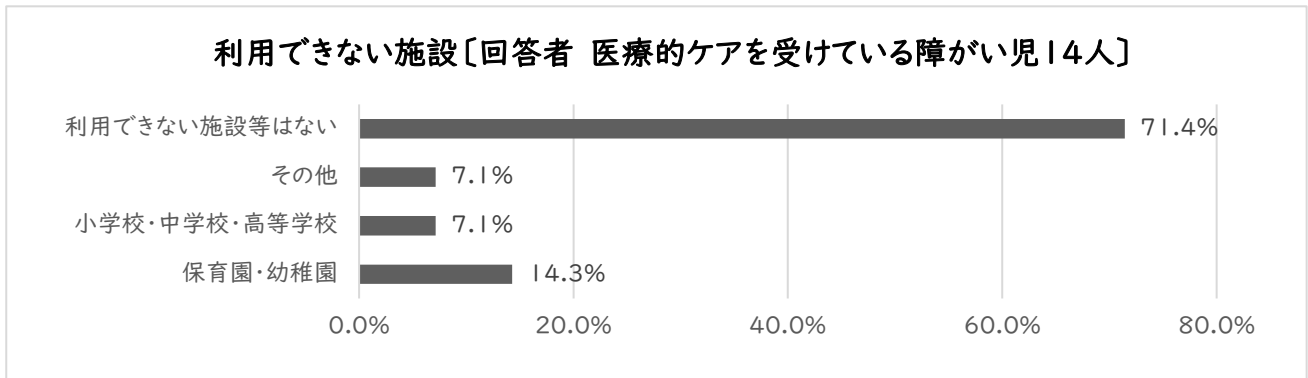


※割合の母数は医療的ケアを受けていると回答した14人

◎その他の回答

ADHD、毎日の内服で1か月に1度通院/ST/カウンセリング/成長ホルモン皮下注射/てんかん

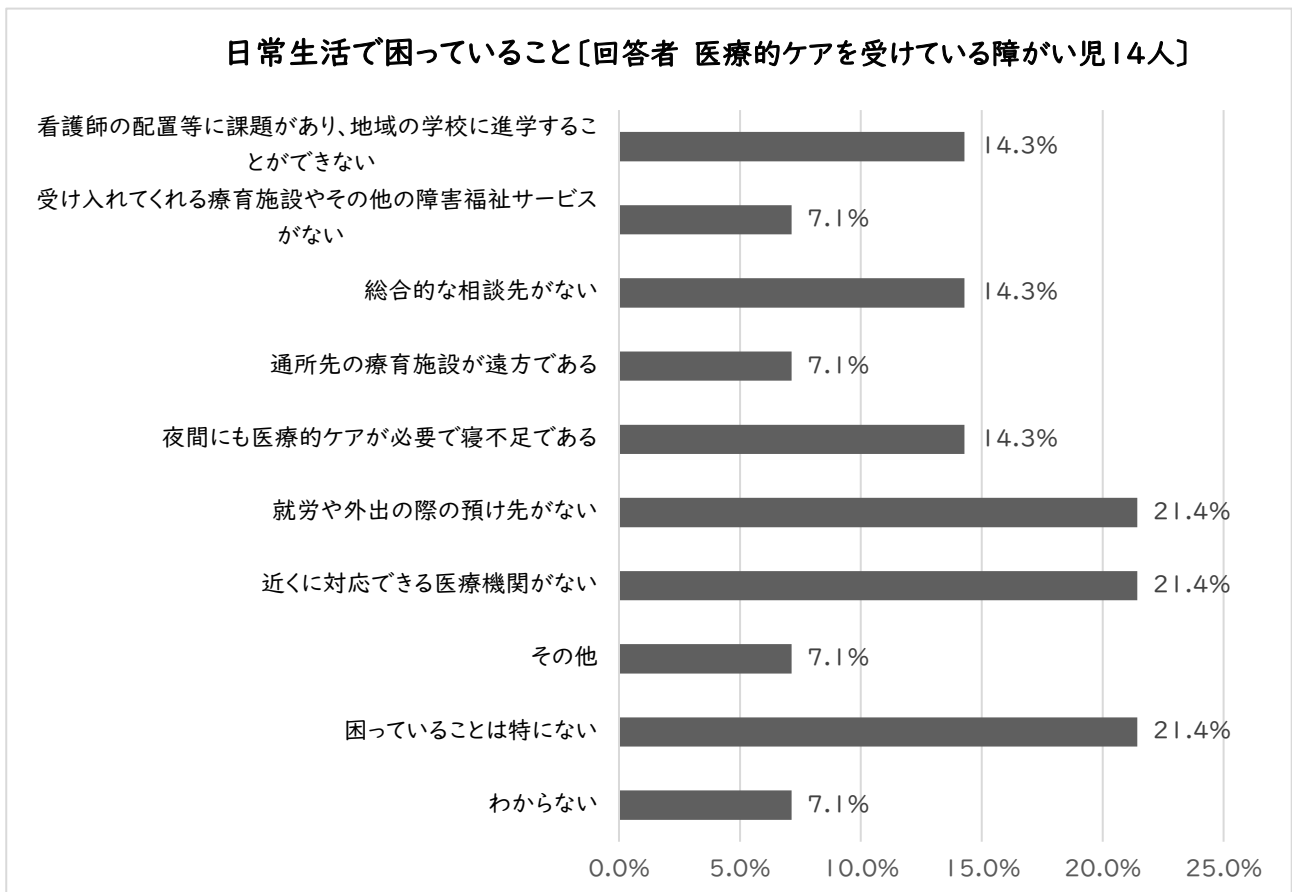
- ③ 医療的ケアを行うための設備が整備されていないため、利用できない施設等【重複回答項目】
 利用できない施設等は、「利用できない施設はない」が71.4%と最も多く、次いで「保育園・幼稚園」が14.3%となっています。



※割合の母数は医療的ケアを受けていると回答した14人

◎その他の回答 多目的ベッドがあれば可

- ④ 医療的ケアに関連して、日常生活で困っていること【重複回答項目】
 日常生活で困っていることについて、「就労や外出の際の預け先がない」「近くに対応できる医療機関がない」「困っていることは特にない」と回答した人がそれぞれ21.4%となっています。



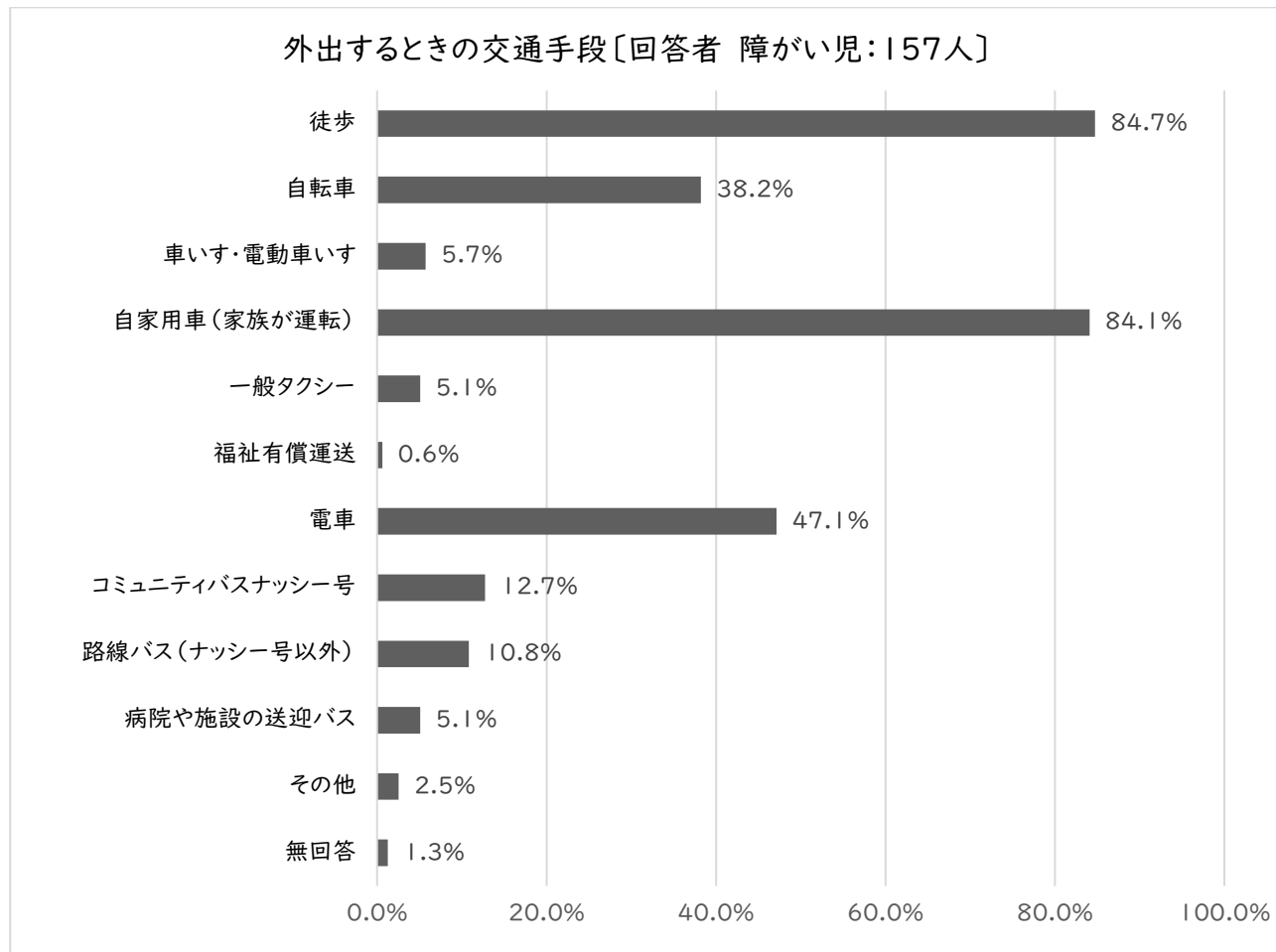
※割合の母数は医療的ケアを受けていると回答した14人

◎その他の回答 グレーゾーンの子を対象とした運動施設(運動を主としたクラブのようなもの)がない。／公立保育園で受け入れてもらったが異なる園で送迎の負担増／学校も含め、読み書き障がいのフォローができる場所が少ない

5-3 外出について

(1) お子さんが外出する時の交通手段【重複回答項目】

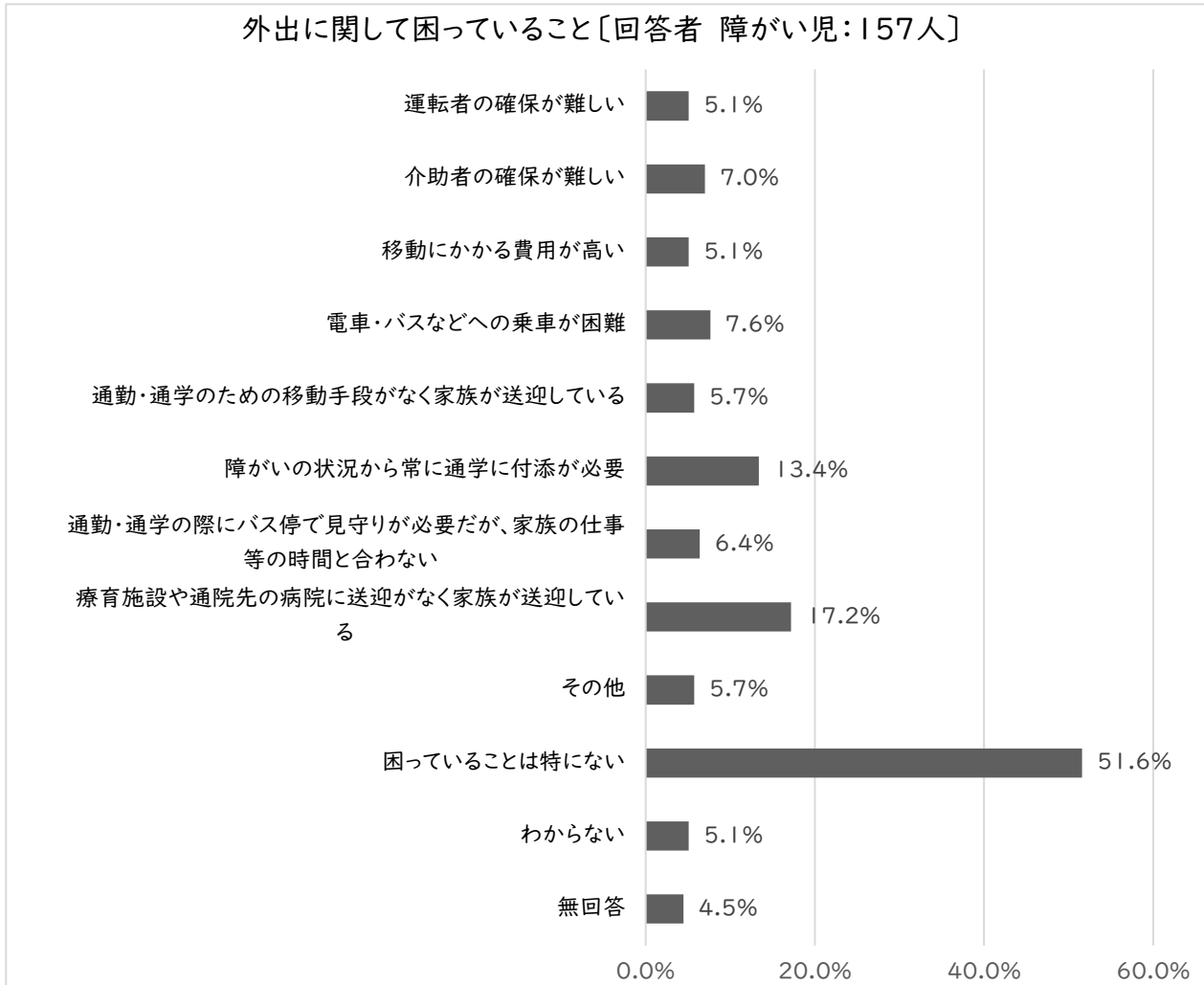
外出する時の交通手段については、「徒歩」と「自家用車(家族が運転)」が8割以上となっています。



◎その他の回答 帰省時に家族と飛行機/スクールバス/抱っこ/ベビーカー/1人で外出しない

(2) お子さんの外出に関して困っていること【重複回答項目】

お子さんの外出に関して困っていることについては、「困っていることは特にない」が約半数となっています。次いで、「療育施設や通院先の病院に送迎がなく家族が送迎している」が17.2%、「障がいの状況から常に通学に付添が必要」が13.4%となっています。

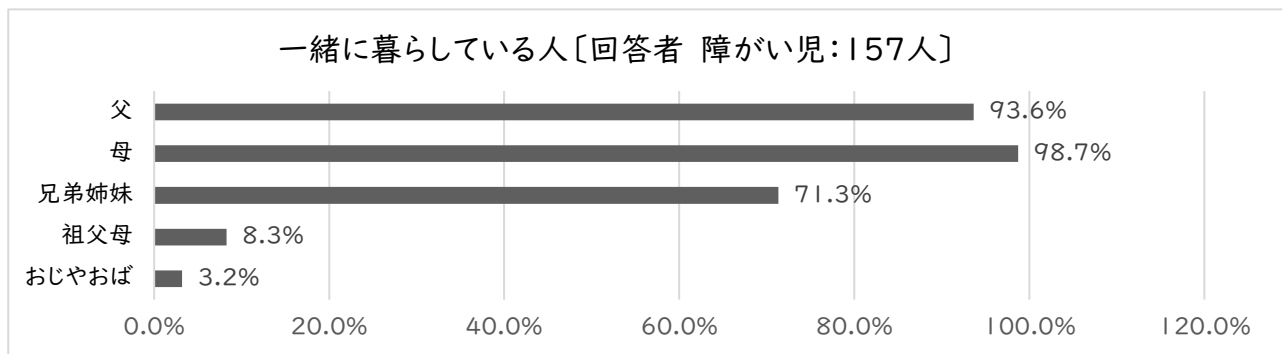


◎その他の回答 覚えさせる事が大変(人に聞くことをしないので)／子どもの体重が重くて介助が大変、母だけじゃ厳しい／通学に時間がかかる／1人で外出は心配でさせられない／ルーティンが変わることへの強い恐怖心がある／母子家庭で働かなければならないが通学の見守りに使える支援が全くなく困る／ファミサポ代が高い／歩道

5-4 住まいや暮らしについて

(1) どなたと一緒に暮らしているか【重複回答項目】

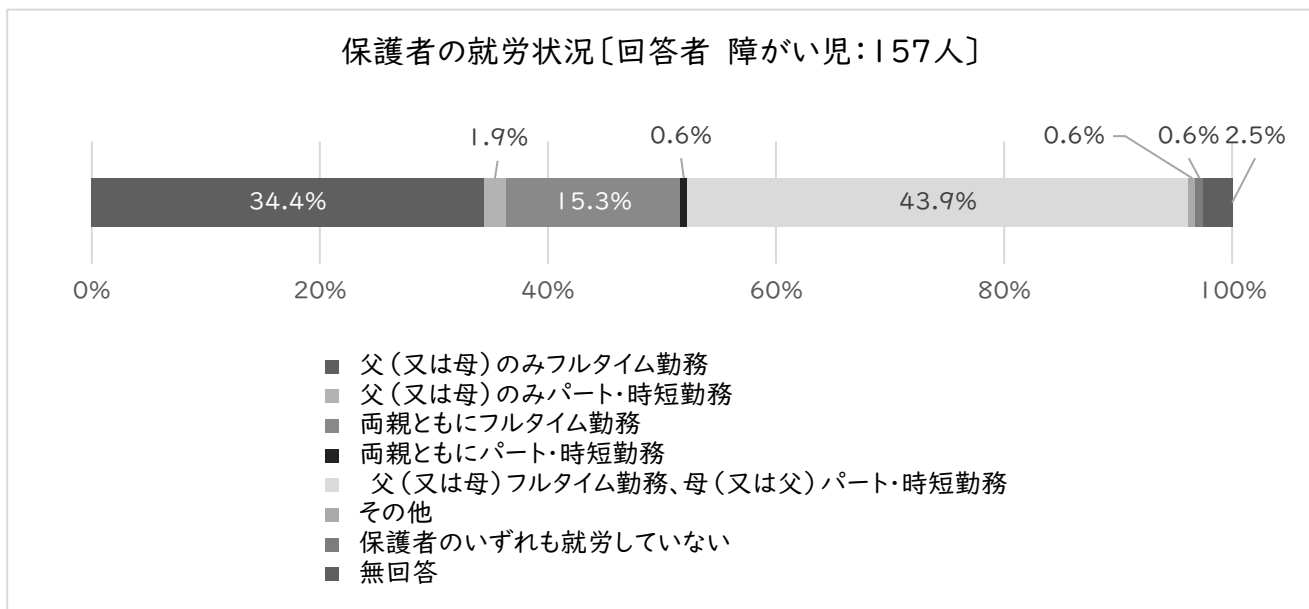
一緒に暮らしている人は「母」「父」が9割以上にのぼり、最も多くなっています。次いで、「兄弟姉妹」が71.3%となっています。



(2) 保護者の就労と困っていること【重複回答項目】

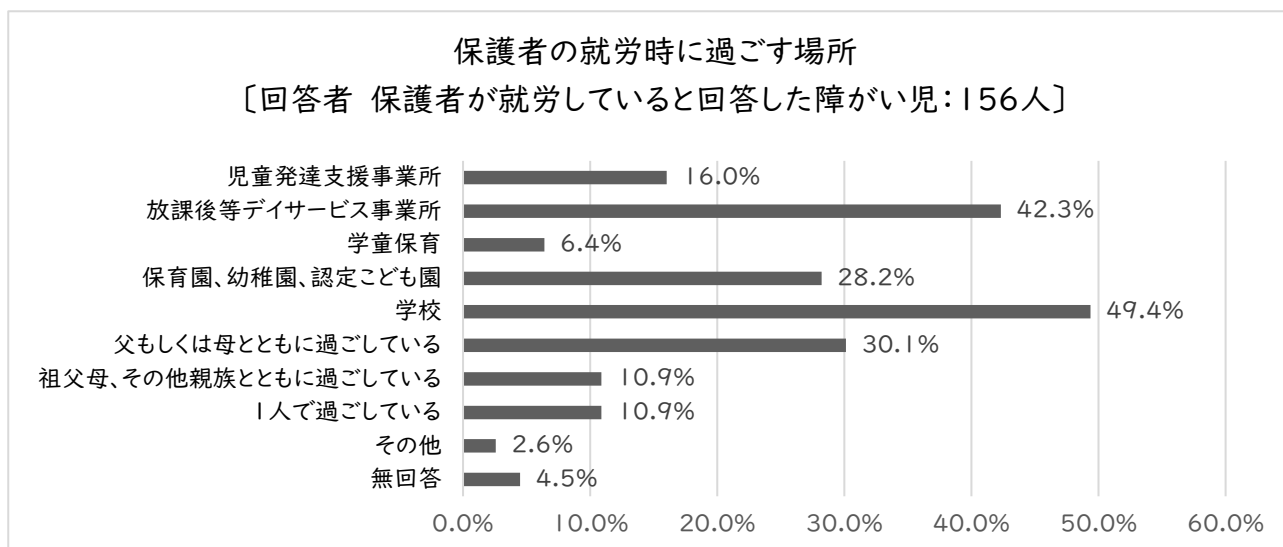
① 保護者の就労状況

保護者の就労状況では、「父(又は母)フルタイム勤務、母(又は父)パート・時短勤務」が43.9%と最も多くなっています。次いで、「父(又は母)のみフルタイム勤務」が34.3%、「両親ともにフルタイム勤務」15.3%となっています。



② 保護者の就労時、お子さんはどこで過ごしているか【重複回答項目】

保護者の就労時に過ごす場所としては、「学校」が49.4%と最も多く、次いで「放課後等デイサービス事業所」が42.3%、「父もしくは母とともに過ごしている」が30.1%となっています。



※割合の母数は保護者が就労していると回答した 156 人

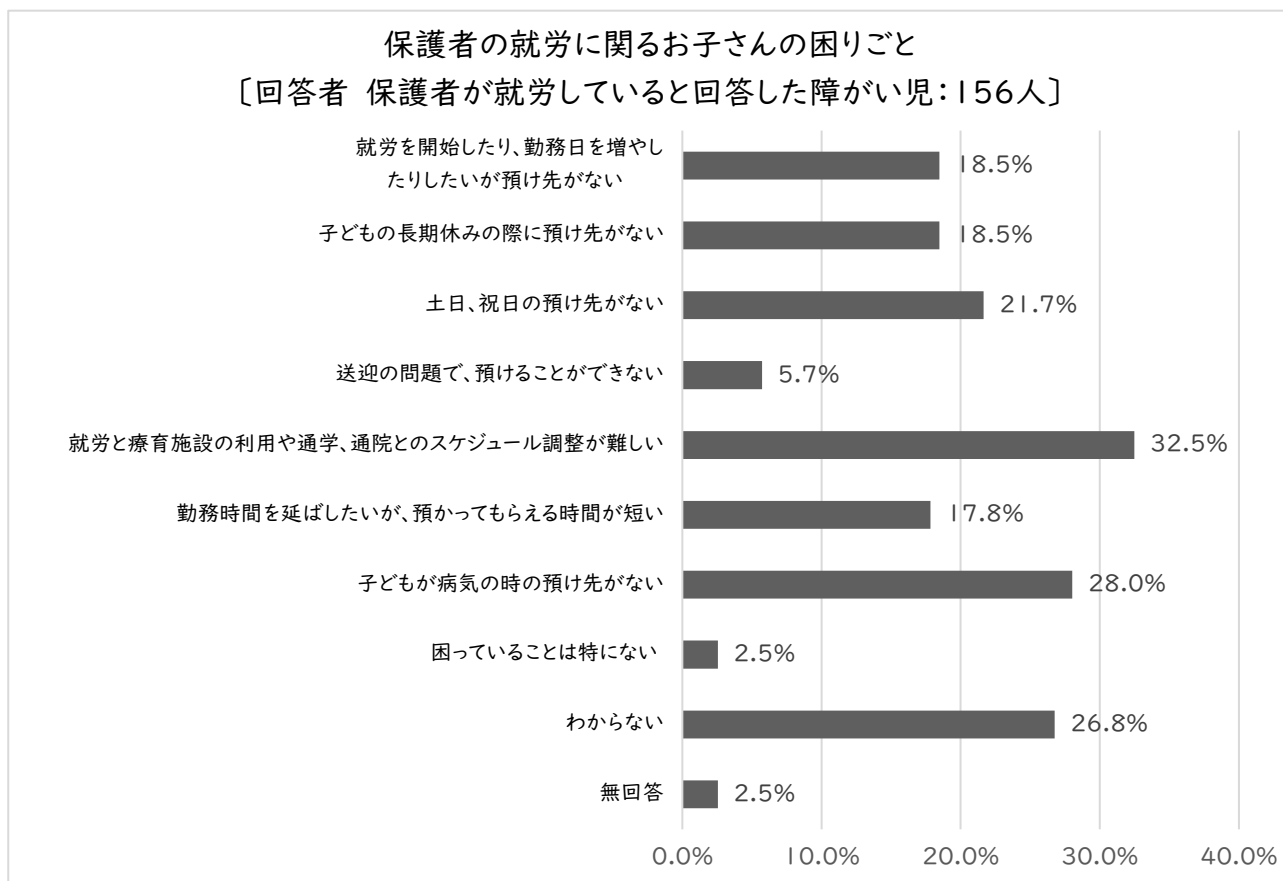
◎その他の回答

◆きょうだい…弟と二人で／兄弟で過ごしている

◆その他…玄関で母が帰宅するまで10分ほど待つ／習い事／日中一時支援

③ お子さんの保護者が就労する上で（または今後就労を開始する上で）困っていること【重複回答項目】

保護者が就労する上で（または今後就労を開始する上で）困っていることについては、「就労と療育施設の利用や通学、通院とのスケジュール」が最も多く32.5%となっています。次いで、「子どもが病気の時の預け先がない」が28%となっています。



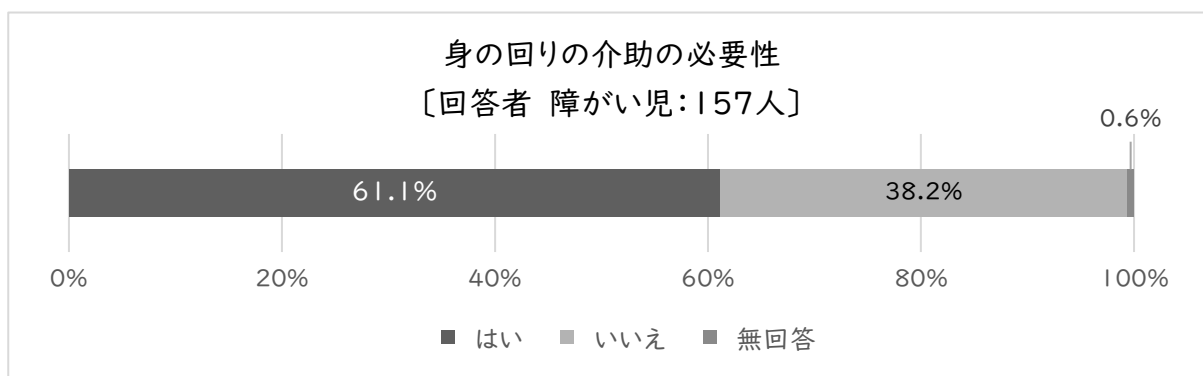
◎その他の回答

- ◆送迎・・・朝、スクールバス停まで送りが必要だが、福祉の支援がないため経済的に苦しいが有料で送りをお願いしなければならない／支援学校が遠く送迎がむずかしい／長期休みの際勤務開始時間に預け先のお迎え時間が合わない
- ◆仕事・・・子どもが体調崩したり、入院等で両親ともに有給ゼロ状態欠勤扱いになるので収入が減った。欠勤扱いの制度がどうにかならないか／コロナの自宅待機の際仕事に行くことができない／本人が元気でも、預かり・見守りする場所(人)がない
- ◆今はまだわからない

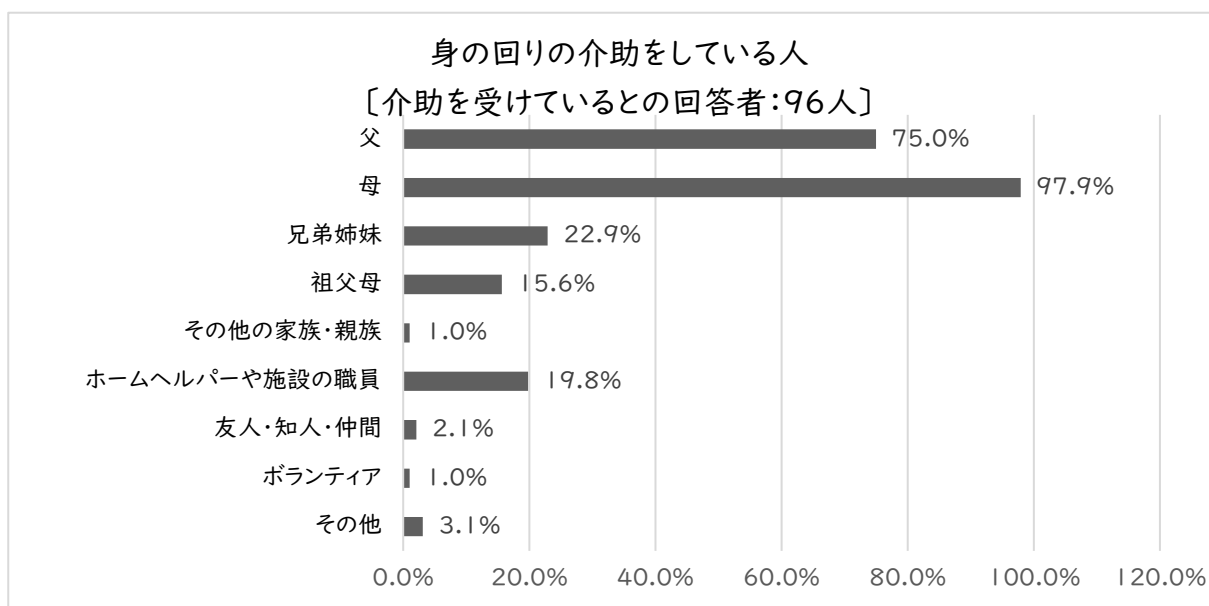
(3) 身の回りの介助や支援の状況

① 身の回りの介助者(支援者)の有無

身の回りの介助者(支援者)については、介助をしてもらっている人が6割以上、介助の必要性がない人が38.2%となっています。



② 主な身の回りの介助者(支援者)(介助が必要と回答した人)【重複回答項目】

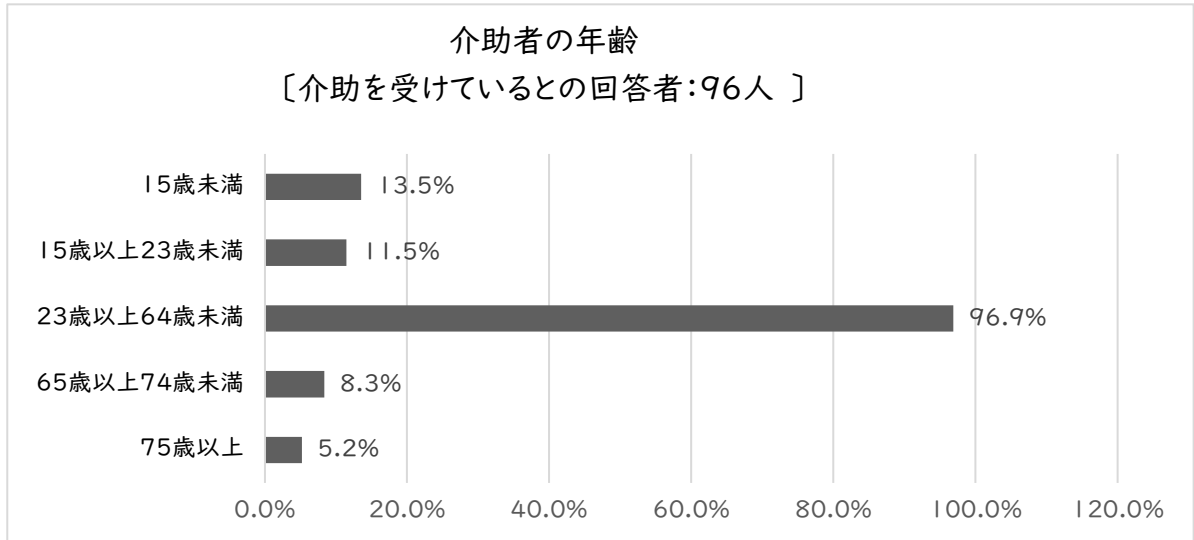


※割合の母数は、身の回りの介助を受けていると回答した 96 人

◎その他の回答 学校/学校の先生/幼稚園

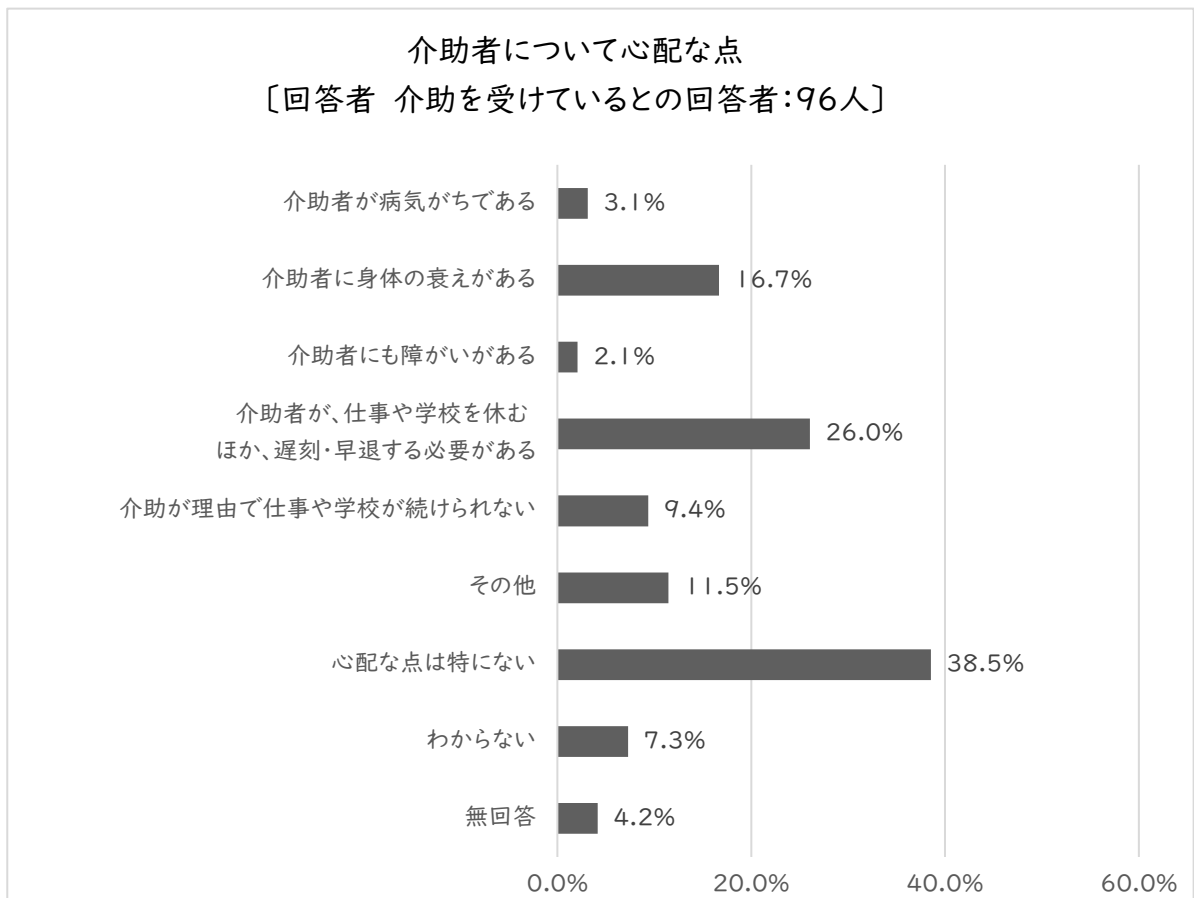
③ 主な身の回りの介助者（支援者）の年齢【重複回答項目】

介助者（支援者）の年齢は「23 歳以上 64 歳未満」が96.9%、次いで、「15 歳未満」が13.5%となっています。



④ 介助者について心配な点【重複回答項目】

介助者について心配な点は、「特にない」が38.5%で最も多く、次いで、「介助者が、仕事や学校を休むほか、遅刻・早退する必要がある」が26%となっています。



※割合の母数は、身の回りの介助を受けていると回答した障がい児 96 人

◎その他の内容 弟妹児の兄に対するストレスが心配です

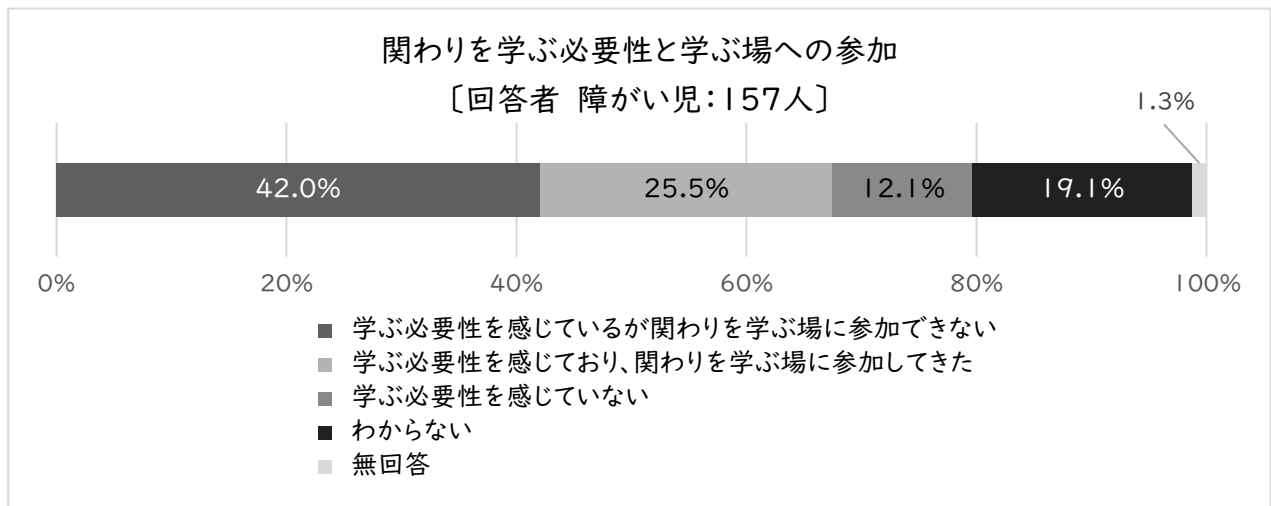
- ◆介助者のレスパイト・・・介護者が病気や手術の時に預ける先がない／ストレスがあっても離れることが難しく介助を休めない
- ◆きょうだいへの負担・・・長期休みのときは、親が仕事で不在時、放課後デイのバスに、姉（13 才）が乗せている／ヤングケアラーにならないよう頼み過ぎに注意しなければと思っている
- ◆その他・・・幼稚園の延長は預けられず、なかなか就労できない／学校を卒業したらわからない／成長、発達が遅いが本人ペースで見守るしかないと思っている／対応(声掛け)が正しいか迷う／何かがあったときにどうしたらよいか

5-5 家族に対する支援について

(1) 家族が学ぶ機会

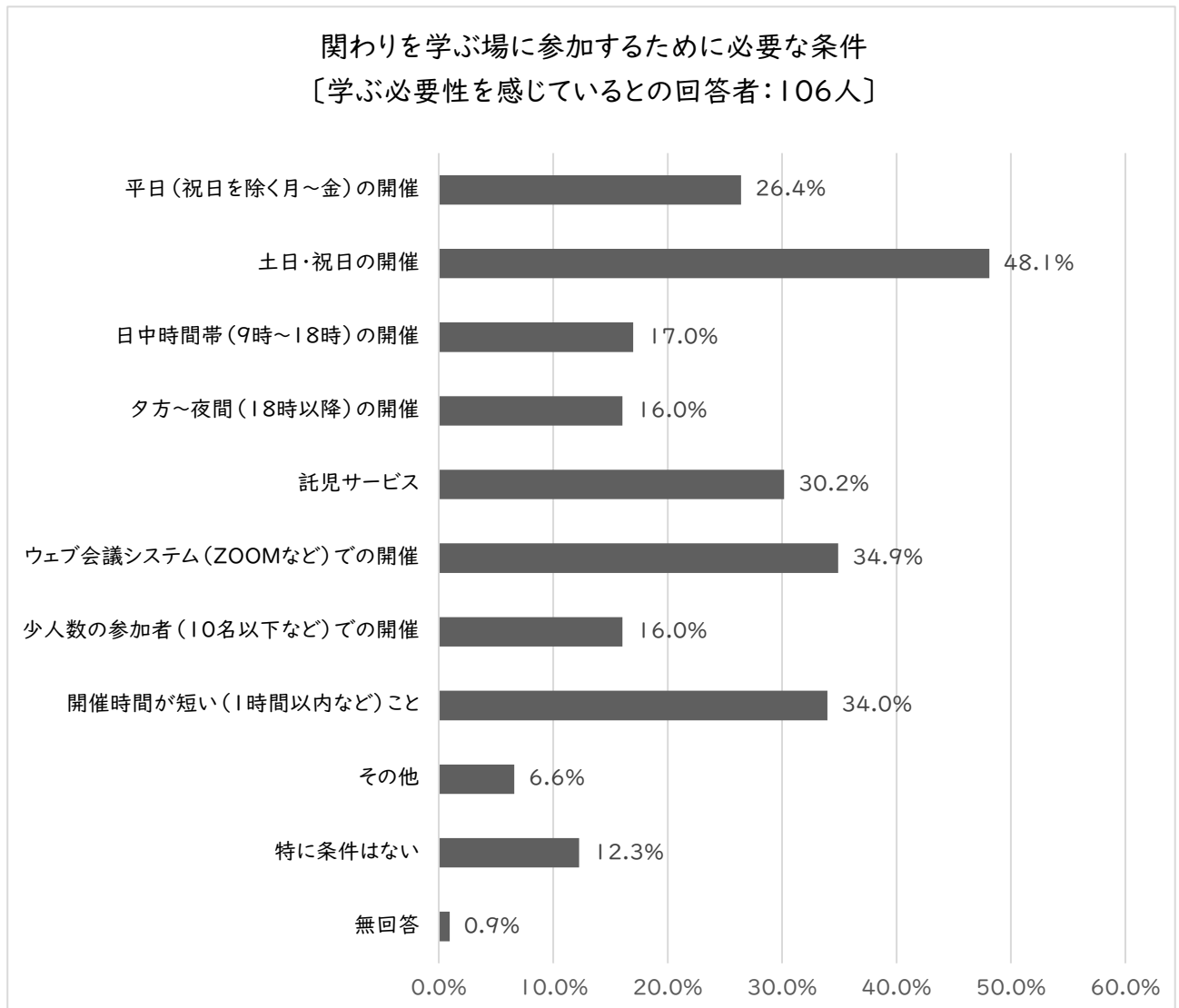
① お子さんと家族との関わり方について、家族が学ぶ必要性・学ぶ場への参加機会

家族が学ぶ必要性・学ぶ場への参加機会については、「学ぶ必要性を感じているが関わりを学ぶ場に参加できない」が42%と最も多く、次いで「学ぶ必要性を感じており、関わりを学ぶ場に参加してきた」が25.5%となっています。参加の有無に関わらず、学ぶ必要性を感じている割合は全体の7割近くにのぼっています。



② 家族が関わりを学ぶ場に参加するために必要な条件【重複回答項目】

家族が関わりを学ぶ場に参加するために必要な条件については、「土日・祝日の開催」が最も多く48.1%となっています。次いで、「ウェブ会議システム(ZOOM など)での開催」が34.9%、「開催時間が短い(1時間以内など)こと」が34%、「託児サービス」が30.2%となっています。



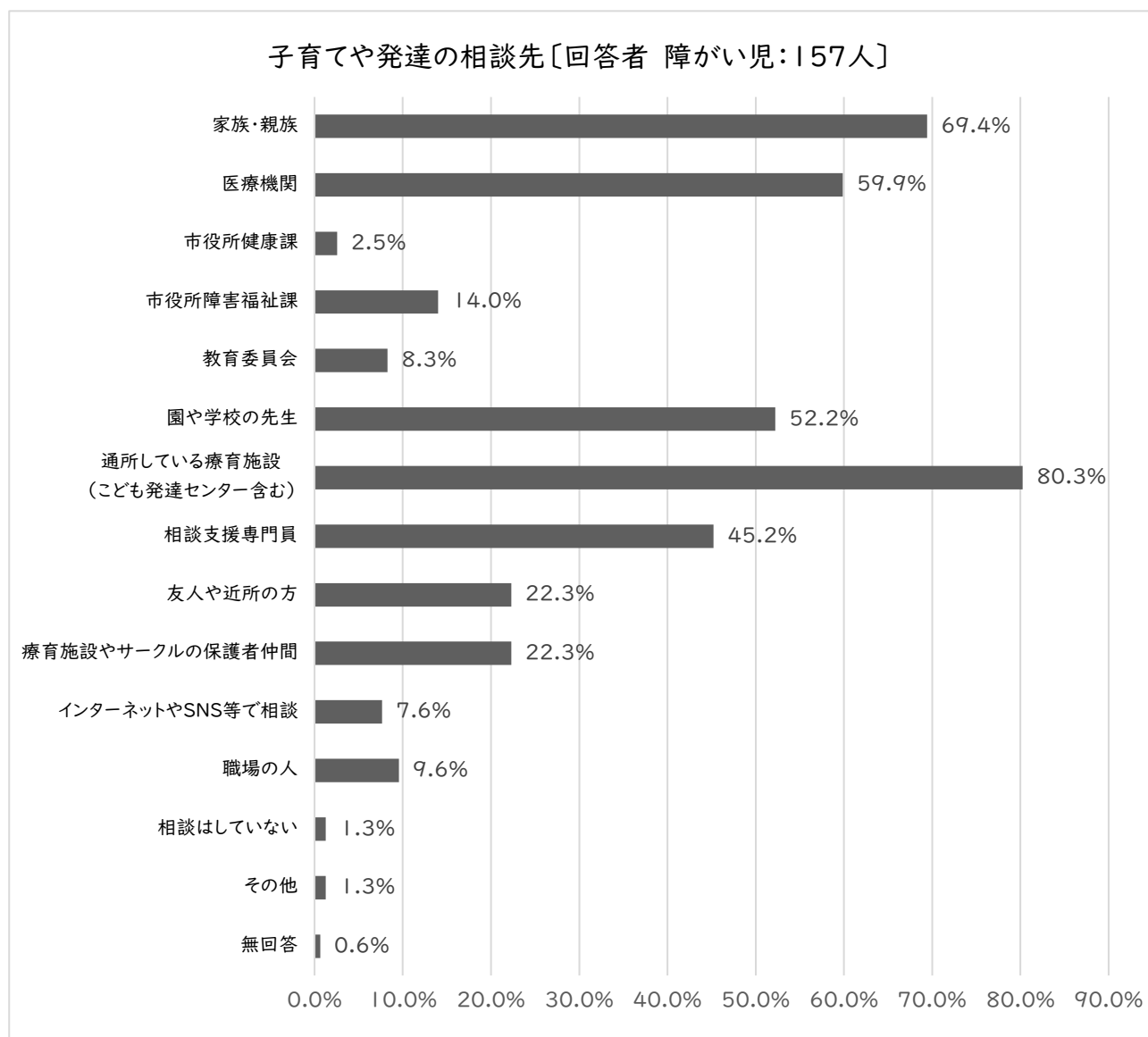
※割合の母数は、家族が関わりを学ぶ必要性を感じていると回答した106人

◎その他の内容

- ◆時間帯…午前中等の子どもが学校、幼稚園へ行っている時間帯/通学の時間帯 9時~14時/平日の午前中/それぞれ希望する時間帯が違うので全ての時間帯をカバーすること
- ◆回数…一回で終わらず、細かく複数回で丁寧に学ぶこと/全3回くらいで月1でも可など/同じ内容の回数を増やしてほしい
- ◆その他…選べる/ビデオで見られるのがあれば/近い/その気持ちを持つこと/講演会等の告知が遅い/休みが合えば参加できるがなかなか合わない/ハードルを下げるタイトルだと申込しやすい

(2) 子育てや発達の相談先【重複回答項目】

子育てや発達の相談先として、最も多かったのは「通所している療育施設」で80.3%となっています。次いで、「家族・親族」69.4%、「医療機関」59.9%と続いています。



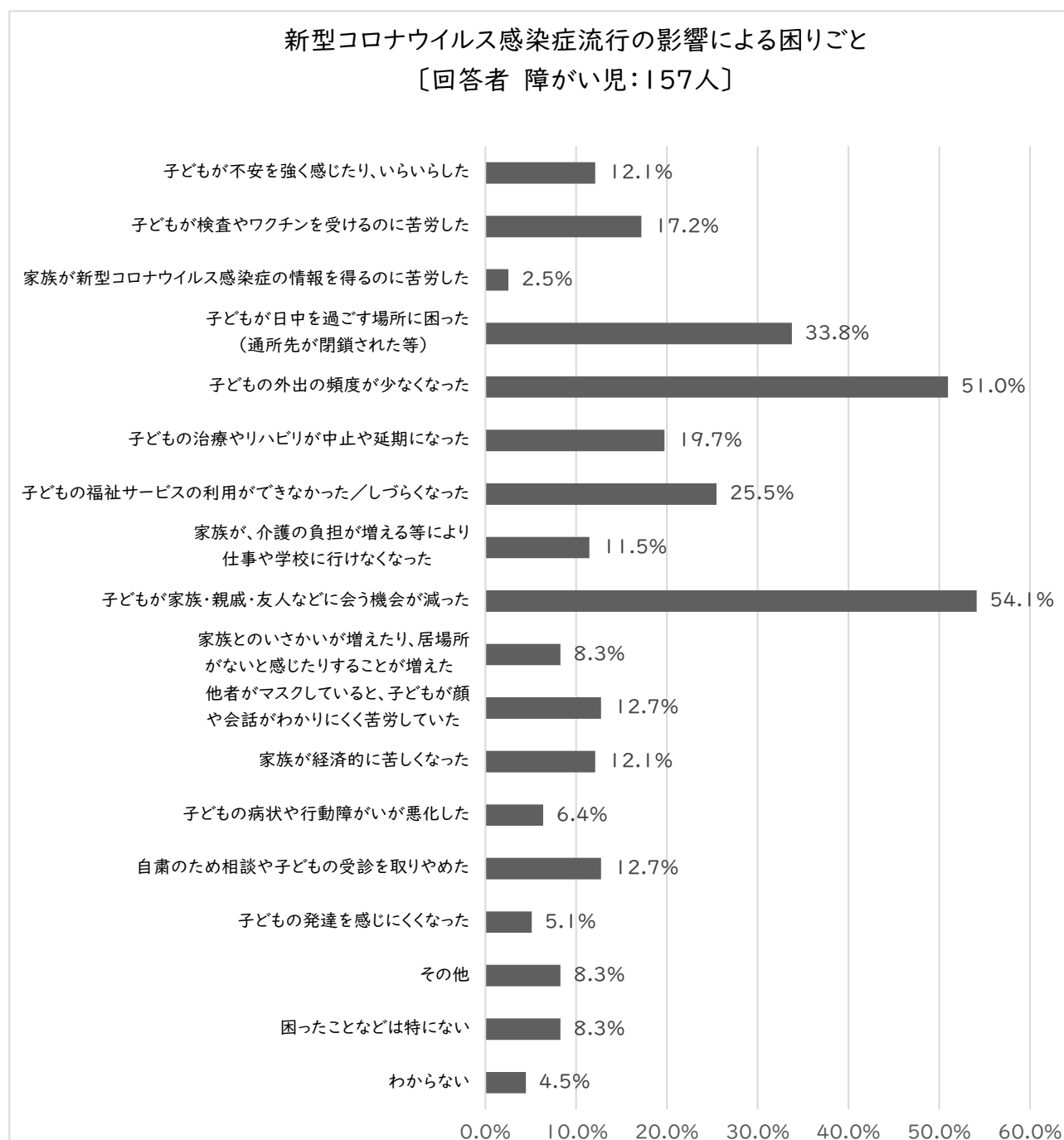
◎その他の内容

コロナ以降相談機会が減っている／前居住地で利用していた療育先や相談員、園など

5-6 新型コロナウイルスの影響について

(1) 新型コロナウイルスの感染症の流行に関して、起きたことや困ったこと【重複回答項目】

新型コロナウイルスの流行により起こったことで最も多かった回答は、「子どもが家族・親戚・友人などに会う機会が減った」で54.1%となっています。



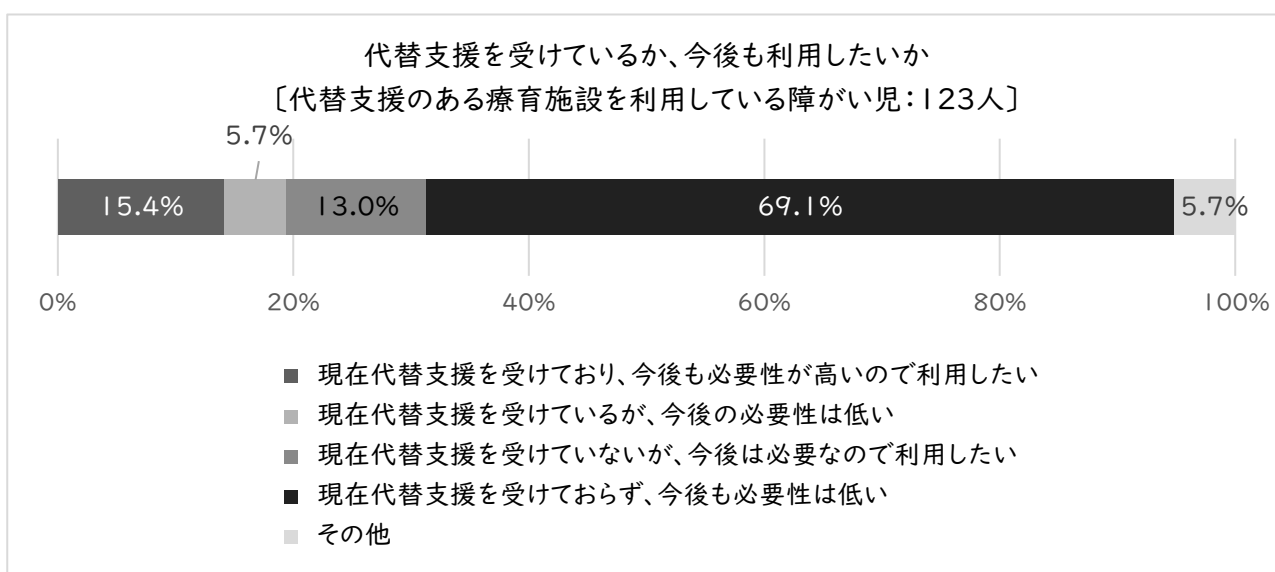
◎その他の内容

- ◆マスク・・・子どもがマスクをできない／特性上マスクができない／マスクがちゃんとつけられない／マスクが苦手だった。マスクの匂いにも敏感／マスク自体に対しての感覚過敏、皮フなどの身体的トラブルが増えた／マスクを嫌がった

- ◆外出・・・買物等で子供があちこちに触れてしまうが他者の目が気になり外出も気にしてしまう、減る／記念のイベントが中止になった／衛生観念が弱いので、かなり気を遣って行動する／ストレスを発散しづらくなった
- ◆その他・・・オンライン授業で1人では参加できない／子どもがワクチン接種の時、動いてしまったため、先生に拒否されたため、ワクチンが打てなかった／本人がかかった／産休中だったため、保育園に3か月以上通えず、その後の登園しぶりがひどく苦勞した／スマホ依存が悪化しました／コロナ禍中に生まれたため、わからない。

(2) 代替支援の利用状況と、今後の必要性

代替支援の利用については、「現在代替支援を受けておらず、今後も必要性は低い」が69.1%で最も多くなっています。



※割合の母数は、代替支援のある療育施設を利用していると回答した123人

◎その他の内容

- ◆支援を受けたことがあるがやめた(2)／電話での健康観察(2～3分聞き取り)で1日利用したことになるのは納得できない／1時間のZOOMでの療育は、クイズや運動、挨拶などで気分転換になり良かった／家族の負担を考えると通所の方がいい／よくわからない／子どもに合わない／預かりではないため保護者の負担は減らない

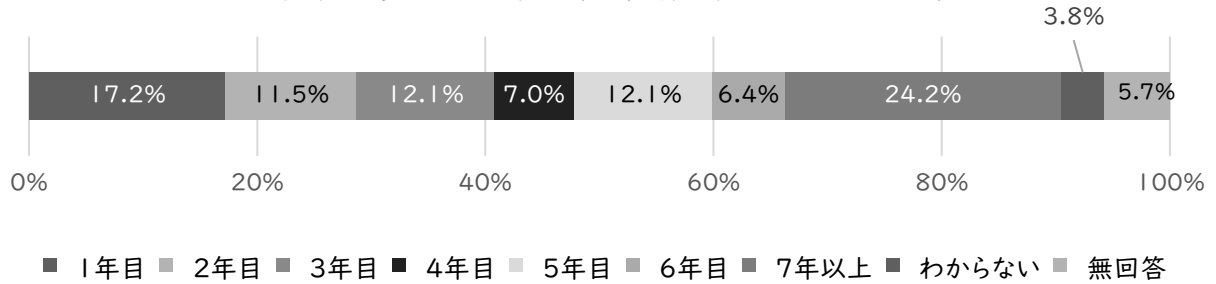
5-7 保健福祉サービス・施設サービスについて

(1) 療育施設の利用状況

① 療育施設に通い始めてからの年数

療育施設に通い始めてからの年数は、「7年以上」が最も多く24.2%となっており、次いで、「1年目」が17.2%となっています。

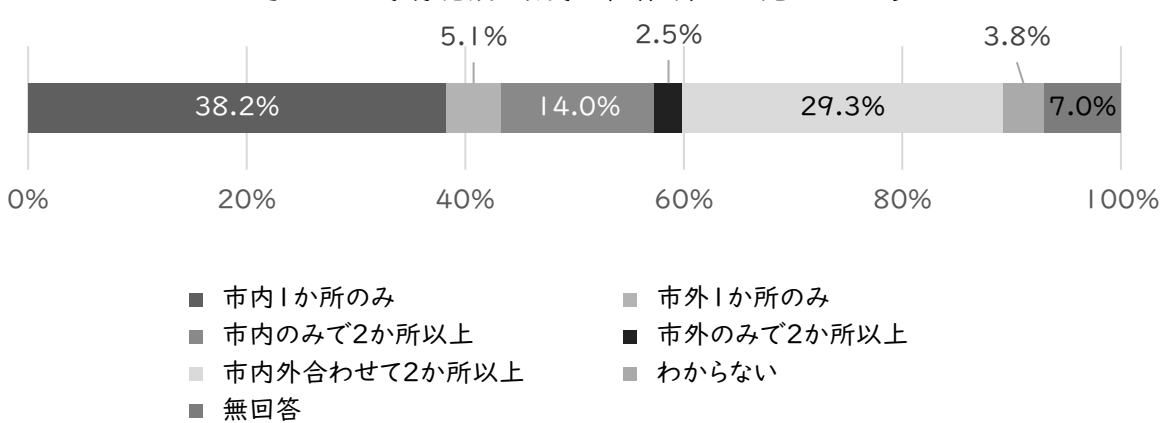
療育を受けている年数〔回答者 障がい児：157人〕



② 現在通っている療育施設数

通っている療育施設の数、「市内1か所のみ」が最も多く、38.2%、次いで「市内外合わせて2か所以上」が29.3%となっています。

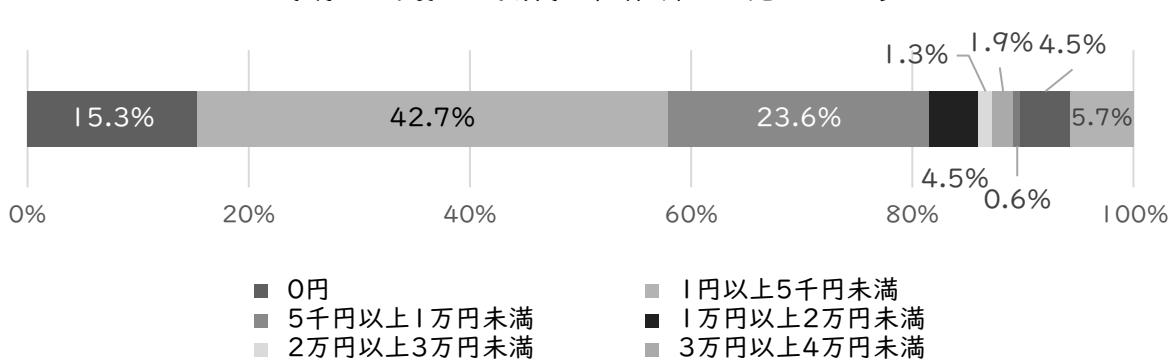
通っている療育施設の数〔回答者 障がい児：157人〕



③ 療育施設の費用（サービスの1割負担のほか、実費徴収分を含む。）

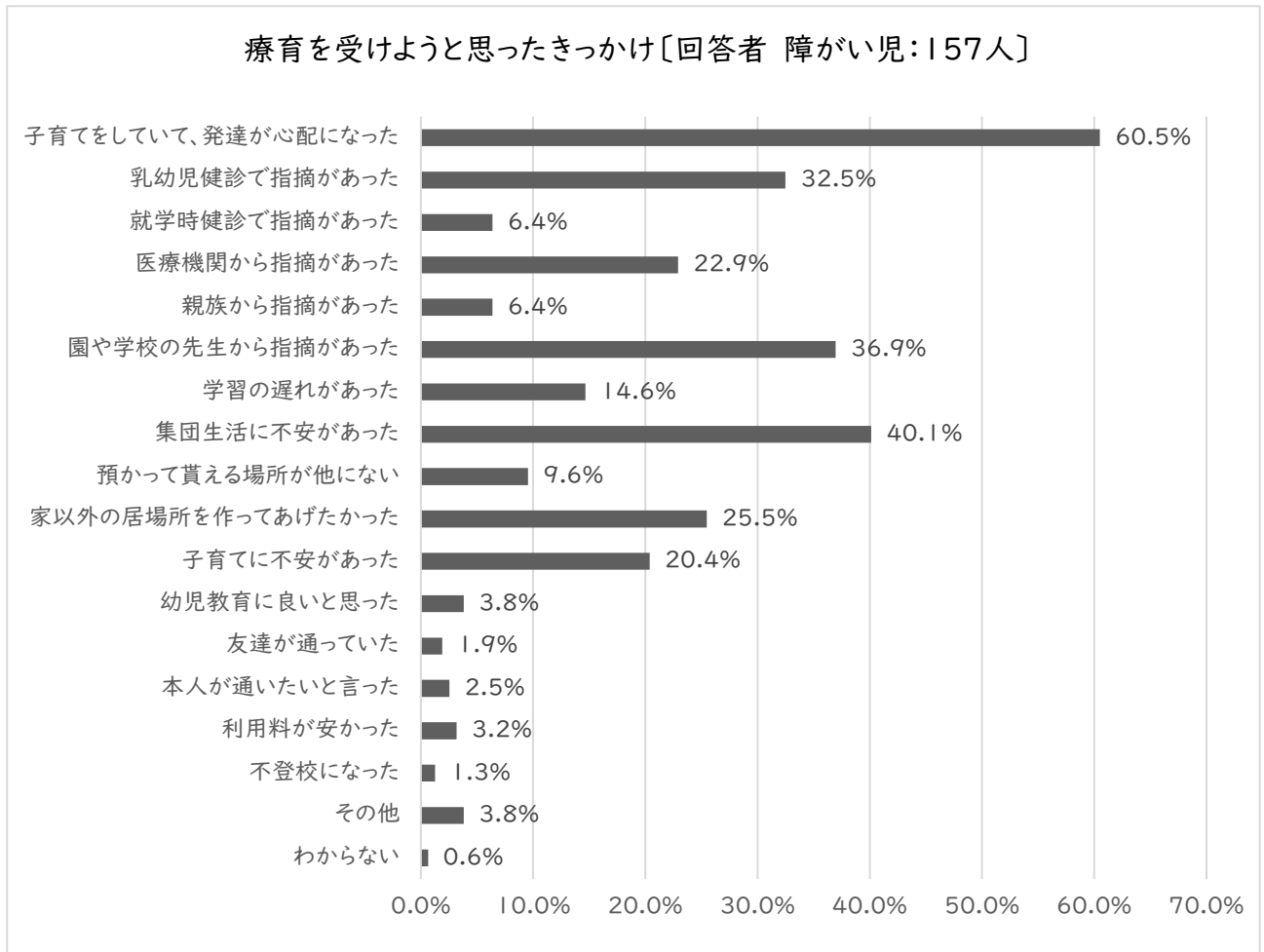
療育施設の費用については、「1円以上5千円未満」が42.7%、次いで、「5千円以上1万円未満」が23.6%となっています。

療育への支払い月額〔回答者 障がい児：157人〕



④ 療育を受けようと思ったきっかけ【重複回答項目】

療育を受けようと思ったきっかけについては、「子育てをされていて、発達が心配になった」が60.5%で最も多く、次いで、「集団生活に不安があった」が40.1%、「園や学校の先生から指摘があった」36.9%、「乳幼児健診で指摘があった」32.5%となっています。

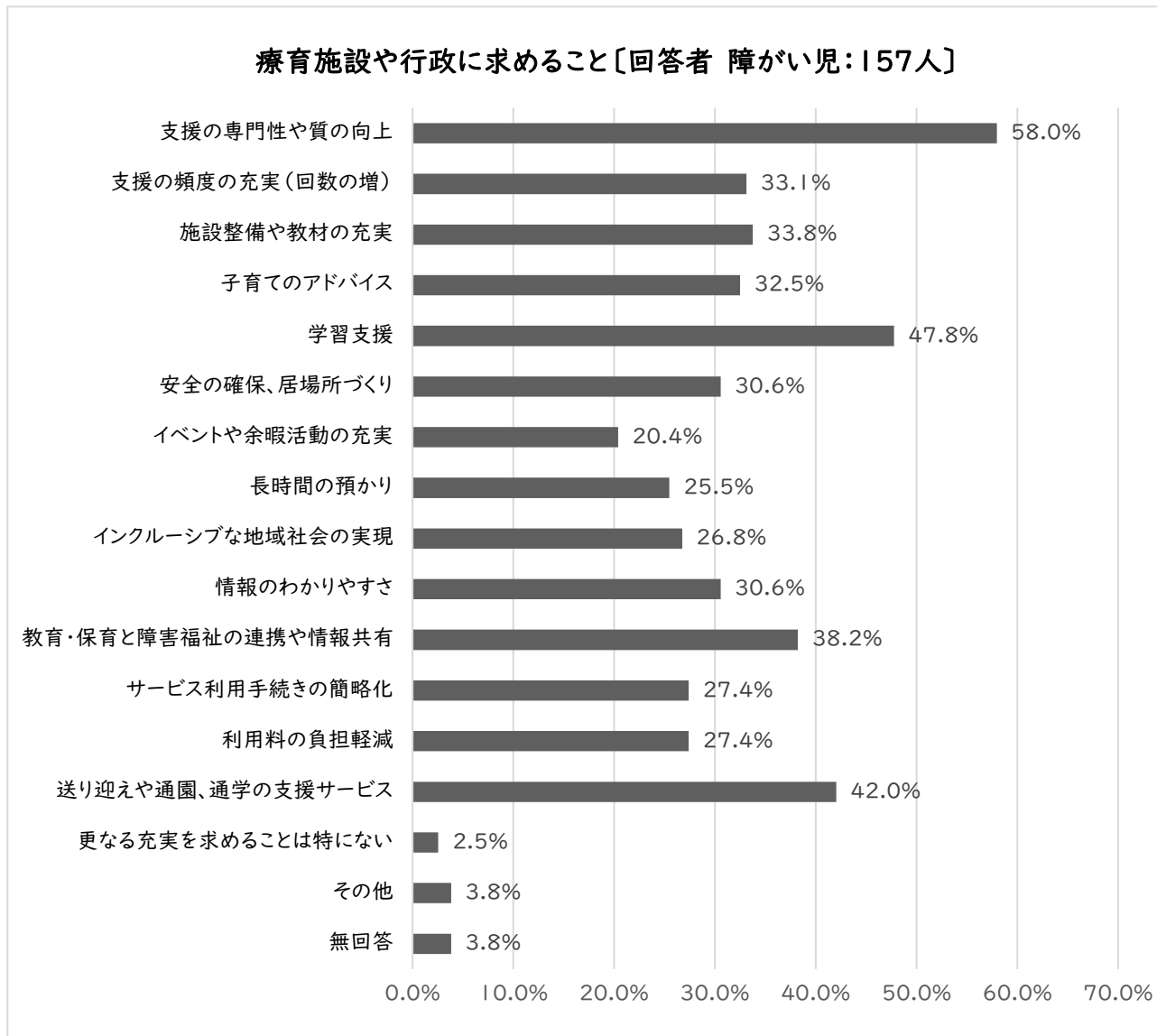


◎その他の内容

- ◆きょうだい…兄も同じ頃通っていて同じような点で不安があったため相談／姉が発達障がいのため
- ◆その他…検診での指摘がなかったため直接こども発達センターを頼って診断を受けた／集団生活が好きなので放課後、支援がある中で遊ぶ場所が欲しかった／先天性のため発達が遅れるのは明らかだった／専門的な意見が聞きたかった／発語が遅かった／保健師さんのすすめ／兄の子育ての時間の確保／友人が言葉の療育の場ができることをきいた

(2) 療育施設や行政に充実を求めること【重複回答項目】

療育施設や行政に充実を求めることについては、「支援の専門性や質の向上」が58%と最も多く、次いで、「学習支援」47.8%、「送り迎えや通園、通学の支援サービス」42%、「教育・保育と障害福祉の連携や情報共有」38.2%となっています。



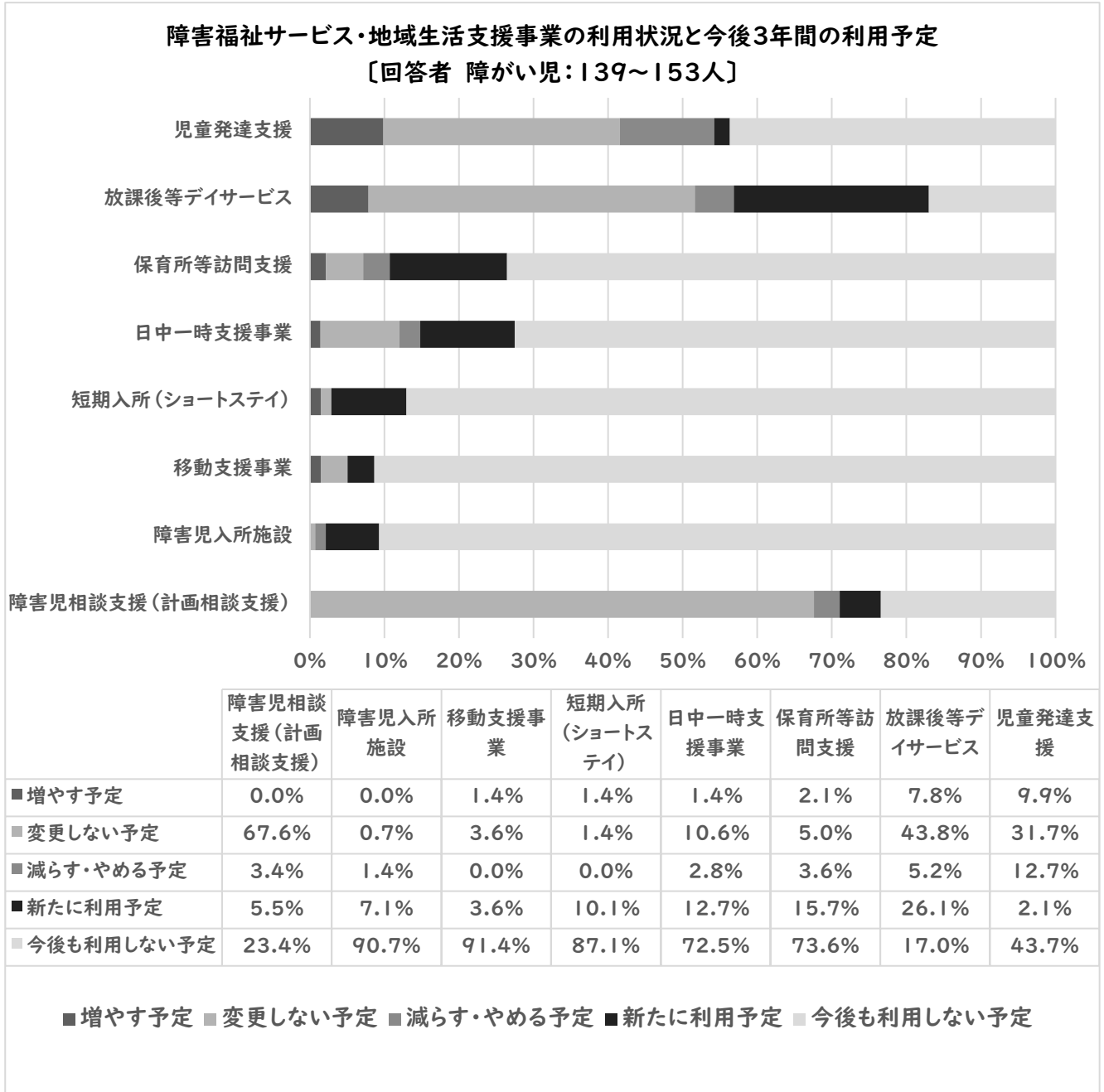
◎その他の内容

小学生以降でも発達センターで療育(個別)が受けられるように戻ること。保育所等訪問支援はあるが、希望した人の全員が受けられるわけではない／小学生低学年までに発達障がいの可能性があると思った時も発達センター利用(療育)できるようになること／発達センターの先生を増やしてほしい。常勤で。待遇が悪くなったのか?先生が2020年位から減ってしまい、困った。近辺で一番良い事業所だったのに。(専門性高い)／発達障がいのことをもっと勉強してほしい／コロナの影響で発達センターの時間が15分短くなってしまったので、落ち着いたら1時間に戻したほうが良いのではないかと。発達障がいなどの子供がいる母にとっては、たった15分でも長くなってくると助かります／親のケア／支援を受けられる施設を増やす／市内施設の充実、利用のしやすさ／小学生の療育と学童のような長期預かりをお願いできる施設が増えてほしい／情報の共有(支援時の様子)など／送迎車に乗る子供の人数が多くコロナが心配

(3) お子さんのサービス利用状況や、今後3年間の利用の予定

① 障害児通所支援給付に係るサービスの利用状況と今後3年間の利用予定

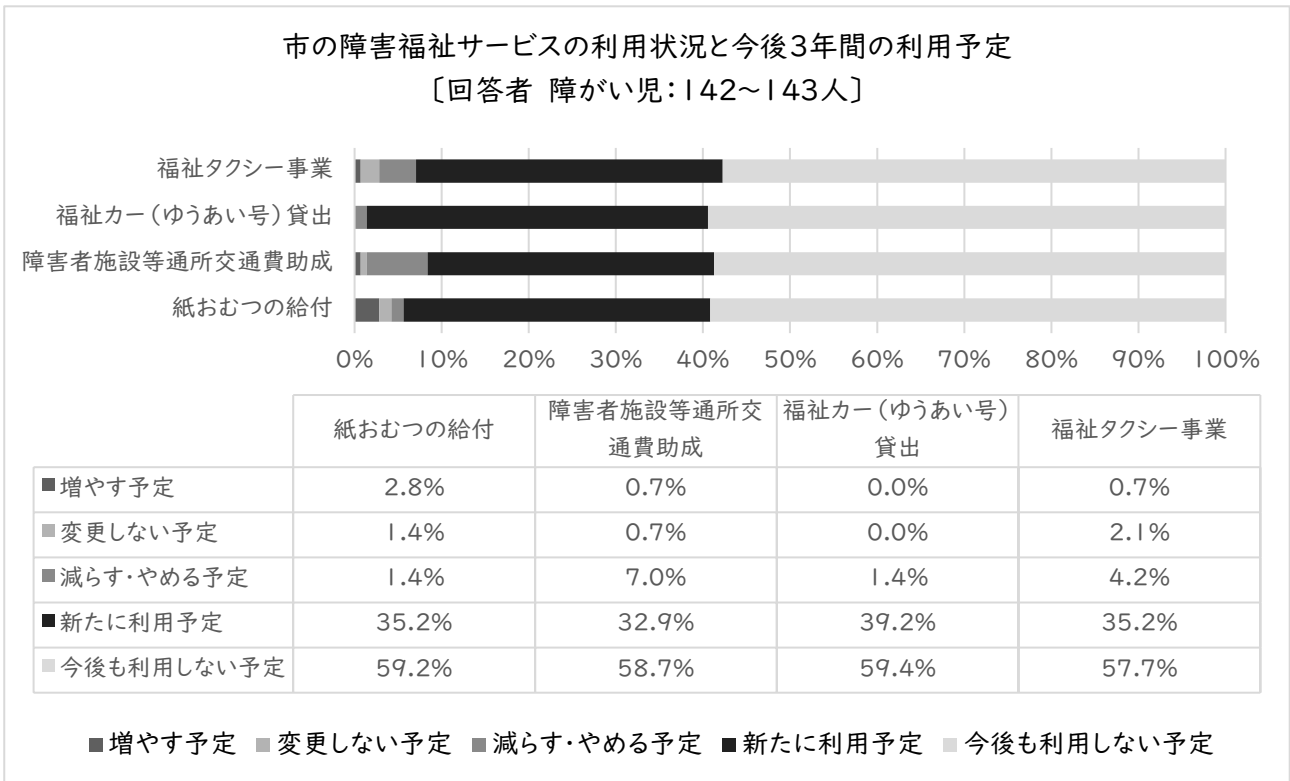
「新たに利用予定」の多かったものが、放課後等デイサービス、「増やす予定」で多かったものは、児童発達支援でした。



※無回答者を除いた割合

② 市の障害福祉サービスの利用状況と今後3年間の利用予定

「新たに利用予定」との回答が多かったサービスは、福祉カー（ゆうあい号）貸出でした。

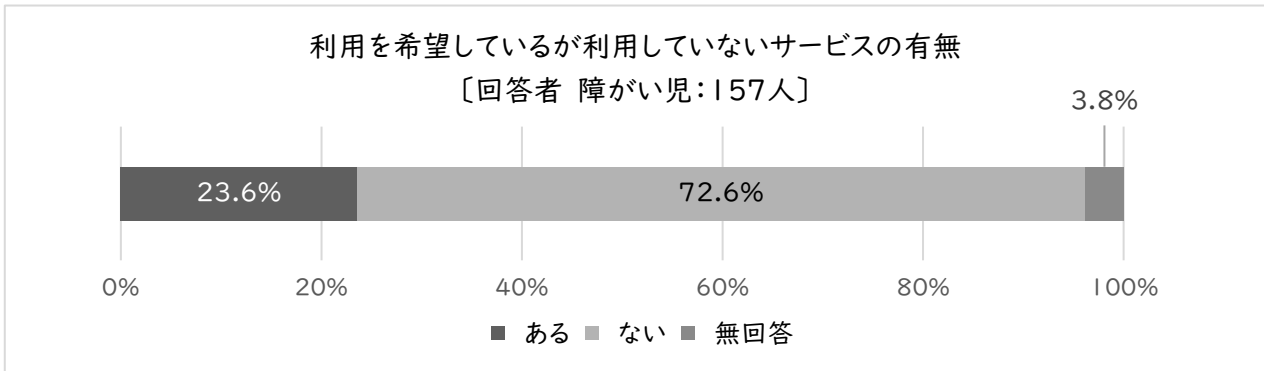


※無回答者を除いた割合

(4) 利用を希望しているが利用していないサービス

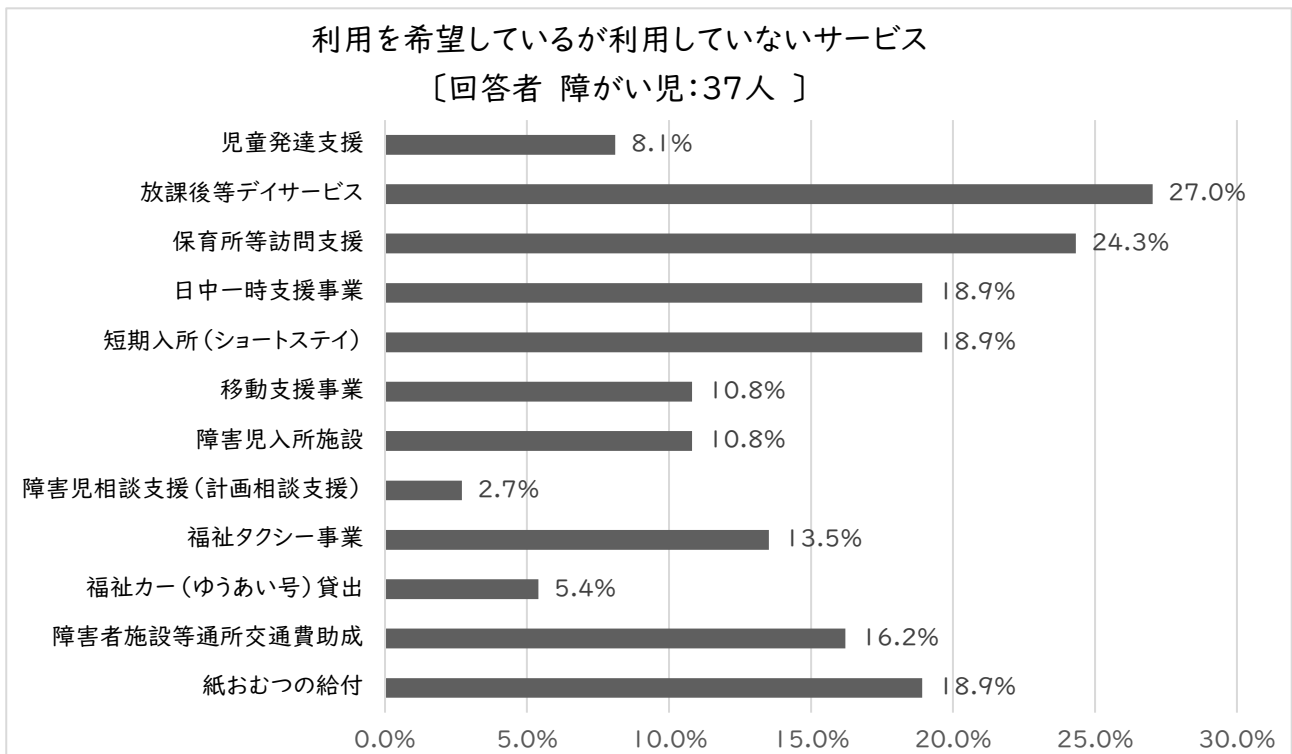
① 利用を希望しているが利用していないサービスの有無

利用を希望しているが、利用していないサービスについては、23.6%で「ある」との回答でした。



② 利用を希望しているが利用していないサービスの内容【重複回答項目】

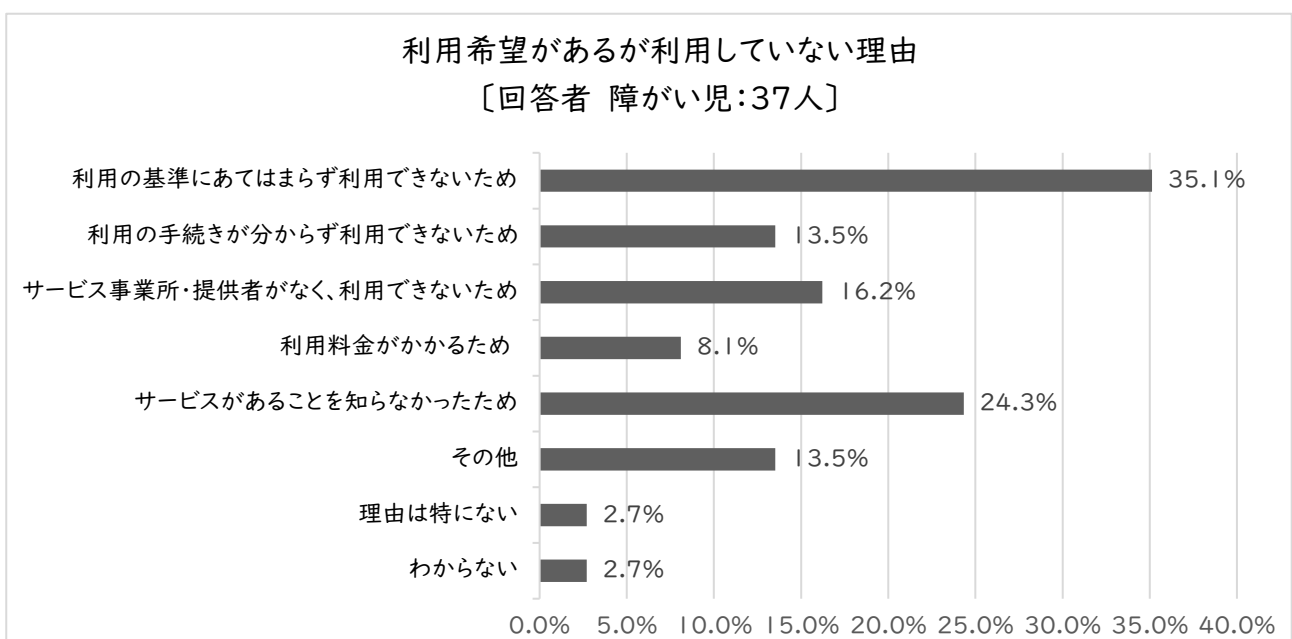
利用を希望しているが利用していないサービスは、「放課後等デイサービス」が27%で最も多く、次いで、「保育所等訪問支援」が24.3%となっています。



※割合の母数は、利用を希望しているが利用していないサービスがあると回答した 37 人

③ 利用希望があるが利用していない理由【重複回答項目】

利用希望があるが利用していないサービスがあると回答した方について、利用していない理由を伺いました。最も多かったものは、「利用の基準に当てはまらず利用できないため」で35.1%となっています。次いで、「サービスがあることを知らなかったため」が24.3%でした。



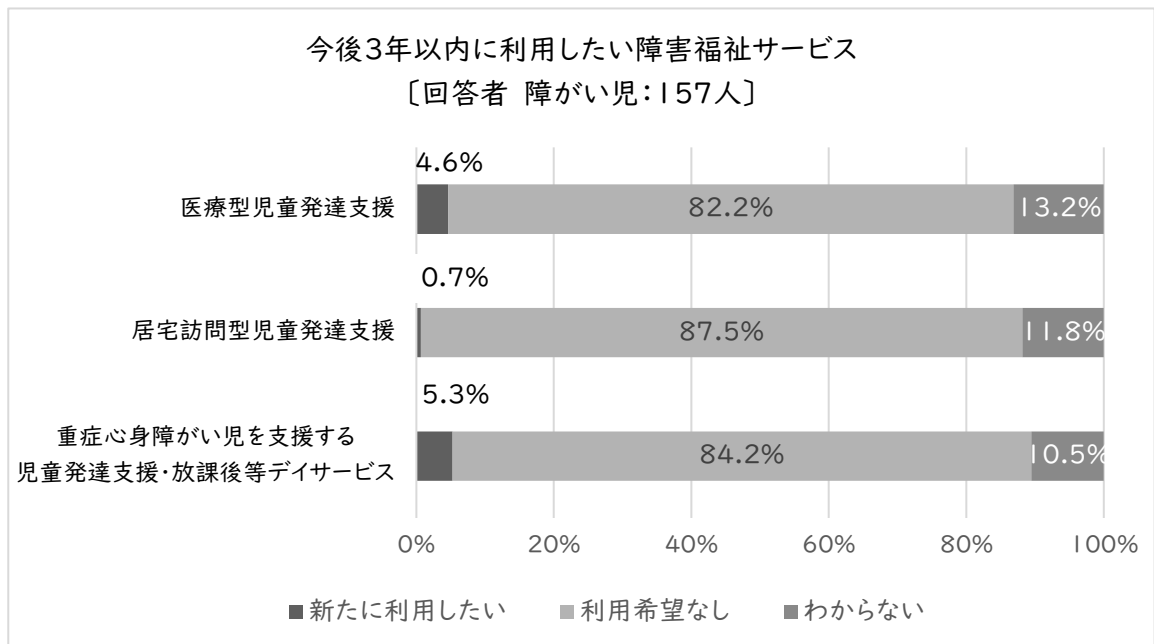
※割合の母数は、利用希望あるが利用していないサービスがあると回答した 37 人

◎その他の回答

- ◆子どもの年齢…小学生の間は利用する場面がなかったため／まだ保育園、小学校に通っていないため
- ◆定員…使いたくても定員オーバーで使えない／定員いっぱいであるため
- ◆その他…代替サービスを利用した直後のため様子見中／希望する日時に使えないため／見学などに行く時間がないため／コロナにより利用受け入れが不可となったため

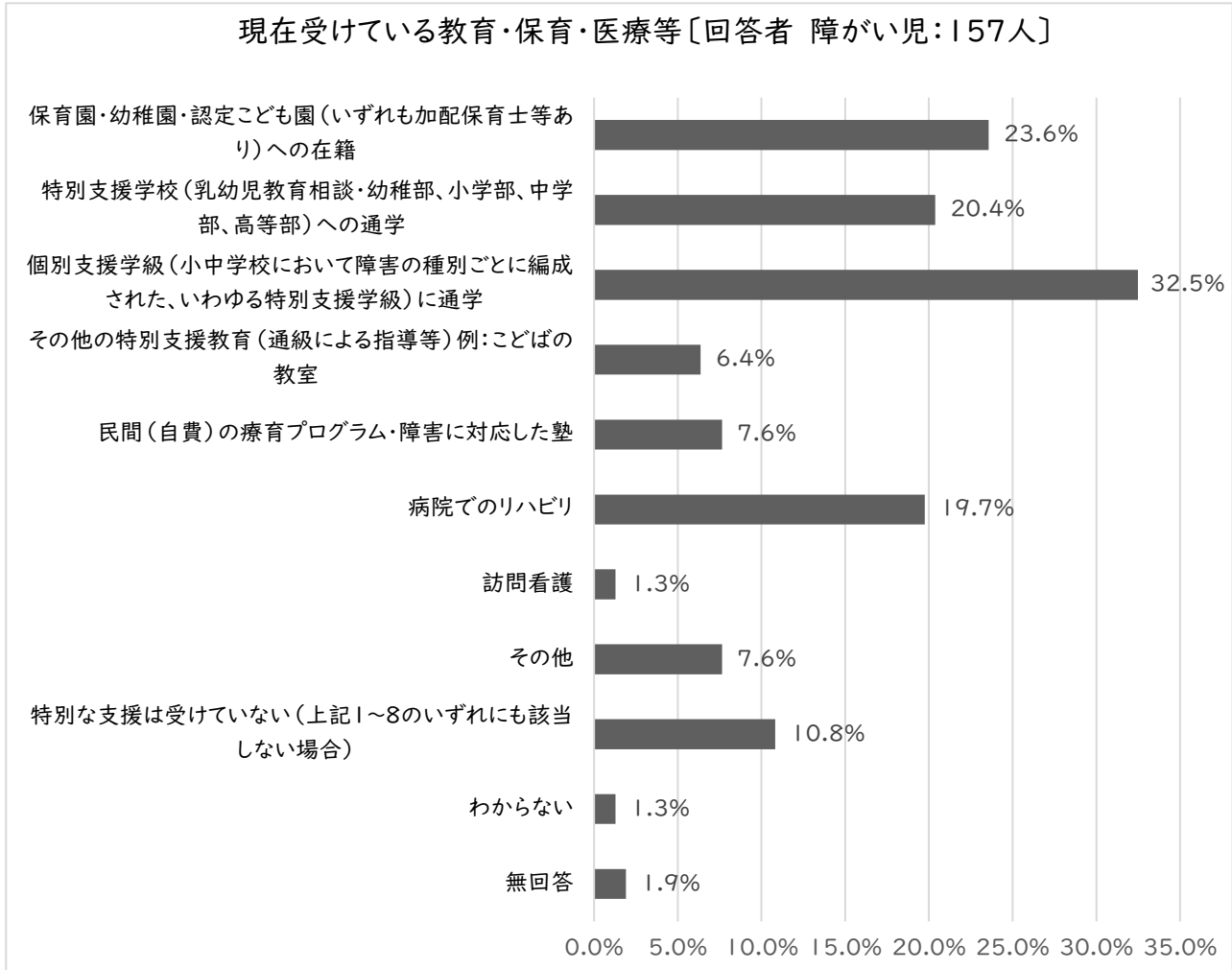
(5) 今後 3 年以内に利用したいサービス

今後 3 年以内に利用したいサービスとしては、「重症心身障がい児を支援する児童発達支援・放課後等デイサービス」が最も多く、5.3%となっています。



(6) 現在受けている教育・保育・医療等【重複回答項目】

現在受けている教育・保育・医療等では、「個別支援学級（小中学校において障害の種別ごとに編成された、いわゆる特別支援学級）に通学」が最も多く、32.5%となっています。次いで、「保育園・幼稚園・認定こども園（いずれも加配保育士等あり）への在籍」が23.6%でした。



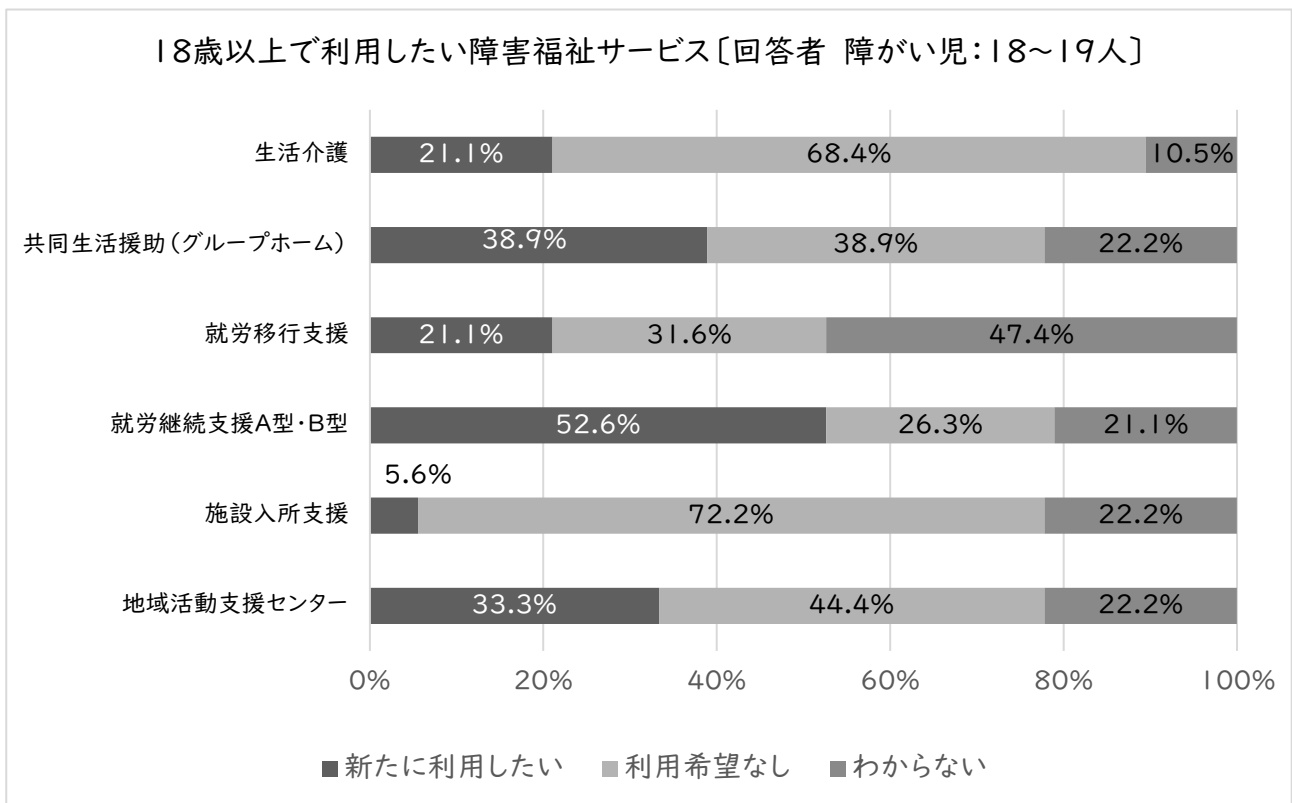
◎その他の回答

- ◆こども発達センター・・・こども発達センターを利用（3）／4年ほど発達センターのお世話になりました。息子も見違える程成長しました。親になって子供に必要な教育のアドバイスはとても助かりました。これからも多くの親子さんの支援に必要なセンターだと思いました／母の実家は東京ですが、比べると白井（千葉）は手厚くして頂いていると思います。子供の成長も手さぐりではありますが、今後もこの地で長く生活していくために障がい児福祉を充実させていっていただきたいです。幼稚園～小学校～中学校～と移っていくことに不安があるので支援が途切れることなく続けられたらと思います。発達センターの小学生への療育がなくなるのはとても残念です。センターは心配事を対面で相談しやすい良い場所なので
- ◆病院・・・5才の頃からずっと発達外来を毎月受診し発達障がいの薬を処方していただいています／薬のみ病院に行っている／病院から薬を処方してもらっている／病院でカウンセリング
- ◆学校・・・コミュニケーションに特化した高校、私立（通信）／小学校や中学～高校と発達障がい児の進路相談などもっと機会を増やしてほしい。小学校の特別支援級を担任する先生はもっと発達障がい児に特化した先生を配置してほしい

- ◆習い事…自費でアートセラピー、絵画教室、体操クラブ／発達障がい児と知った上で、配慮して教えてくれる、習い事教室に通わせている
- ◆保育園…保育園 加配なし／療育週1日、保育園週4回(加配なし)
- ◆その他…デイサービス／未就学児市内に発達障がいに特化した施設が少ない。個々に合わせた事業所が少ないので選択したくてもできない。市外は送迎が困難／障がいの様々(程度も含めて)あると思いますが、そのために皆と同じ教育の機会を得られないというのは悲しい。又本人、家族が生活の中で不自由を感じる人が多いだろうと自分も含めて考えました。当事者の思いを本当に理解して支援するのは難しいと感じます／特にありません

(7) 今後 3 年間で利用したい 18 歳以上から利用できるサービス

新たに利用したい 18 歳以上から利用できるサービスには、「就労継続支援 A 型・B 型」が52.6%と最も多く、次いで「共同生活援助(グループホーム)」が38.9%となっています。



※割合の母数は、無回答を除く 15～17 歳の障がい児 18～19 人

6 自由意見（障がい児）

※掲載する意見は、できる限り原文のまま掲載しています。

分類		記載内容
療育支援の拡充・質の向上等	療育施設の拡充	<p>現在遠方まで実費で通っています。市内で療育ができる施設があれば、料金も高い。遠方なため困っています。仕事を休んだり金銭負担が厳しいです。(ひとり親の為なおさらです)</p> <p>LD や軽度の発達障がいへの支援が少なく今年やっと ST のいる事業所にお世話になることとなり、この一年、子供も親もどう対応したらいいのか、訓練していいのか分かる様になりました。もっと増やして頂き、通える回数を増やして頂きたいです。</p>
	専門職の増員	病院でのリハビリ (ST、OT) の頻度を増やせる様に療法士の数を増やしてほしい。
	支給量増加の要件緩和	白井は受給者の日数をあまりもらえない。減らそうとされるという話しはよく聞きます。近隣の市は日数を増やしてもらいやすいようです。私自身も周りの人もそうでしたが日数を増やせるか伺うと障害福祉課の窓口で「1日増やすごとに税金が1万円かかるんですよ」と説明を受けたことがあります。
		現在放課後等デイサービスを利用しています。週2日利用しているため月10日の日数(限度)で契約していますが土日祝など普段利用していない日で時々利用したいと思っているので、多めの日数でも契約できるようにしてほしい。
放課後等デイサービスの拡充	人員・環境の改善	<p>「施設」については詳しく理解していないのですが、昨年まで発達センターを利用し、民間の放課後デイサービスを利用して、白井市に対して感じた事は発達センターの施設をもっと活用してほしいと思いました。特に運動系(全身)の療育に関しては白井市内に民間が1か所しかなく、通所していましたが、せっかくセンターの整った施設があるのに就学すると利用できなくなるのが残念です。</p> <p>放課後デイ利用しているが職員が少ないと伺っています。人員を増やし、充実した支援を受けられるようにして頂きたいです。又、施設的环境も、もう少し良いものにして頂きたい。</p>
	受入れ体制の改善	療育支援を継続したほうが良いとアドバイスをいただき、今後、放課後等デイサービス等を検討していますが、紹介された施設に在籍できる空きがないことがありました。市内にもう少し支援を受けられる施設を増やせないかと思っています。
		放課後等デイサービスは市内に増えているが、ほとんどが肢体不自由の受け入れが出来なかったり、医ケアが受け入れられないところばかりです。増やせばいいではなく医ケアや肢体不自由の子が通える所を増やしてください。放デイの時間が短いので、働きたくても難しい現状なので、日中一時支援の事業所も増やしてほしいです。
		放課後等デイサービスの施設が少なく、学童代わりに利用している方が多いと聞きました。本当に必要としている人達が利用できない状況にあります。
サービスの利便性向上	<p>白井市内には学校まで送迎に行ってもらえる放課後デイサービスありませんでした。白井の学区の学校で市内にあるデイサービスなのにおかしいのでは?と感じています。</p> <p>来年度から小学校に上がる予定で、放課後、療育施設に通う予定だが、送迎に時間をとるのに頭を悩ませています。施設の数を増やす、もしくは学校(放課後)でサービスを受けられたら便利。</p>	

分類	記載内容
放課後等 デイサービスの 質の向上	<p>専門的な知識を持った職員が少ない様子もあり、学童保育と変わらないのでは?と思うこともあります。運動、学力、コミュニケーション、発語など特化した放課後デイがもっと多くあったら良いと思う。</p>
	<p>昔より発達に不安がある子どもが早くに見つけてもらえる時代になり、息子も早期療育を受けられ感謝しています。白井市も児発や放デイもたくさんできましたが、専門職(OT・PT・ST等)の方のりハビリ、療育を受けられる施設が少ないことから、発達センター以外での利用をしていません。老人福祉も大事ですが障がい児福祉にももう少し力を入れていただきたいです。</p>
	<p>就学後の専門員(心理・OT)による療育の充実。</p>
	<p>読み書き障がいがあり、現在の学年の内容はついていけません。学校ではその子にあった内容にしてくれますが、自信がつくような支援があれば通いたいです。以前は病院で勤めてもらったところに通っていましたが、遠く交通費や時間もかかり、又1回5000円の1か月2回は金銭的に負担が強く大変でした。お金の負担もあり、ある程度のところで卒業となりましたが、近くにそのような放課後等デーのようなところがあればと感じます。</p>
	<p>小学生なので発達センターの利用がなくなり、それに代わる運動面を見てくれる施設がなかったり学習面での専門的アドバイスも受けにくくなり、グレーゾーンと言われるタイプの子の行き場がなくなってきたと思います。</p>
保護者の 就労支援	<p>放課後デイサービスの預かり時間が長期休みに入ると短いのもっと長い時間預かってほしい。</p>
	<p>両親がフルタイム勤務(妻は土日祝ありのシフト制)のため19時までの公的施設では対応しきれず、結果民間サービスを利用すると料金が高額なため家計が圧迫されてしまう。4月から小学生になるので学童メインで預けざるを得ずせっかくこれまで受けてきた療育の延長がしづらい(放デイは大部分が18時までの為)現状から後退するのではという不安がある。</p>
	<p>とにかく両親フルタイムで働く親に対する支援が少ない。放課後デイサービスの開所時間が短く、定時に仕事が上がっても間に合わない、長期休暇中預けることができず、仕事に行けず毎日遅刻していく現状。だからと言ってデイ前後に預かってくれるサービスはなくフルの仕事からパートにかえる人を多く見ている。支援学校のバスの時間も遅く仕事に間に合わない。それをサポートしてくれるサービスもない。時代に合っていない。早急に考えてほしい。</p>
	<p>保育園での加配の人員を増やすなどして、障がいのある子どもの保護者が就労しやすい環境にしてほしいです。</p>
	<p>預け先の確保 父母共にシフト制なので、祝日や年末年始に子どもを預けられる施設があるといいと思います。</p>
	<p>レスパイト・仕事・ 職業訓練時間の 確保 その他障がい児の保護者のケア(レスパイトなども含み仕事時間確保など)の充実もあれば夢のようです。幼稚園・保育園や、療育の送迎・同伴通所などとあわせての就労は継続も含め難易度が高いです。 コロナでなかなか仕事がつづらぬ状況(子供が自宅待機など)のため親へのサポートもあると助かります→自宅でリモートでの仕事など←それをするための職業訓練の時間の制約が厳しいため断念。</p>

分類		記載内容
経済的支援	身体障がいにかかる消耗品購入への助成	身体障がい児でもあり、ASD、ADHD でもある重複障がい児をもつ、ひとり親です。特別児童扶養手当はいただいているのですが、身体障がいで装着している物に消耗品がたくさんあり、一つ一つが高額でなかなか購入できません。市でも補助があると助かります。人工内耳の電池の助成がある都市もあります。ぜひ白井市でもお願いします。又、子供のうちはイヤーマールドも必要です。補聴器だけでなく人工内耳も対象になる事を願います。
	移動支援への助成	スクールバスのバス停まで行くと仕事が間に合わないので移動支援が朝使うことができるようになると負担がなくなる。有償ではあるがお金のかかり方からすると市の方で補助があるとありがたい。
	通所給付拡充	療育施設の利用料が少しでも安くなってほしい。
	その他助成金	民間の水泳、体操、絵画、音楽、英会話等を利用した方が個性を伸ばす改善につながるのかな?と思うこともあるので、補助金やそういう支援があれば嬉しい。
福祉サービスの拡充	就労支援 就労施設の拡充	市内に就労施設がもっと増えてくれると助かる。就労を考えた時、市内にあまりにも少なく定員がいっぱいで市外しかない。
		就労継続支援、生活介護など高校卒業後に利用できる所をもっと増やしてほしいです。
		就労継続支援も増やして下さい。実習先がありません。
		白井市に住む子供が地元の中学校卒業後に学べる場所、働ける場所を作ってほしいです。
	学びの場 遊び場 居場所づくり	白井市に住む子供が地元の中学校卒業後に学べる場所、働ける場所を作ってほしいです。現在子供は中2ですが三小学区から大山中まで自転車も乗れない為、毎日送迎しています。経済的な事で働かなくてはけません。中学卒業後、湖北支援学校を考えていますが、バス停までも場所によっては1人では待たせられません。近くに支援学校の様に学べる場所が出来れば良いと思います。(再掲)
		障がい児と楽しく、安心して遊ばせられる所があると嬉しいです。(施設でもカフェでも)
	グループホーム 施設入所 生活介護等 暮らしの場の拡充	障がい者が暮らせる施設を作ってほしい。(親がいなくなった時や世話ができなくなった時のため)
		グループホーム特に軽度の子も多いので専用のマンション or アパートを建ててほしい。それぞれ個室で生活し困った時だけ助けてくれる管理人さんのような方がいてくれるだけで良いのでお願いします。
		生活保護ほどではないけどひとりでは暮らしていけない子供に向けた施策の充実。親なき後の子供の生活が安心して送れる様な良い福祉施策を親として心から望みます。
		就労継続支援、生活介護など高校卒業後に利用できる場所をもっと増やしてほしいです。(再掲)
短期入所等の 拡充	本当は就労Bを利用したいが、無理と言われ生活介護にしな、と言われたが生活介護の受け入れ先がない。生活介護の内容も他市に比べるとサービス内容が少ない。障がい者本人の人権の意味を周りの人が理解していない。家族の負担(体力・メンタル・経済)が多い。全介助が必要、医療ケアが必要な人たちの場所を下さい。	
	児童のショートステイができる場所を市内にを作ってほしい。印西までいかないと泊まりがない。移動支援をもっと充実させてほしい。短期入所も。希望する日時に利用できないことが多いので、いつでも利用できるようにしてほしい。	

分類		記載内容
移動・交通手段の充実	小学校への送迎	小学校就学時、通学のバスに乗ることができないので送迎が必要となります。しばらくの期間の付添いと送迎を他の家事育児などと併行して行えるのか不安しかないため、難しさか感じていません。学校に通えたら行動の幅も広がり、本人はとても良い刺激になるのは間違いないですが、送迎の問題を解決できる方法があると助かります。
	循環バスの充実	自力で使える交通手段を増やしてほしい。ナッシー号で駅まで通えるが、本数が少ない為、結局家族の送迎になっている。出来る事があるのに、白井市では難しい事になってしまう。
	移動支援の拡充	スクールバスのバス停まで行くと仕事が間に合わないので移動支援が朝使うことができるようになると負担がなくなる。有償ではあるがお金のかかり方からすると市の方で補助があるとありがたい。(再掲) 移動支援をもっと充実させてほしい。短期入所も。希望する日時に利用できないことが多いので、いつでも利用できるようにしてほしい。(再掲)
相談窓口・情報提供等の充実	進学・就労に関する情報提供の充実	子どもが低学年のうちから中学以降の進路を考えたいが、発達の状態、別の進路の種類、具体的方法等の情報が得にくい。可能な限り早くから将来を考えることができる様に情報を発信していただくと幸いです。
		障がいがあるのにグレーゾーン、本人が大変。親が死ぬときどうするか。18歳から何が使えるのか、どこに行けるのか、親の話し場所がなくわからない子供も困っていますが親も困っています。
		情報が得られる機会が少ない。障害年金、就労、親亡き後の暮らし。
		障がいのある子が将来どのような職につけるのか、自立のため幼い頃から訓練したほうが良いことは何かなどを勉強する機会がもっとほしいです。
		障がい福祉の情報も自ら動かないと中々得られにくく、今後中学、高校と進学することに不安が多い。学校の支援級の担任も詳しくは知らない。定型ではない発達だからこそ、将来の見通しが立ちにくいのももう少し将来のビジョンが持てる障がい児福祉になればと思う。
事業所に関する情報提供の充実	子ども発達支援センターが放課後デイサービスをやらなくなって、自分で子供に合う場所を探す苦労ができてしまいました。また復活していただくと幸いです。同じ苦労をかかえている保護者同士もう少し頻繁に出会える機会があると嬉しいです。	
	働いているとなかなかサービスを探す事が困難なので、web等でもっとかんたんに探せるといいと思います(日中しか電話できないと機会を逃すので)	
	放課後デイサービスの事業内容がわかりづらく、どの事業所が子供の症状に合うのか判断しづらい。	
発達に関する相談先の充実	現状、限られたスタッフですごくきめ細かく対応していただいております。今のサービスを維持していただくとともに可能であれば市内や生活圏ある各施設の情報の網羅、特にサービス利用したて、する前に知ることができると嬉しい。	
発達に関する相談先の充実	集団での支援にとっても助かっています。学校以外の世界も持てる事で視野が広がられると思っています。小2になると発達センターは卒業となり個別で運動を見てくれる場を失いました。センターにかわる何かがあると心強いのですが、自分では見つけれません。探しやすいなればよいと思います。	

分類	記載内容	
相談窓口・情報提供等の充実(つづき)	発達に関する相談先の充実(つづき)	<p>小学校の先生の負担が多そうで相談しづらい。主任級の支援級の先生はやる気がなく話をきかず、気分屋の発達障がいの子にイラついて言い返している姿をみて、先生も他人の子相手に「何でそんなこともわからないんだ。」とイライラするだろうな、申し訳ないなと思いました。ほったらかしの親もいますが、むしろモンペの障がい児の親は強いなと思います。市の税金を将来役に立ちそうにない障がい児に使っていただき申し訳ないです。こんな子供産んでしまいすみません。他人様に迷惑かけない程度に育てたいですが、産んで後悔しております。</p>
	発達に関する相談先の充実(つづき)	<p>発達センターへ通所していたが、放デイがなくなってしまい、子供の発達相談を電話でしていました。継続的に連絡を取り合う事で、孤独感もなく解決できた問題もありました。</p>
	発達に関する相談先の充実(つづき)	<p>子供が中学生になり、子ども発達センターから民間の事業所と放課後デイサービスへ移行になりましたが、本人が行きたがらず相談できる場所が無い状態で不安を感じています。</p>
	発達に関する相談先の充実(つづき)	<p>問 24 で多く書かせてもらいましたが、発達センターは何で 2021 年以降、あんな風になってしまったのか。センターは本当に残念。発達(職域)相談も、しにくく、困る。(再掲)</p>
	療育を受けるまでの流れの明確化	<p>2歳頃、自閉症を疑い、すすく子育て相談を利用しましたが、ただ「集団に入るまではわからない」と言われるだけで、発達支援を受ける具体的な方法の説明もありませんでした。立場や状況的に積極的でないのは理解できますが、自閉症という前提で受けられるサービスを全て説明してほしいです。その後受けているサービス(センター等)は本当に素晴らしく感謝しかありません。</p>
	療育を受けるまでの流れの明確化	<p>保健師さんに指摘され発達相談を利用し、現在、発達支援所に通っているが、自分的にはあまり問題を感じていない部分もあり(ただ、現状を受容できないだけかもしれないが)こういうモヤモヤをどこで相談していいか、今後どういう風に診断を受けたほうがいいか、いつごろ診断してもらうため、どこに受診したらいいか別に受診しなくてもいいのか、よくわからないのでそういうことを教えてもらったら助かります。(自分で病院に聞けばいいのかもですが)</p>
	療育を受けるまでの流れの明確化	<p>市に療育の相談をしに行ったらあまり的確なアドバイスを受けることができなかった。相談支援員レベルの体系的に捉えた知識があつたら、時間もかからず、迷いも少なかったかなと感じた。的外れなアドバイスが長くて困った。違う課に何度も同じ話をしたりして大変だったので連携を取ってほしい。</p>
	制度・サービスの説明	<p>白井市こども発達センターを利用しています。我が子に発達に遅れがあり、センターを利用するまでは、丁寧に説明を受けてスムーズでしたが、通所受給者証、療育手帳、その他沢山の手続きがあり、右も左も分からない事だらけで約 3 年通っていますが、やっと理解出来た所です。私の知識不足もありますが、もう少し分かりやすいと良いなと思いました。</p>
	制度・サービスの説明	<p>手帳が交付された時に同時に受けられる助成金などの案内が受けられると嬉しいです。</p>

分類		記載内容
行政手続きの改善	手続きの簡略化	障害児通所支援の更新の手続きなど、年 1 回あるが2~3年など期間を延ばせないかと思います。手続きを簡略化してほしい。
		子 2 人以上がサービスを利用しているとき、更新時期が異なるといちいち大変なのですんなりまとめられるようにしてほしい。
	窓口対応の改善	私自身も周りの人もそうでしたが、日数を増やせるか何うと障害福祉課の窓口で「1 日増やすごとに税金が 1 万円かかるんですよ」と説明を受けたことがあります。障がい児を育てる母に対してお金の事を言われるのは、、、不適的な発言ではないかと噂になっています。税金使っているのはもちろん理解しているので私としてはただ申し訳ない気持ちになります。悪くどらえてしまう人もいるので難しいですね。
		受給者証の更新手続きのため、障害福祉課の窓口にて現在の子どもの様子を話した際に担当者の方から「この感じならば療育卒業できそうですね。」とぼろっと言われました。息子はグレーゾーンですが集団生活に関してはまだまだ困りごとがたくさんあります。療育もしっかり続けていきたいです。医者でない、担当者の方が聞き取りのみで療育の継続の必要性を判断して欲しくないという気持ちを抱いてしまいました。
制度・システムの拡充	情報共有システムの稼働	情報共有システムが早く実現すると嬉しいです。同じような内容をいろいろな施設で何度も一からお話することで、不安な気持ちが何度もえぐられるような、子どもを否定するような罪悪感?がとても辛かったので…(皆さん親身に聞いて下さるので、対応への不満はありません)
	通級指導教室制度の導入	通級の制度があると良いと思います。普通級、支援級のくりだけでなく、通級という選択肢が白井市にもあると良いと思います。
	所得によらない公平な支援	親の所得等関係なく、支援を必要とする子ども達が支援を利用できるようにしてほしいです。先に不安のある子どものために、今のうちに貯金をしておきたいのですが、それによって今の暮らしが圧迫されたり、車いすや装具などの大きい物が必要となったときに、すぐに用意することを躊躇したり、難しくなってしまうのではという不安があります。
	学童保育の優先利用	1人で家にいることが不安だが、高学年のため学童保育に入れず、やむを得ず放課後デイサービスを利用しはじめましたが、デイサービスにすると利用料が高くなりました。デイサービスほどの支援を必要としていない場合に通常の学童保育に優先して入らせてくれる制度にしてほしいです。
	学校支援員の確保	小中学校に担任とは別に児童の生活面学習面をサポートする支援員を確保してほしい。(特に 1~3 年の小学校低学年各クラス 1 名ずつ)
	事業所運営の改善	大変な作業になりますがアプリを作って、利用者がどの事業所を今日〇時~〇時まで利用したいという報告管理を福祉課がした方がよいと思います。(不正をなくすため) 又、事業所へ意見したり、他で相談した事について利用者を責めてくる所もあり、知人が悩んでいます。事業所は何の為にあるのか指導していかないと事故が起きると思います。
	よく総合公園のトイレを使用するためだけに成人の障がい者を乗せたワゴン車が止まっているのを毎回公園に行くたび見かける。障がいのある方に自社のトイレを汚されるのが嫌だからトイレだけ公園(あまりキレイではない所)でさせているように見受けられます。公園の公衆トイレではあまりにもひどいと思います。せめて市役所のトイレを解放してあげてほしい。	

分類		記載内容
地域・社会全体の環境整備等	道路の整備	木下街道等を整備、バリアフリーにしようという車いすですりやすいです。
	発達障がいについての理解促進啓発	問16(家族が関わりを学ぶ場)の件です。私(母)は、子への療育に興味があるので学ぶ機会がありますし、実践できていますが、結局、学ぶ必要が本当にある人(うちの場合、主人)は興味がないので参加しません。参加する人は、興味のある人、つまり元々学びたい気持ちや姿勢があるのです。学びを深めるのは良いですが、本当に学ぶべき人は「興味ない人」という所が問題です。これは障がい児の件だけでなく、男女共同参画やあらゆる講演会についてもいえることですが。
		学校と福祉をつなぐ担当者会議(高齢者でいうサービス担当者会議)をやってほしい。やりたくて教育委員会で相談したこともあったが、担当者が??な反応であった。特支はあることも多いそうだが、支援級の子もできないだろうか。春休み中にやるとか…。やりたいけど調整が大変。でもやりたいです。教育側に理解が必要と考えます。
		幼保教諭への発達障がい者への支援の専門性向上のための座学の普及
	地域のつながり交流の場	今、中学生ですが友達がまったくいない状況です。同年代の方と交流できる場などがほしいです。
		子ども発達支援センターが放課後デイサービスをやらなくなって、自分で子供に合う場所を探す苦労ができてしまいました。また復活していただくと幸いです。同じ苦労をかかえている保護者どうしもう少し頻繁に出会える機会があるとうれしいです。(再掲)
共生社会へのシフト	まだまだ障がいをかかえる子と、そうでない子とでの壁を感じる日常が現実多いと感じる事が多いです。共生社会があたりまえの世の中になってくれたらと親としては切に願っています。	
現状について	集団生活が苦手、保育園でも集団行動をしなく不安です。保育園では一切話さず、ジェスチャーで嫌なことは首をふったりします。療育の場所にも嫌がり、困っています。4月で年中で小学生になったらなじめるか今から不安でしかないです。	
	個別指導等利用しています。(発達センターは幼稚園までだったため)2~3歳からお世話になっています。訓練していただいたお陰で成長がみられています。やはり訓練は大切とSTの先生からも聞いています。とても助かっていますので、今後も続けたいです。よろしくお願いします。	
その他	デリケートな問題への対策、施策に感謝します。今後もそれぞれの児童が自分らしく成長し、それぞれの輝く未来へ進めるように協力をお願いします。	
	まだ子供が小さいので大きな不安はありません。現在、発達センターで療育を受けており先生方にはよくしていただいております。感謝しております。大変なお仕事ですので賃上げしてあげたい気持ちです。今後もお世話になります。よろしくお願いいたします。	
	発達障がいの投薬療法の為、毎月の受診が欠かせません。受給券にお世話になれるのも残り1年となり、来年以降の医療費負担が心配です。受給券の対象年齢を延ばして頂けることを願っています。	

第2編 関係団体等ヒアリング調査 結果報告書

7 ヒアリング調査 調査概要

■調査の目的

本調査は、関係団体（障がい者団体・障害福祉サービス事業所）の意見を聞くことにより、白井市障害者福祉計画・障害児福祉計画の策定に当たり、サービス利用量推移だけでは把握できないニーズ変化等を読み取ることを目的とします。

■ヒアリング調査日程

障がい者団体 令和5年2月7日(火)、10日(金)、22日(水)
 障害福祉サービス事業者 令和5年1月18日(水)、19日(木)

■ヒアリング調査の実施方法

ヒアリングシートを郵送し、ご記入いただいた内容について、事業者についてはグループワーク方式、障がい者団体については対面式でヒアリングを実施し、意見・ニーズ等を把握しました。

■ヒアリング調査対象及びヒアリング日程

【障がい者団体】

団体名	ヒアリング日時	
白井市視覚障害者白井あゆみの会	2月22日(水)	10:00~11:00
白井市身体障害者友の会「にこにこ」	2月7日(火)	13:30~12:30
白井市聴覚障害者協会(友の会)	2月10日(金)	16:15~16:45
いちごの会	2月22日(水)	16:00~17:00
手をつなぐ育成会	2月10日(金)	13:30~14:30
しらゆりの会	2月10日(金)	10:00~11:00

【事業所】

種別	略称	参加事業所 (ヒアリングシートのための提出も含む)	ヒアリング日時
居宅介護・同行 援護・行動援 護・移動支援事 業所	訪問	介護ステーションセーフロ にこにこケ アステーション 生活サポートさくら 白井地域福祉事務所しいの木 ニチイケ アセンター白井	1月18日(水) 10:00~11:30
生活介護	生活 介護	きらり	

種 別	略称	参加事業所 (ヒアリングシートのみ提出も含む)	ヒアリング日時
相談支援事業所(児者・相談支援)	相談支援	手織り/座ぐり うぐいすのとまり木 にここ相談室 レ・アーリ相談支援事業所 アサンテ	1月18日(水) 10:00~11:30
就労移行支援・就労継続支援事業所	就労支援	フラットヴィレッジ ユナイト 就職するなら明朗アカデミー・白井キャンパス 就労継続支援B型みのり ワークルーチェ	1月19日(木) 14:00~14:30
児童発達支援・放課後等デイサービス	児通所	フラヴィキッズ ビリーブ 放課後等デイサービスぱずる 放課後等デイサービスウイズ・ユ一白井 放課後等デイサービスゆらり ミミナグサ/ソフィ ぷれも白井	1月19日(木) 14:00~14:30

※グループワークに欠席した事業者については、ヒアリングシートにて意見を把握しました。

■調査内容

(1)障がい者団体調査

問1 活動目的や最近の活動状況、日常の団体活動における困りごとや課題等

問2 要望や苦情の多いサービス・貴団体が特に重要と考えるサービスは。

問3 今後、利用希望が増えると見込まれるサービスは。

問4 サービスを利用しやすくするために、どのような方法があるか。

問5 新型コロナウイルスの蔓延による貴団体や会員への影響について、どのようなことがあるか。

問6 市の相談支援体制・基幹相談支援センターの設置についての意見等

問7 その他

(2) 障害福祉サービス事業者

問1 サービス利用者から特に多く上げられる要望や苦情とは。

問2 利用者にとって必要性が高いのに、供給不足や利用条件の不一致により利用ができないサービスは。

問3 今後、需要・供給の状況に著しい変化が生じると思われるサービスをどのようにとらえているか。

問4 サービス提供事業者、相談支援事業所、行政、他機関との連携に支障が生じるのはどのようなときか。

問5 現在、事業所運営上の最大の課題は。

問6 新型コロナウイルスの蔓延による利用者や事業者への影響について、どのようなことがあるか。

問7 市の相談支援体制・基幹相談支援センターの設置についての意見等

問8 市の障害福祉計画又は障がい福祉行政全般に対する意見等

8 ヒアリング調査結果の概要

8-1 障害福祉団体からのヒアリング結果(主な意見の概要)

1 活動目的や最近の活動状況、日常の団体活動における困りごとや課題等

- 新型コロナウイルスの影響で、活動を自粛したという団体が多く見られました。そのような中でも、他団体との交流や講座等への参加などの活動を継続しています。
- 会員が高齢化している、新規の加入者が少ないという団体もありました。

2 要望や苦情の多いサービス・貴団体が特に重要と考えるサービス

- 以下のサービスについて、拡充が必要との声がありました。
- 福祉タクシー券の枚数を増やしてほしい。
 - 介護保険サービスが優先されると、十分な回数のサービスが受けられない。
 - 子どものサービスについては、軽度者の放課後等デイサービスの利用が多く、定員超過により受け入れてもらえない、利用できず日数が少ない、事業所の質を確保することが重要。
 - 相談支援専門員が不足しているのではないかな。
 - 軽度から重度の方まで対応できる、グループホームや短期入所が不足している。
 - 訪問系のサービスを充実強化してほしい。

3 今後、利用希望が増えると見込まれるサービス

- 以下のサービスについて、今後利用希望が増えるのではないかという意見がありました。
- 同行援護、地域生活支援事業
 - 歩行訓練などができるサービス
 - 生活介護から就労移行支援までの、学校卒業後のサービス全般
 - 不登校児向けの訪問型支援(ご家族への支援も含む)
 - グループホーム、短期入所、通院等介助
 - 訪問系サービス

4 サービスを利用しやすくするための方法

- 視覚障がい者の特性を理解するために、市職員の疑似体験や市民啓発が重要という意見がありました。
- 聴覚障がい者については、サークルや市の協力が重要という意見がありました。
- お子さんについては、放課後等デイサービスと学校の連携、その他関係機関の連携、情報共有システムに関する保護者への啓発などが効果的であるという意見でした。
- 障害福祉サービスの内容や障害年金などについての市からの周知・告知方法の工夫、一元的に情報を受け取りやすい仕組みづくりなど、分かりやすく情報を伝えることが重要との意見が複数ありました。

5 新型コロナウイルスの蔓延による団体や会員への影響

- 多くの団体において、新型コロナウイルスのために会員が集まることができず、また、情報が入らず困ったという意見もありました。
- 学校や事業所が閉鎖になり、日常のリズムが崩れて不安定になったという声も複数ありました。また、家族も疲れてしまいました。
- 当事者のひきこもり傾向が強まったほか、不登校が増えたのではないかと意見もありました。

6 市の相談支援体制・基幹相談支援センターの設置についての意見等

- 視覚障がい者・聴覚障がい者が相談できる場所や通訳の確保を望む声がありました。
- 基幹相談支援センターの場所については、目立つところに設置してほしい。気軽に立ち寄れる相談場所であってほしい。市保健福祉センターの1階にあると良いという意見がありました。
- また、基幹相談支援センターができることで、相談支援事業所の連携の幅が広がり、関係機関の情報共有化のハブとなしてほしい。福祉・民間ともにつながる場所であってほしいとの意見がありました。
- 相談日など、広報しるいに掲載するなど、周知が重要との声がありました。

7 その他 (一部抜粋)

ほかに、以下のようなご意見がありました。

- 視覚障がい者向けの音響信号や点字ブロックの改善、設置する際に当事者の意見を聴いてほしい。
- 視覚障がい者も参加しやすい講座を工夫してほしい。
- 歩道や公共施設等の滑りやすさを改善してほしい。
- 母子保健、福祉、教育分野のそれぞれに何度も説明を要するので、情報共有をすすめてほしい。
- 保育士、幼稚園教諭、小学校の先生などに、発達障がいの研修を行ってほしい。
- 親同士の交流が重要であり、こども発達センターの集まりを充実してほしい。
- 障がい者に配慮した災害時の支援体制を整備してほしい。災害時、薬の受け渡しが一円滑に行えるようにしてほしい。
- 自助活動、家族講座など家族への支援を進めてほしい。

8-2 障害福祉サービス事業者からのヒアリング結果 (主な意見の概要)

1 サービス利用者から特に多く上げられる要望や苦情

主に、以下のような要望があります。

- 移動支援や通院介助、送迎、入浴サービス、医療的ケア、運動プログラム、障がい児の個別療育を利用したい。
- もっと長時間利用したい、サービスの日や曜日を変えてほしい、回数を増やしたい。
- 担当の職員を固定化してほしい、職員を変更してほしい、専門職を配置してほしい。
- サービスを利用する際の手続きを簡単にしてほしい。
- 新型コロナウイルスの感染予防や、道路・災害時避難のバリアフリー化など

2 利用者にとって必要性が高いのに、供給 (利用できる地域のサービスの量) の不足や利用条件の不一致により利用ができないサービス

- 次のサービスは、白井市内に事業所が少ないという意見がありました。
グループホーム (身体・精神・重心・行動障がいなど)、地域活動支援センター、生活介護 (精神障がい対応)、就労継続支援A・B型、日中一時支援、居宅介護、障害児通所支援 (身体・医療的ケア児・行動障がい等)、短期入所 (医療的ケア・障がい児)、

移動支援・行動援護・同行援護

- 居宅介護などのサービスは、職員が少ない時間帯・性別・医療的ケアなど個別のニーズに、対応が難しい、また、行動援護、移動支援、障害児通所の専門職による療育、医療的ケア児・重心児支援に従事する職員が少ないとの意見がありました。
- 病院内の介助、行動援護、移動支援、短期入所、支給決定量について、利用条件が合わず、希望するサービスが受けられていない場合があるとの意見がありました。
- その他、送迎の希望、ピアサポートの場や精神科医療機関が不足しているなど

3 今後、需要（皆さんが利用を希望する量）・供給（利用できる地域のサービスの量）の状況に著しい変化が生じるとされるサービス

- 需要が増えると見込まれるサービスとして、以下の内容がありました。
指定障害福祉サービス…グループホーム（重度者・行動障がい・精神障がい・他）
短期入所（緊急時対応）地域移行・一般就労への移行 移動支援・行動援護
生活介護 居宅介護・重度訪問介護 医療的ケア・重症心身障がい者への居宅
介護・移動支援・通院等介助
障害児通所支援…障害児通所・入所（重度者）軽度・グレーゾーンの児童の増加
地域生活支援事業…地域活動支援センター 日中一時支援 外出支援
その他…高齢者の介護サービスへの移行 成年後見制度 ダイバーシティ就労
ひきこもりの方や不登校児への支援
- 供給（事業所）が増えると見込まれるサービスとして、以下の内容がありました。
グループホーム（軽度者向け） 障害児通所支援給付

4 サービス提供事業者、相談支援事業所、行政、他機関との連携に支障が生じるとき

- 関係機関との連携の支障として、サービス担当者会議が実施されていないこと、相談支援専門員と事業所の連携が難しいこと、学校との連携が難しいことなどがあげられました。
- 行政との連携の支障として、サービス等の決定が遅いことなどがあげられました。
- 書類が多いこと、多忙であることなども、連携を難しくする要因としてあがりました。
- その他、地理的に、公共交通機関での訪問がしにくいなどの声がありました。

5 現在、事業所運営上の最大の課題

- 人材不足という意見が多数ありました。具体的には、人材が少ない、高齢化、専門職が不足、人材不足により業務量が増加している、資質の向上が必要などです。
- 関係機関が遠方である、送迎が困難など、地理的な課題もあげられました。
- 業務量が多い、利用者が少ない、給付費が低いなどの課題もあげられました。

6 新型コロナウイルスの蔓延による利用者や事業者への影響

- 利用者の困難として、精神的な不安、サービスの利用控え、工賃減少、心身の機能低下、社会参加・交流の減少、虐待リスクの上昇があげられました。
- ヘルパーの派遣や面談が困難、複数の事業所が利用できない、感染等によるサービス提供の不足、アセスメントの困難さなど、サービス提供にも支障がある状況です。
- 感染による報酬減や利用者の減による事業所の経営への悪影響もあります。
- サービス提供者の精神的負担や、非日常業務の増加・感染予防対応など、事業者の負担も増え、行政の支援の必要性の訴えがありました。

7 市の相談支援体制・基幹相談支援センターの設置についての意見等

- 基幹相談支援センターについては、相談支援専門員への「スーパービジョン」や、地域移行支援・地域定着支援、地域の福祉育成の必要性などから、必要性が高いとの意見がありました。
- 相談支援体制として、情報提供・情報共有の充実を望む声、事業所の周知を願ってほしい、相談窓口を周知するべきという意見がありました。
- その他、適切なサービス提供のための支援として、セルフプランの解消に努めてほしい、サービス利用中止後のフォローや、セルフプラン者について市によるアセスメントを行ってほしい、自立支援協議会等の活性化等の意見がありました。

8 市の障害福祉計画又は障がい福祉行政全般に対する意見等

- 市の施策・取り組みへの要望として、支給基準日数・決定の迅速さを求める声、書類作成の簡略化、事業所の理解、日中一時支援事業設置基準の策定、強度行動障がい・重症心身障がい・医療的ケア者を受け入れるための支援、人材育成の必要性、研修の開催などがありました。
- その他、インクルーシブ教育の推進や障害福祉教育の充実等の必要性などが指摘されました。

9 ヒアリング調査結果詳細

9-1 障がい福祉団体

(1) 白井市視覚障害者白井あゆみの会

■団体プロフィール

発足年月日:平成元年

会員数:4名

平均年齢(約):76歳

■調査結果

問1 活動目的や最近の活動状況、日常の団体活動における困りごとや課題等

【活動目的】

- ・会員の相互理解を旨として、福祉の増進と厚生を図り視覚障がい者を取り巻く諸問題を解決し近代社会の一員としての自覚のもとに社会に貢献すること。

【最近の活動状況】

- ・総会1回
- ・研修会5回
- ・他団体との交流
- ・音声訳ボランティア
- ・市の行事への参加
- ・心身障害者福祉連絡協議会の行事の参加
- ・小、中、高校の総合学習の講師等
- ・新型コロナウイルスの影響により個人での活動となった。

問2 要望や苦情の多いサービス・貴団体が特に重要と考えるサービスは。

- ・福祉タクシー券の配布枚数が少ない。年間36枚では足りない。足りない人には枚数を増やしてほしい。
- ・地域生活支援事業の充実
- ・市内に同行援護事業所がないため、サービスが利用しにくい。

問3 今後、利用希望が増えると見込まれるサービスは。

- ・同行援護、地域生活支援事業

問 4 サービスを利用しやすくするために、どのような方法があるか。

- ・視覚障がい者の特性を理解するための市職員の類似体験や市民への啓発が必要

問 6 市の相談支援体制・基幹相談支援センターの設置についての意見等

- ・視覚障がい者が相談できる場所を確保してほしい。

問 7 その他

- ・視覚障がい者でも一人で測れる音声血圧計を日常生活用具の対象としてもらいたい。
- ・新しい制度などは正しい情報を提供していただきたい。
- ・音響信号や点字ブロックの設置をするときは、当事者を立ち合わせるなど、意見を聞いてほしい。
- ・介護者がいてもホームヘルパーを利用できるようにしてほしい。
- ・白井駅・西白井駅のターミナルの点字ブロックが分かりづらいので対応してほしい。
- ・市のイベントや講座受講対象者の条件を見直してほしい。(自力で保健福祉センターまで来られることとなっているが、その条件では視覚障がい者は参加しづらい。)
- ・視覚障がい者が参加しやすい講座の開催をお願いしたい。
- ・鎌ヶ谷市のように福祉バスが利用できたら参加しやすい。
- ・会議の資料を点訳してほしい。
- ・差別解消について、市民が障がいについて、正しい理解ができるよう小学生のうちから教育が必要である。
- ・視覚障がい者は、代読・代筆を家族にお願いしなくてはならないので、アンケートなど回答がしにくい。対応をお願いする。
- ・このようなヒアリングの開催を増やしてほしい。
- ・市長のモットーにあるように、障がいのある人もない人にもやさしい、住みよいまちづくりをお願いする。

(2) 白井市身体障害者友の会「にこにこ」

■団体プロフィール

発足年月日:平成元年

会員数:13名

平均年齢(約):60歳

■調査結果

問1 活動目的や最近の活動状況、日常の団体活動における困りごとや課題等

【活動目的】

- ・障がい者の社会参加、自立を目指すとともに、地域と協調し障がいの克服、余暇活動を行う。

【最近の活動状況】

- ・各種イベント、講座への参加
- ・季節ごとに本人やボランティアの車で外出し、写真を撮りに行ったり、歩行訓練などを行っていたが、この3年新型コロナウイルスの影響で活動できていない。
- ・市の福祉車両(ゆうあい号)が、常に予約が入っていて借りることができない。たくさんの方が利用できるよう、ルールを決めるべき。

問2 要望や苦情の多いサービス・貴団体が特に重要と考えるサービスは。

- ・みんなが集まって活動できるような場がほしい。
- ・会員のほとんどが介護保険の利用。障害福祉サービスと介護保険サービスでは、介護保険サービスが優先されてしまうので、十分な回数のサービスが受けられない。
- ・週1の訪問介護。座高が調整できる便座や手すりの設置、段差をなくすなどのバリアフリー整備。

問3 今後、利用希望が増えると見込まれるサービスは。

- ・歩行訓練などができるサービス。出入り自由で講座のように短時間利用できるサービス。

問7 その他

- ・歩道や福祉センターの入り口が滑りやすい。
- ・歩行中、点字ブロックが引っかかる。どちらか片側に寄せるなどしてほしい。
- ・介護認定の平等性。

(3) 白井市聴覚障害者協会（友の会）

■団体プロフィール

発足年月日：平成元年

会員数：6名

平均年齢（約）：55歳

■調査結果

問1 活動目的や最近の活動状況、日常の団体活動における困りごとや課題等

【活動目的】

- ・住みやすい環境づくり、手話の啓発、市民の方への障がいへの理解が深まる活動を行う。

【最近の活動状況】

- ・新型コロナウイルスの影響で活動できていない。
- ・聴覚障がいは「みえない障がい」。障がいへの理解が足りていない。
- ・大事なニュースでも字幕がついていない。情報障がいでもある。

問2 要望や苦情の多いサービス・貴団体が特に重要と考えるサービスは。

- ・情報の確保が1番の課題。
- ・地域新聞、回覧板、ホームページすべてに市の情報を掲載してほしい。アプリがあるとよい。

問3 今後、利用希望が増えると見込まれるサービスは。

- ・手話通訳の充実

問4 サービスを利用しやすくするために、どのような方法があるか。

- ・サークルの協力、市の協力

問5 新型コロナウイルスの蔓延による貴団体や会員への影響について、どのようなことがあるか。

- ・集まることができず、情報も入ってこなかった。

問6 市の相談支援体制・基幹相談支援センターの設置についての意見等

- ・聴覚障がい者も相談できるよう、手話通訳者も入れてほしい。
- ・基幹相談支援センターの設置については、目立つところに設置してほしい。
- ・相談日や相談時間等、広報しろいで周知してほしい。

(4) いちごの会

■ 団体プロフィール

発足年月日:平成 20 年

会員数:26 名

平均年齢(約):40 歳

■ 調査結果

問 1 活動目的や最近の活動状況、日常の団体活動における困りごとや課題等

【活動目的】

- ・子育ての中、たくさんの不安や心配ごとを1人で抱え込まずに親同士支えあいができればと思
い活動をしている。
- ・情報交換の場であったり、ともに勉強したり、ガス抜きの場であったり、仲間づくりの場を目指し
ている。

【最近の活動状況】

- ・2020 年の新型コロナウイルス蔓延以降、なかなか集まる機会を設けにくい状況。

問 2 要望や苦情の多いサービス・貴団体が特に重要と考えるサービスは。

- ・支援学級以外の生徒による放課後等デイサービスの利用が多く、支援学級在籍児童が新たに
利用申請をしても「受入れ施設の定員オーバーのため受入れ不可」となっている。
- ・放課後等デイサービスを利用できる日数が少ない。(週 1 しか利用できない)
- ・放課後等デイサービスの事業所が増えてほしいが質を重視するのも大事。
- ・福祉サービスへの入口として相談支援が必要だが、市内に事業所が少ない。依頼してから数か
月動いてもらえなかったことがあり、それ以降は必ず複数の職員に話を通して
- ・対応してもらえた時には、状態が変化し次の問題が生じている。
- ・相談支援事業所、相談支援員が足りていないのではないか。

問 3 今後、利用希望が増えると見込まれるサービスは。

- ・生活介護から就労移行支援までの卒業後のサービス全般。
- ・通所手段がなかったり、事業所とあわないなど市内で選べる環境にしてほしい。
- ・不登校児童向けの訪問型支援(背景に要支援の保護者がいるケースもある)

問 4 サービスを利用しやすくするために、どのような方法があるか。

- ・行政、医療機関、相談支援事業所などノンストップ型支援連携
- ・各主体間の情報共有化。また、保護者だけが情報の中心となるのではなく、相談支援事業所と
保護者が両輪となって各事業者や教育機関とのケース会議なども行えるようにすべき。

- ・放課後等デイサービスと学校の連携が必要。
- ・情報共有システムについての保護者への啓発、マイナンバーと連携してほしい。
(障害者年金や本人の困りごとなども共有できるとよい)

問5 新型コロナウイルスの蔓延による貴団体や会員への影響について、どのようなことがあるか。

- ・閉居志向が強まり、地域サービスへの移行が困難
- ・学校や事業所の閉鎖による影響が多大、日常のリズムが崩れ不安定となった。

問6 市の相談支援体制・基幹相談支援センターの設置についての意見等

- ・市内の相談支援事業所が少ないため、困難ケースであっても一つの事業所で抱えてしまう。
基幹ができることで連携の幅が広がることを期待する。
- ・家庭と事業所、学校や園の情報共有化のハブとなることを期待したい。

問7 その他

- ・母子保健と福祉、教育分野の連携をお願いする。それぞれが個別に対応しているので、保護者はその都度、ライフサポートファイルなどで、同じ説明が必要となる。個人情報保護の重要さは分かるが、もう少し必要な情報は共有化してもらいたい。→情報共有システムの推進
- ・発達障がいなどの児童が増える傾向がある中、その対応が保育園、小学校となった時に、先生たちの勉強不足からの理解度の低さを感じる。保育士、幼稚園教諭、小学校の先生などに対する研修を行政主催で行ってほしい。
- ・こども発達センターの集まりを充実してほしい。親同士の交流は必要である。

(5) 白井市手をつなぐ育成会

■団体プロフィール

発足年月日:昭和 60 年

会員数:32名

平均年齢(約):69 歳

■調査結果

問 1 活動目的や最近の活動状況、日常の団体活動における困りごとや課題等

【活動目的】

- ・障がいのある人が豊かに安心して暮らすことのできるように障がいのある人の権利を守り、その福祉と教育の向上を図ることを目的としている。

【最近の活動状況】

- ・白井市心身障害者福祉連絡協議会出席、他団体との情報交換
- ・千葉県手をつなぐ育成会事業への参加、協力
- ・市附属機関(地域自立支援協議会、市地域福祉計画作業部会、市障害者計画等策定委員会)等への参加、協力
- ・チャレンジパーソンスポーツ運営協力
- ・勉強会、講習会など

【課題】

- ・会員の高齢化で活動できる会員が少ない。会員を増やすことが課題。

問 2 要望や苦情の多いサービス・貴団体が特に重要と考えるサービスは。

- ・軽度から重度、多様な人に対応できる居住サービスの構築(グループホーム、短期入所など)
- ・短期入所について、現在、月に1回程度しか利用できない。利用できる日数が増えるとよい。(2、3日の連続利用ができるとなおよい。)
- ・強度行動障がいや医ケア者(児)など重い障がいのある人も預けられる施設が必要。
- ・施設も職員が手薄である。質の向上、人材確保、人材育成が必要。
- ・家族が相談できる場所が必要。

問 3 今後、利用希望が増えると見込まれるサービスは。

- ・グループホーム、短期入所
- ・グループホームに入所していても、通院は家族がやっている。通院等介助の利用が増えるのではないか。
- ・相談できない家族もいる。そういう人たちをどう把握していくかが課題。

問 4 サービスを利用しやすくするために、どのような方法があるか。

- ・障害福祉サービスの内容や障害者年金など知らないことが多く本当に困ってからの相談となってしまうことから、市側からの周知方法など工夫が必要。

問 5 新型コロナウイルスの蔓延による貴団体や会員への影響について、どのようなことがあるか。

- ・通所施設の閉所や利用を控える旨の要請が多々あり、家族の疲弊、本人も日常のリズムが崩れ不安定となった。

問 6 市の相談支援体制・基幹相談支援センターの設置についての意見等

- ・基幹相談支援センターの設置については、ふらっと気軽に立ち寄れる相談場所であってほしい。
- ・保健福祉センターの1階にあるとよい。
- ・ネットワークを持っている、繋げられる人材が基幹には必要。福祉・民間ともに繋がる場所であってほしい。

問 7 その他

- ・障がい者を配慮した災害時支援体制整備をお願いする。

(6) 白井市精神障害者家族会しらゆりの会

■団体プロフィール

発足年月日:平成9年

会員数:15名

平均年齢(約):77歳

■調査結果

問1 活動目的や最近の活動状況、日常の団体活動における困りごとや課題等

【活動目的】

- ・精神障がい者を抱える家族の心のケア
- ・関連情報の収集、伝達及び共有
- ・問題への対応力の向上

【最近の活動状況】

- ・従来、定例会、勉強会、グループワーク(えんやこの会)等を行ってきたが、この2年半一同に会す活動を自粛

【課題】

- ・会員の高齢化と新規入会者がいないこと

問2 要望や苦情の多いサービス・貴団体が特に重要と考えるサービスは。

- ・訪問系サービスの充実強化

ひきこもりなど事業所に通えない当事者が多く、家族の負担が過重となっている。また、家族の高齢化に伴い、問題が深刻化している。医療系の訪問サービスに加え福祉系の訪問サービスの充実強化が望まれる。(自立できるような施設、ひきこもりの人たちのコミュニケーションが乏しく、自分一人で生活できるようになり、事業所に結びつけることができるとうい)

- ・地域活動支援センターの充実強化

生活訓練施設の利用期間の制約は、利用実態と乖離がある。利用期間の制約のない地域活動支援センター機能の事業所を充実する必要がある。

問3 今後、利用希望が増えると見込まれるサービスは。

- ・訪問系サービス

ひきこもり当事者及びその家族への支援の必要性が、より一層増加すると思料する。医療系及び福祉系双方の訪問サービスの充実を希望する。

・グループホーム・一人住まい支援体制

精神障がい者を対象とするグループホームが不足している。また、一人住まいの支援体制が不十分である。グループホームを敬遠する人もいる。家のままだがよい。家事援助ではなく、訪問して支援をしてくれるようなサービスがあるとよい。

問 4 サービスを利用しやすくするために、どのような方法があるか。

・サービスの告知方法の工夫

どのような障害福祉サービスがあるか、知らない家族が多い。サービスの概要をコンパクトに整理したものとよい。

・一元的に情報を受け取りやすい仕組みづくり

行政、相談支援事業者、サービス提供事業者、民生委員等の情報ネットワークを強化し、どこでも一元的に情報が得られるような仕組みを構築する。

問 5 新型コロナウイルスの蔓延による貴団体や会員への影響について、どのようなことがあるか。

・会員のほとんどが高齢者であるため、この2年半、定例会、その他一堂に会する活動の自粛を余儀なくされた。

・当事者のひきこもり傾向が更に強まっており、他に不登校が増加しているとも聞く。

問 6 市の相談支援体制・基幹相談支援センターの設置についての意見等

・相談支援体制について、当事者のニーズにあった事業所がない。

・相談支援員との相性があわないなど、精神は特に好き嫌いが多く難しい。支援者側の力量が必要であり、支援体制の充実をお願いする。

問 7 その他

・家族の支援

自助活動の支援、家族講座の開催、傾聴ボランティアの育成などが必要である。

・災害時対策

薬の受け渡しが円滑にできる体制の整備（災害時となると1週間では足りない。1か月は必要となる。薬剤師がいないと薬が提供できないでは困る。）

9-2 障害福祉サービス事業所

以下、各事業所からの個別の意見について、類似する内容を「中分類」「大分類」にまとめました。

① サービス利用者から特に多く上げられる要望や苦情とは。

大分類	中分類	個別の意見	意見種別
利用したいサービスの種類・メニュー	移動支援・通院介助	福祉有償運送（移送サービス）を利用しての通院やデイケア等の外出/通学・学校などの送迎の移動支援（同様2件）/通院介助/通所の移動支援	訪問 相談支援
	入浴サービス	ご両親の高齢化や怪我等によるヘルパーへの入浴介助の希望/生活介護での入浴サービス	訪問 生活介護
	医療的なケア	医療的なケア（吸引）への対応	訪問
	個別療育	集団での療育ではなく、個別で療育してほしい/個別指導の希望	児通所
	運動プログラム	運動量が少ないので、毎日運動のプログラムを取り入れてほしい。	生活介護
	送迎	送迎のサービスをしてほしい（同様3件）	児通所
利用時間・曜日等	長時間の利用要望	強度行動障がい強い方ほど長時間の利用を要望/日中の事業所終了後に利用希望/就労のため、朝の受け入れを早くしてほしい（8時30分よりも前に利用希望）/働きたいので保育園的な長時間支援希望（朝8時～17時以降など）/利用時間（送迎等）	訪問 生活介護 児通所
	変更の希望	当日（前日）のサービス時間、曜日の変更の依頼	訪問
	曜日の希望	日曜日の利用をしたい。	児通所
	回数の増	回数をもっと多く入りたい。（例 1/2W⇒1/W）/障害児通所支援利用者…上限10日が他自治体と比べ少なすぎる。	相談支援
支援者への要望	職員の固定化・質の向上	担当ヘルパーの固定化（同様2件）/担当ヘルパーとの相性（コミュニケーション能力やご利用者に近い年齢の方にしてほしい）や質（支援技術や配慮）	訪問
	職員の変更	担当職員との相性が合わず、担当変更等の申し出	就労支援
	専門職の配置・個別療育	看護師に、医療的ケアが必要な時間帯以外も常時いてほしい/言語聴覚士の療育が必要。	児通所
利用による目標の達成に向けた支援や相談	収入の獲得・工賃向上	（本人）働くスキルを身に着きたい。いずれは一般就労できるようにしたい。（家族）自分で収入を得て自立した生活をおくれるようになってほしい。親亡き後は年金とA型給料で生活を送ってほしい/工賃向上	就労支援
	集団生活への適応	コミュニケーションや話し方等、ルールを守るや集団生活が出来るようになる事。学校での過ごし方等	児通所
手続き簡素化		福祉サービス利用手続きの簡素化への要望。	相談支援
新型コロナウイルス感染予防		新型コロナウイルス感染症を持ち込まないように配慮してほしい。	訪問
道路・災害時避難のバリアフリー化		車椅子ご利用者…市内の道路等でまだまだ段差などもあり、移動のしにくさについて訴えあり/事業所がビルの3階にあるため、身体障がいなどの方の避難方法などが確立されていない。	就労支援

②利用者にとって必要性が高いのに、供給不足や利用条件の不一致により利用ができないサービスは。

大分類	中分類	個別の意見	意見種別
サービスの供給量による制限	グループホーム（身体・精神・重心・行動障がい）	身体的介助が必要な方の GH が少/精神科病院退院後に暮らす場が市内に少ない。精神障がいに対応した GH が少/軽度者向けの GH はあるが、重心や行動障がいを持つ方向けの GH に空きなし。	訪問 相談支援
	グループホーム（その他）	アパート型の GH が少ない/ GH 等	相談支援
		市内の GH⇒市内の移動の便を考えると自力通所のできる GH や拠点が少ないように思われる。	就労支援
	地域活動支援センター	行きたいときだけ行ける「地域活動支援センター」がない（同様 2 件）/地域活動支援センター（Ⅲ型・Ⅰ型）	相談支援
	生活介護（精神障がい対応）	精神障がい者を対象とした生活介護	
	就労継続支援 A 型・B 型	コミュニケーションに課題を持つ方が働ける A 型事業所/就労継続支援 B 型	就労支援
	日中一時支援事業	日中一時の事業所が不足しており希望通りに利用できない	相談支援 児通所
	居宅介護	居宅介護	
	障害児通所支援（身体・医療的ケア児・行動障がい等）	利用したい障害児通所支援の空きがない。希望の曜日に入れない/児童発達支援・放課後等デイサービス（医ケア、重度心身障がい児、身体障がい児が利用できる事業所が不足）（同様 2 件）/市内にはフラヴィキッズ以外なく、それ以外は市外までいかない/利用できない/身体障がいの児童や難病（医ケア）児の対応が出来ないなど受入側の準備が難しい。	
短期入所（医療的ケア・障がい児）	医療的ケア児が利用できる短期入所がない/障がい児が利用できる短期入所がない		
移動支援・行動援護・同行援護	移動支援/行動援護/同行援護		
人材不足によるサービス提供の制限等	時間帯・性別・医療的ケアなど個別のニーズに対応困難	通学、通所の支援、その他：ヘルパー不足（同様 2 件）。時間帯が合わない/入浴介助で性別、年代等希望されると対応できるヘルパーが限定/当日依頼の通院等介助・・・人員のアテンドができないことがある/喀痰吸引の資格を有するヘルパーが体調不良等の際、代替者を派遣できず/通院介助：サービスの時間が読めない。	訪問
		居宅介護－希望の曜日に入れるヘルパーさんがいない。重度の精神疾患のある方へのサービス提供を断られる場合がある。	相談支援
	行動援護、移動支援	行動援護、移動支援（余暇支援）が希望通り使えない。	

大分類	中分類	個別の意見	意見種別
人材不足によるサービス提供の制限等	障害児通所の専門職による療育	専門職（ST等）がいる事業所は特に空きがない/専門職による療育（放デイ）…空きがない/専門的な療育（児童発達支援）：スタッフ不足	相談支援 児通所
	医療的ケア児・重心児支援	医療型障害児入所支援、放課後等デイサービス（重心）スタッフ不足。在宅で過ごす児が増えるがそれに対応できる施設が少ない（スタッフ育成含め）。	児通所
	全般	資金不足、人材不足等が起こるのでは。	
サービスの利用条件による制限	院内介助	院内介助が認められていない方で病院側が対応してくれる場合はほぼない。病院側の人員に余裕もない。	訪問
	行動援護（時間）	冠婚葬祭やその他家庭の都合上に8時間以上したくても利用できない。	
	移動支援	通勤・通学に利用ができない。	
	短期入所	短期入所（利用条件の不一致）	相談支援
	支給決定量	コミュニケーション能力が低いお子さんであってもウイスク検査等で高い評価となると「支援はそれ程必要ないのではないか」と捉えられ、支給日数が減っている傾向にある。	児通所
移動手段のないことによる制限	こども発達センターへの移動手段	運転免許、自家用車がない。公共交通機関が近くにない又は障がい特性で利用ができない。	相談支援
	交通費助成送迎希望	交通の便が悪い/市外利用者：原則として送迎はしていないが、ニーズはある。市内利用者：乗車定員を超えることが考えられる/他市の利用者は、交通費の助成の有無があり、サービス利用につながらないことがある。利用者側も事業者側も地域生活支援事業に関して知らないこともある。	就労支援
指定サービス以外の支援	ピアサポートの場	ピアサポーター同士の集いの場。⇒就労継続を利用する方の中で、（特に精神の）障がいの自己受容をできていない方がいる。それらの方に必要な語りの場がないと思われる。	就労支援
	精神科医療機関	精神科医療機関/市内に精神科医療機関がない、北総鉄道が高額で移動手段も限られている。	相談支援
設備	療育の備品	前庭覚への入力を促したいお子さんが多いが、ゆれ遊具等が不足している。	児通所

③ 今後、需要・供給の状況に著しい変化が生じると思われるサービスをどのようにとらえているか。

大分類	中分類	個別の意見	意見種別
需要が増えると見込まれるサービス(指定障害福祉サービス)	グループホーム(重度者・行動障がい・精神障がい・他)	強度行動障がいのある方向けのホームが必要。居宅介護の利用者で、家族のひとりが倒れたらすぐにグループホームが必要と感じる方が複数いる/障がいが重度な方向けのグループホーム/GHの居住数が、行動障がいがある方は不足していく。需要と供給の差は開いていく一方と予想する/GHの需要は増えていくと思う。特に精神障がい者を対象としたところについては、選択できる程度に件数が増えてほしい/GH入所者の増加	訪問 相談支援 生活介護
	短期入所(緊急時対応)	緊急時に対応できる短期入所の施設。	就労支援
	地域移行・一般就労への移行	通過型のGHや、就労選択支援(仮名)などのサービスが新たに検討されているため、地域への移行や一般就労への移行が多くみられると考えられる。地域での包括的な支えや、支援機関の横のつながりが必要になってくると感じている。	
	移動支援・行動援護	移動支援・行動援護	相談支援
	生活介護	生活介護	
	居宅介護・重度訪問介護	居宅介護/重度訪問介護	
	居宅介護・移動支援・通院等介助(医療的ケア・重症心身障がい)	医療的ケアがある方へのサービス提供(居宅介護、移動支援、通院等介助)/医療レベルが高くなることで、医療ケア児、重症心身障がいの需要が増えてくる。	訪問 児通所
需要が増えると見込まれるサービス(障害児通所支援)	障害児通所・入所(重度者向け)	障がいが重度な児童向けの児童系サービス/重心の放デイ、入所支援⇒需要↑	相談支援 児通所
	軽度・グレーゾーンの利用児の増加	軽度のグレーゾーンのご利用者の需要が増えてくる/発達障がい(疑い)の子どもたちが増加する/障がいをお持ちのお子さんが増え、事業所が足りなくなることが予想されます。	児通所
需要が増えると見込まれるサービス(地域生活支援事業)	地域活動支援センター	地域活動支援センター/特に精神障がい者、発達障がい者、知的のボーダー域の方を対象にした地域活動支援センター。就労にもつかず、かといって知的障がいの施設に馴染めずといった行き場のない層はいると思うので、それらの方の集いの場、行き場がほしい。	就労支援 相談支援
	日中一時支援	他市では利益が見込めないと閉所してしまったり、放デイへ切替をしたりするなど今後の不安はあり/ご家族の高齢化による日中一時支援の要望	児通所 生活介護
	外出支援	ご家族の高齢化により、ご利用者が外出出来ないことが想定されるので、外出サービスの要望や日中一時支援のサービスが必要になることが想定される。	生活介護

大分類	中分類	個別の意見	意見種別
その他、需要が増えと見込まれるサービス等	高齢者の介護サービスへの移行	利用者の高齢に伴い高齢者介護サービスへの移行が考えられます。	就労支援
	成年後見制度	家族の高齢化に伴い成年後見制度の活用	
	ダイバーシティ就労	手帳を取得していない潜在的な利用者の発掘及びダイバーシティ就労へとつなげる支援体制作りが重要	
	ひきこもりの方への支援	引きこもり対象のアウトリーチや家族支援の需要が増えていくと思う。	
	不登校児支援	不登校の児童に対するメンタルフレンド活動。	
供給が増えと見込まれるサービス	グループホーム(軽度者向け)	障がい軽度な方向けのグループホーム/グループホームは供給過多になると思う。フランチャイズで異業種からの参入も増え、サービスレベルの低いGHは淘汰されると思う/グループホームの需要、供給バランスに変化が生じるか?	相談支援
	障害児通所支援給付	障がい軽度な児童向けの児童系サービス/障害児通所支援も一旦増えるがサービスレベルにより減少	
			放課後等デイサービス⇒供給過多
人材不足に対する懸念	ヘルパー	今後もヘルパー不足は続くと思われるため、需要が増えていくと対応が難しくなる。人材確保ができればサービスを提供できると思う(同様の意見3件)。	訪問
	相談支援専門員	相談支援専門員が少ないので仕事がまわらない。	
	専門職	専門職の機関がキャパオーバーになる。	児通所

④ サービス提供事業者、相談支援事業所、行政、他機関との連携に支障が生じるのはどのようなときか。

大分類	中分類	個別の意見	意見種別
関係機関との連携の支障	サービス担当者会議の未実施等	コロナ禍で担当者会議が書面上（照会）だけでの共有となる事が多く関係者全員の顔が見えず連携がとれないことがある/地域生活支援事業の提供事業者が、担当者会議に呼ばれないことがある。	訪問
	相談支援専門員との連携の困難さ	相談支援事業所と連絡がとれない状況も見られ、スムーズにサービスを開始できないことがあった/相談支援事業所の方が多忙なこともあるかもしれませんが同一サービス事業所の紹介を電話で口頭のみつないだ形となり、連絡先も不明なことがある。	就労支援
	相談支援専門員が1人の事業所の困難さ	当事業所は1人事業所であり、面談、移動等が日常の多くを占めており、当方と連絡がつかないことが多くあった。	相談支援
	連携全般の困難さ	関係機関が集まる場所や時間が少ない、機会がない/連絡の不行き届き、齟齬を生じる場合あり。	
	事業所の支援レベルの差	サービス担当者会議や関係者会議などで話をすると、それぞれの事業所の支援のレベルに差があり、利用者に不利益が生じている。	
	学校との連携困難さ	「個人情報ですのでお伝えすることが出来ません」と学校から言われることが多々あります。	児通所
行政との連携の支障	決定の遅延	行政は前例のない制度やサービスを利用する際に時間がかかったり、支給量が過少となる。	相談支援
	こども発達センターの利用	療育の必要性が高い児なのに発達センターにつながっていない。その旨伝えてもつながらなかった時。低年齢の子たちへのフォロー、情報共有。	児通所
業務量による支障	書類の多さ	関係機関と連携すると作成する書類が多い	相談支援
	多忙さ	何かあった時、時間がとりにくい/多忙により、互いに連絡が取れない時。相談の担当と連絡がなく、各児童のやり取りが難しい。	児通所
その他の支障・連携の必要性	地理的な課題	印旛圏域及び船橋市在住の利用者が在籍しているが、印旛圏域内でも車移動、電車移動に時間がかかるとの声を相談支援員より聞くことがあり、地理的条件の為に訪問しづらい様子が伺える。	就労支援
	セルフプランによる課題	地域によってはセルフプランの利用者が多く、必要以上の利用日数が支給されている事がある/セルフプランの利用者が多く、とりまとめを行うのが保護者のため初動の連携が行いづらい。	児通所
	多様な機関との連携が必要	相談支援事業所との連携のみならず、就労移行、定着からの紹介や GH や後見人との連携が必要になってくると考えております/介護、障がいの連携は必要	就労支援 相談支援

⑤ 現在、事業所運営上の最大の課題は。

大分類	中分類	個別の意見	意見種別
人材不足	量的な不足	人材不足・人材確保(同様意見多数)/人材不足につき。ご相談をいただいても人材不足によりお断りしなくてはいけない状況。ヘルパーや看護師の不足/人材不足(人件費捻出の問題。良い人材が来ない)/人材不足を少しでも解消するために補助金を出してくれるとありがたい/人材確保のため、この職業のやりがい、楽しさなどを伝えられると良い。	訪問 相談支援 就労支援 生活介護 児通所
	人材の高齢化	高齢化。	訪問
	専門職人材不足	ここ最近の看護師(病院)や保育士(保育園)での各市町村などの独自補助もあり平均所得の向上があり、福祉事業の報酬で払える年収と合わないことによる採用のしづらさ/看護師の不足/専門職の人材不足/現在すでに人手不足です。保育士、児童指導員の募集をかけているが全く応募がない。	訪問 児通所
	人材不足による業務量増加等	人材不足(人件費の問題がある)による仕事量の増加。…利用者工賃の向上を目指す分、職員の負担(残業)が増える/職員休暇の取りづらさ/時間の確保	就労支援
	資質向上の課題	地域にスーパービジョン体制が構築されておらず、人材育成が法人内のOJTに限られる/専門性、資格の取得によりスキル上達への自覚欠如(意欲も)	相談支援 就労支援
地理的不利益	関係機関が遠方	障害者就業・生活支援センターや中核地域生活支援センターが遠方であるので連携がとりづらい/精神科医療機関が市内に存在しないので、精神科医療機関との連携が希薄になりがち。	相談支援
	地域理解	地域理解…物件等が限られる。	児通所
	送迎の困難	送迎エリア外からのご利用の為、送迎が出来ない。	
業務量	担当数の多さ	担当ケース数が多く余裕を持った相談が行えない、ケースを減らすと事業所運営に経済的課題。	相談支援
	事務負担の多さ	国の施策では相談支援事業所の事務的負担軽減を打ち出しているが、市の施策は逆行している。	
利用者確保	利用者の偏り	ケース不足、利用者の偏り→経験不足の長期化・制度の理解不足→サービス向上等で対策可能。	就労支援
	利用者確保	事業所運営に関しては就職者の輩出と事業所利用者確保のバランスが取れない状況である。	
収入面	給付費が低い	相談支援事業に対する給付費があまりにも低い/単価が安価	相談支援
その他	アセスメントの形骸化	直Bに対する就労アセスメントが形骸化している(生活介護の利用者にB型の支給決定がされている等)	就労支援
	施設的环境	身体の子どもの受け入れを促したいが施設的环境上受け入れが難しいこと。	児通所

⑥ コロナの蔓延による利用者や事業者への影響について、どのようなことがあるか。

大分類	中分類	個別の意見	意見種別
利用者の困難	精神的不安	サービスの特性上、ご利用者と距離が近くなり食事介助や入浴介助、排泄介助等感染のリスクが高くなってしまった為、ご利用者の中には不安を抱えている方が多い(同様2件)/公共交通機関での外出の際、少し不安な所/新型コロナ感染が恐くて全く来られなくなってしまった方がいらっしゃいます。	訪問 児通所
	利用控え	日中活動への影響。コロナ感染警戒の為、巣ごもり状態の増加。	相談支援
	工賃減少	受注作業の減少による利用者工賃の減少。	就労支援
	機能低下	外出の機会を失われたことによる利用者の機能低下/ご利用者が濃厚接触者や陽性になってしまった時にご自宅で過ごす時間が長くなるので、生活リズムが乱れ、ADLの低下が起きてしまう。	就労支援 生活介護
	社会参加・交流の減少	行動が制限されることもあり、社会参加の機会が減少している/コロナウイルスの影響により、地域に出る機会や、地域の方が施設に訪問する機会が少なくなっている。(社会参加の機会の低下、生産物の販売の機会の減少など)	児通所 生活介護
	虐待リスクの上昇	ご自宅で過ごす時間が長くなり、ご家族の負担も大きくなることで虐待へつながる可能性も高くなる。	児通所
サービス提供に支障	ヘルパー派遣が困難	担当ヘルパーが濃厚接触者や体調不良になってしまった際に、代替のヘルパーを派遣する事が困難な場合がある。	訪問
	面談の困難さ	面談する場所や人数などの調整をする時間が増えた/自宅で面接が難しいことがある。	相談支援
	複数事業所利用に支障	別事業所への受け入れの困難さが増した。(コロナによって、他法人の事業所との併用が難しいことがあるようだ)	就労支援
	感染等によるサービス提供の不足	感染を気にして事業所を利用できない事が増えることで、利用者にとって必要な療育を提供できないことがある/職員の感染により、利用を控えてもらう事となり、療育が不足してしまう事がある。	児通所
	アセスメントの困難さ	子どもの成長・利用者、家族のニーズを捉えきれない事がある/利用者や家族に直接会えないことがあり、会えない不安が増えた。	相談支援
経営への影響	感染による報酬減	スタッフや利用者の感染等によりサービスの提供が減少。経済的に影響がある(同様5件)。/来店者減による収益の悪化/感染症の罹患は、現在7日間の通所停止を求めている。また、濃厚接触者の認定があった際には、在宅でのプログラムの提供をしているが、希望が分かれるため報酬が見込めないことがある/無症状でも決まった日数を自宅待機となることで利用者数が減ってしまうことも多々あった。	訪問 児通所 就労支援
	利用者の減	集団で起きると事業所を止めなければならない。利用者の方が減ってしまう。	児通所

大分類	中分類	個別の意見	意見種別
サービス提供者の困難	サービス提供者の精神的負担	他者に広めてしまうのではないかという担当ヘルパーにも精神的負担が発生している事がある。	訪問
	非日常業務の増加・感染予防対応	クラスターへの不安感は大きくあり、事業所の感染予防の徹底をしていきたい/事業所内での感染拡大による防御態勢による非日常業務/家族が感染し濃厚接触者となっているにも関わらず利用をさせようとする認識があった為、事業所へ持ち込まないように説明することが大変だった。	就労支援 生活介護
行政の支援の必要性		いつ終息するか分からないコロナの感染状況の中で各福祉サービス事業所に罹患者が発生すると利用者受け入れが難しくなる場合が多い。事業所としては当然の判断であるが、行政として人的・物資的など手厚いフォローを行うことで当事者・事業所を支援する必要がある。	相談支援

⑦ 市の相談支援体制・基幹相談支援センターの設置についての意見等

大分類	中分類	個別の意見	意見種別
基幹相談支援センターの必要性	スーパービジョンの必要性等	地域のスーパービジョン体制を構築するためにも基幹相談支援センターの設置は必要/基幹に近い機能を有している事業所があるので、急ぎで必要とは思わないが、県の構想で設置の促進を促している事から、ゆくゆくは必要かと思われる/基幹相談センターを設置すべき	相談支援
	地域移行支援・地域定着支援の必要性	基幹相談支援センターについて・・・地域移行支援、地域定着支援を重点的におこなう人材を確保してほしい。	就労支援
	地域の福祉育成の必要性	地域の福祉を育てていくためにも基幹相談支援センターは必要だと考えます。	生活介護
情報提供・情報共有の充実	事業所の周知	事業所の情報については、適度なお案内をいただくと幸いです。市内在住の方でも事業所を知らない方もいらっしゃるため、どんなサービスが市内にあるのか伝えることをしていただければと思います/福祉課の方達にも見学等に来て PR して頂けたら/市内在住の方に向けた事業所説明会などの企画を自立支援協議会などを活用し開催できたら。	就労支援
	相談窓口の周知	どんなことが相談できるか、駅や商業施設の掲示板など、人の目が付くところに掲示してほしい/ご利用者が困った時にどこに相談すればよいか周知されていることが重要/地域の方に身近な存在になってほしい。どこに連絡すれば相談できるか？	就労支援 生活介護
	適切な情報の共有	児について情報があいまいなまま紹介された。(発達センターとつながっていない。)	児通所
適切なサービス提供のための支援	セルフプランの解消	児童発達支援の場合、セルフプランだとどうやって利用をするのかわからない方が多くいるので、そうなっている要因を分析して解消に努めてほしい。	相談支援
	セルフプラン者の市によるアセスメント	セルフプラン利用者がサービスを利用する際に初期評価・初期アセスメントが無い状態。市でセルフプランで受付をする際はしっかりとアセスメントを取る必要がある(生活歴や既往歴含む)。	
	利用中止後のフォロー	仮に精神的な理由により自宅療養となった場合、その後の支援、途切れないよう支援して頂き復帰できるようなアプローチをして頂きたい。就労支援側としてはどこまで利用者へアプローチを図って良いのか判断が難しいため。	就労支援
自立支援協議会等の活性化	自立支援協議会は改めて参加者の人選が必要(市内にも事業所が増えてきたので参加を促したい)、また回数が少なく実効性に欠けるので形骸化しないようにワーキングレベルでの毎月開催が望ましい。/基幹相談、にも包括、医療的ケア児の協議の場等が形骸化しないように実効性を高める施策が必要。	相談支援	
人員体制・人材の充実	人員を増やし、障がい者を手厚く(もれなく)支援していく体制づくり。	就労支援	

⑧ 市の障害福祉計画又は障がい福祉行政全般に対する意見等

大分類	中分類	個別の意見	意見種別
市の施策・取り組みへの要望	支給基準日数・決定の迅速さ	それぞれのサービスで支給量の基準があるが、基準を超えた支給量を決定する際は迅速に決定してほしい。	相談支援
	書類作成の簡略化	効率的な相談業務を行うために、書類作成業務などは簡略化する必要がある。	
	事業所の理解	事業所の理解 事業所（運営状況、作業の様子、利用者の様子等）を知ること。	就労支援
	日中一時支援事業設置基準の策定	日中一時支援事業を単独でも行えるようになってほしい（現在は放デイの基準を満たしていないと開設できない。他の市では、単独でも可能となっているようです。）	児通所
	強度行動障がい・重症心身障がい・医療的ケア者を受け入れるための支援	強度行動障がいや重症心身障がい、医療的ケアの方を対応するにあたっては現状の報酬だけでは難しいと感じている。・計画の数値には「利用者数」としか表記されない。実際は様々な方を受け入れるため、受け入れが難しい方を受け入れ続けることができるような施策を行っていただけると助かる。	生活介護
人材育成の必要性	研修の開催	専門職を対象とした研修が県ではなく市でもあれば大変良いと思われま。	就労支援
		お子さんの発達の特長や発達段階について話をしても、共通の理解が得にくい。ぜひ発達センター、障害福祉課に勉強会を作ってください。（午前中）PM療育時間中の話し合いは人手不足のため厳しい。	児通所
	人材育成	人材育成が地域で行われていないので、法人内だけの育成となっているので法人格差が生まれる ※虐待に関する基準のずれ。	
教育の充実	インクルーシブ教育の推進	児童の支給基準日数を 10 日/月にしても良いが、インクルーシブ教育を同時に進めていく必要がある。	相談支援
	障害福祉教育の充実等	障がい福祉の充実が市民生活充実の礎、鍵を握る。（例：障がい疑似体験センターを設置し、学校教育や成人教育の一環として行う等）	
形骸化しないアセスメントの実施	就労アセスメント	本来、就労継続支援ではなく生活介護だと思われる方が就労継続支援へ希望がある。就労アセスメントを形骸化せずしっかりと利用者評価することが必要	就労支援
その他		今回のように積極的によこのつながりを作っただけの事はとてもありがたいです。他市の方と話す際、そういった集まりが皆無との話も聞く。また、システム導入など先進的な取り組みをされている。/現在、市の方々によって困難事例など各担当者へ相談させて頂くことが多々あり、多忙な中、お時間を頂けアドバイス下さっていると感謝しています。また利用者を通して気にとめて下さって有難い次第です。	相談支援 就労支援